

形態：講義	単位数：2 単位
概要	文学作品の理解には、その作品が生み出された歴史的・社会的な背景を知る必要がある。この授業では、19 世紀フランスの代表的な作家をとりあげ、彼らが自分たちの生きている時代をどのようにとらえ、その中からどういう新しい価値を持つ作品を創りあげていったのかを考察する。19 世紀の歴史や文学についての知識は、同じ時代の音楽作品の理解にも役立つだろう。
到達目標	19 世紀の歴史や文化、そして芸術について学びながら、小説や詩を理解するためのいろいろな知識を身につける。

授業計画		
第 1 回	古典主義からロマン主義へ	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 事後 18、19 世紀ヨーロッパの文化史の大きな流れについて整理する。
第 2 回	スタンダールの恋愛論	事前 配布するプリントでスタンダールの作品の抜粋を読んでおくこと。 事後 文学におけるロマン主義について整理する。
第 3 回	『夜のガスパール』について	事前 ラヴェル『夜のガスパール』について調べる。 事後 配布するプリントでベルトラン『夜のガスパール』の抜粋を読む。
第 4 回	『幻想交響曲』とロマン主義	事前 ベルリオーズ『幻想交響曲』について調べておくこと。 事後 さまざまなジャンルの芸術におけるロマン主義の展開について整理する。
第 5 回	ロマン主義からレアリスムへ	事前 19 世紀前半のヨーロッパの歴史について調べておくこと。 事後 レアリスムの特徴について整理する。
第 6 回	『椿姫』と『ラ・トラヴィアータ』（前半）	事前 配布するプリントでデュマ・フィスの小説『椿姫』のあらすじを読んでおくこと。 事後 教室で観るデュマ・フィス『椿姫』の映像について感想をまとめる。
第 7 回	『椿姫』と『ラ・トラヴィアータ』（後半）	事前 配布するプリントでオペラ作品の構成について理解しておく。 事後 ヴェルディ『ラ・トラヴィアータ』の映像を YouTube 等で視聴する。
第 8 回	小説に描かれた不倫	事前 配布するプリントを読んでおくこと。 事後 フローベール『ボヴァリー夫人』（河出文庫など）を読んでみる。
第 9 回	ボードレールとパリ	事前 配布するプリントでボードレールの詩の抜粋を読んでおくこと。 事後 ボードレール『パリの憂鬱』（岩波文庫など）を読む。
第 10 回	ゾラとパリ	事前 配布するプリントでゾラの小説『獲物の分け前』の抜粋を読んでおくこと。 事後 ゾラが小説で描いた頃のパリの、ファッションや街の姿を写真や文献で調べる。
第 11 回	19 世紀から見た未来世界	事前 配布するプリントでアルペール・ロビダの小説『20 世紀』の抜粋を読んでおくこと。 事後 アルペール・ロビダとジュール・ヴェルヌの SF 作品についてさらに調べる。
第 12 回	象徴主義と芸術	事前 ヴェルレーヌの詩による歌曲にどのようなものがあるか調べる。 事後 さまざまなジャンルの芸術における象徴主義の展開について整理する。
第 13 回	マラルメとドビュッシー	事前 ドビュッシーの作品『牧神の午後への前奏曲』について調べておく。 事後 ニジンスキー振り付けのバレエ『牧神の午後』の映像を YouTube 等で観ること。
第 14 回	ベル・エポック期の文化と社会	事前 配布するプリントでジャン・コクトーの作品の抜粋を読んでおくこと。 事後 エリック・サティとジャン・コクトーについて調べる。
第 15 回	まとめ	事前 今学期の講義のノートを見直しておくこと。 事後 配布するプリントを読んでおくこと。

フィードバック 授業時に提出する Reaction Paper にコメントを付して返却する。

成績評価 成績の評価は、授業への積極的な取り組み 30％と学期末に提出するレポート 70％による。

テキスト 教科書は特に用いないが、教室で必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

美学

※音楽療法士養成に関する科目

大学客員教授 牧野一泉	科目コード：HUM202
-------------	--------------

専門／学年：全専門／2 年次、専攻科

形態：講義	単位数：2 単位
概要	東西の美術作品を鑑賞し、初歩的な演習を通して、より具体的に学習する。 芸術作品が様々な文化的事象と深い関わりを持つことを、美術を通して、美学の体系的概説を考察する。 音楽を専攻する君達にとって、レクチャーとやさしい演習をします。

到達目標	本年は、桐板羽子板に膠テンペラ技法で「百合」を描く。 また水彩画を、ワトソン紙ボードに描き額装する。
------	---

授業計画	「美学の体系的概説と演習」
------	---------------

第 1 回	ガイダンス、授業内容と概説 羽子板、膠テンペラ、水彩画について	事前 「美学」とはどういう学問か調べておく 「テンペラ画」について調べておく 事後 音楽、美術、文学それぞれの美学は理解されたか確認する	110 分 170 分
第 2 回	表現と創造力 美術の用具について、演習にあたっての注意など 表現技法、主題とは何かなどを理解する	事前 美術の表現技法、テーマ主題とは何かなどを調べる 事後 美術特有の表現は理解できたか確認する	140 分 140 分
第 3 回	色とかたち 様々な作品を見ながらスケッチの方法、彩色の方法を知る 構図、構成という造形用語は理解できたか	事前 スケッチの方法、彩色の方法を画集で参考に見ておく 事後 日本独自の扇形、絵巻物、黄金比などを理解することはできたか確認する	140 分 140 分
第 4 回	水彩画、墨絵、パステル画 作品を鑑賞する	事前 水彩画、墨絵、パステル画を調べて、鑑賞しておく、 事後 顔料とはなにか、違いは理解できたか確認する	220 分 60 分
第 5 回	テンペラ画、フレスコ画 作品を鑑賞する	事前 テンペラ画、フレスコ画、それぞれの違いを作品で調べておく 事後 顔料とバインダーの関係をすることはできたか、特にテンペラ画について確認する	220 分 60 分
第 6 回	演習 1 テンペラ画 桐板下地作り桐板 8 ミリ厚を紙やすりで磨き表面を整え 膠を 2 回塗る 乾燥させる 紙やすりで磨き上げ防水処理する	事前 桐板、膠について調べておく 事後 膠塗りなど作業工程は、正確に把握できたか、確認する	250 分 30 分
第 7 回	演習 2 テンペラ画 石膏塗りと削り、ポローニャ石膏をフレイで細かくして、 膠液にひたす 泡立てないように何層にも塗る 乾燥させる	事前 石膏についてその性質を調べておくこと 事後 泡立てないように何層にも塗ることはできたか、どのような工夫をしたか確認する	250 分 30 分
第 8 回	演習 3 テンペラ画 画用紙に「百合」をスケッチしながら、形を理解する さまざまな角度から観察して、良い形を見つけスケッチする	事前 スケッチブックを準備しておく「百合」スケッチを持参する 事後 良い角度が見つかったか確認する	250 分 30 分
第 9 回	演習 4 テンペラ画 彩色、膠を使って顔料を溶き彩色する 絵具を溶くということ。バインダーと溶け合うということ	事前 膠の組成を調べておく 事後 絵具は溶けたか、形は写せたか確認する	250 分 30 分
第 10 回	演習 5 テンペラ画 彩色、膠を使って顔料を溶き彩色する 重色、混色を学ぶ	事前 重色とは何か調べておく 事後 色を重ねて塗ることはできたか確認する	250 分 30 分
第 11 回	演習 6 テンペラ画 彩色、膠を使って顔料を溶き彩色する 全体から細部へと、作品を完成させる	事前 混色とは何か調べておく 事後 加法混色と顔料の関係は理解されたか確認する	250 分 30 分
第 12 回	講評会	事前 作品を完成させる 事後 彩色と講評。友人の作品を見ながら講評会をする。苦心したこと、楽しかったことを確認する	110 分 170 分
第 13 回	演習 1 水彩画 風景画を描く 思い出の風景を描く、 構図とグランドラインについて理解する ワトソン紙を知る	事前 風景画の作品を見ておく 事後 構図の意味は理解されたか確認する	140 分 140 分
第 14 回	演習 2 水彩画 彩色 やわらかい筆は、なぜ必要なのか 水彩絵の具の種類を知る 水彩絵の具と紙 顔料のもつ性質は光と不可分であることを学ぶ	事前 水彩画の作品を画集で見ておく 事後 用具、素材の特色は、理解されたか確認する	80 分 200 分
第 15 回	演習 3 と講評会 印石を彫る 印を押して落款をいれ額装する	事前 作品を完成させる 事後 彩色と講評。友人の作品を見ながら講評会をする。苦心したこと、楽しかったことを確認する	110 分 170 分

フィードバック	授業の演習課題は作品講評会において、 レポートは解説添削により、それぞれ学習成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	レポート作品 50%、授業への積極的な取り組み 50%を総合的に評価する。
------	---------------------------------------

テキスト	必要に応じて教員が資料を用意する。 ＜参考図書＞『世界美術辞典』（1985 年 新潮社） / 『哲学小辞典』（1979 年 岩波書店）
------	--

オフィスアワー	授業後、教室にて受け付ける
---------	---------------

アクティブ・ラーニング	羽子板（桐材）に水彩画制作したり、各々デザインした百合の花を構図し、 彩色するテンペラ演習。最後に合評する。
-------------	---

備考	演習用具は準備しなくてもよい。 実技の教材費として 1,000 円を徴収します。
----	---

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・ 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバル な視野	社会的責 任・倫理観	生涯学習 意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐

法学（日本国憲法）

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関わる科目

非常勤講師 大久保優也

科目コード：SOC101

専門／学年： 全専門／1年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	法学（日本国憲法）では、憲法を中心に基本的な法の考え方を習得する。講義に際しては、日常的な問題から先端的な問題まで多岐にわたる問題を検討問題として用意し、受講生に実際に考えてもらい、応答してもらいながら進める。したがって、受講生が積極的に講義に関わることになる。なお、教員免許の取得を考えている人は必須単位となるので注意すること。
到達目標	1. 法学（日本国憲法）の基本的な知識を身につけること 2. 市民として自らの法的な思考を用いて考えられるようにする 3. 社会の様々な問題について考察し、そうした問題に対する意識を高める
授業計画	

第 1 回	法とは？：法と道徳の違い、悪法も法なのか？	事前 法に関する様々な問題を取り上げ、考察する。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	60 分 210 分
第 2 回	日本の裁判制度と刑事司法：裁判員になったらどうする？	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 3 回	憲法と人権：そもそも人権とは何か、子ども、外国人の人権	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 4 回	憲法と平等：就職・入試における男女差別、夫婦別姓、ジェンダー、再婚禁止期間、LGBT	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 5 回	自己決定権と新しい人権：インターネット上における人権など	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 6 回	表現の自由：「不快な」表現の自由も表現の自由か？	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 7 回	社会権：「最低限度の生活」とは？生活保護の問題、扶養義務	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 8 回	子どもの人権①：民法上の親の権利	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 9 回	子どもの人権②：子どもの学習権、懲戒権と子どもの人権	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 10 回	家族法の問題：結婚と離婚	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 11 回	経済的自由：経済活動はどこまで自由にできるのか？	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 12 回	憲法と労働基本権：「労働者」とは？労働基準法	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 13 回	契約と消費者保護：消費者被害に遭ったらどうする？	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 14 回	不法行為と損害賠償：不法行為責任、使用者責任、工作物責任	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分
第 15 回	全体を振り返って	事前 事前に配布された講義レジュメを読み、自分なりの問題点を検討しておく。 事後 講義レジュメの復習及び指定した資料を復習する。	130 分 140 分

フィードバック 授業内での課題や小レポートはもしくは授業内での解説を行う。

成績評価 授業への積極的な取り組み（授業態度、発言等）10%、授業内レポート 40%、試験結果 50%を総合して評価する。

テキスト レジュメを毎回配布する。その他については適宜、講義内で指示する。

オフィスアワー 毎回リアクションペーパーを配布し、授業その他に関する質問を受け付ける。

アクティブ・ラーニング 法学が関係する日常的問題、先端的な問題について、賛成・反対に分かれてディベートを行う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	□	□	□	□	□	☒	☒	□	☒	□	☒	☒	□	□	☒

社会学 ※音楽療法士養成に関する科目 大学非常勤講師 上羅廣 専門／学年：全専門／2 年次、専攻科		科目コード：SOC201
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	自分を時代や社会全体の中に位置づけ、自分がどのような存在として社会に生きているのかを認識し、その上で現代の社会現象とその問題点を把握する。さらに、短大で音楽を学んでいるので音楽社会学の一端を紹介しておきたい。	
到達目標	私たちは社会の中で、他の人々と関わり合いながら生活を営んでいる。自分がどのように他者とつながりながら社会を構成しているのかを、できるだけ具体的に理解することを目標とする。	
授業計画	「社会の中の自分」	

第 1 回	社会学とは何か。～社会学のイメージづくり	事前 中学・高校の社会科で学習した内容を思い出し、整理する。 事後 講義内容を復習する。	110 分 160 分
第 2 回	社会学の大きな流れ。～素描	事前 社会学者を一人だけ挙げ簡単に調べてくる。 事後 大まかな流れを復習し、著名な理論と社会学者を理解する。	110 分 160 分
第 3 回	日本社会と私 1～時代のなかの自分	事前 歴史年表で自分が生まれた前後 10 年間くらいの出来事を調べてくる。 事後 自分が生まれた時代がどのような時代であったのかを認識する。	110 分 160 分
第 4 回	日本社会と私 2～現代社会のなかの自分	事前 現代社会が自分にとってどんな時代かを簡単に言えるように準備してくる。 事後 現代社会のなかの自分の存在を相対的に認識し位置付ける。	110 分 160 分
第 5 回	他者と私～社会的行為のしくみ	事前 自分と関係のある他者にはどんな人がいるのか、事前に整理し図示してくる。 事後 他者と自分の基本的関係について理解する。	110 分 160 分
第 6 回	私の社会的行為と目標達成	事前 自分が実現したい夢・目標について考えてくる。 事後 夢の実現にはどうしたら良いか、認識し、自分で計画を紙に書いてみる。任意提出。	110 分 160 分
第 7 回	家族のなかの私 1～家族の構造の中で	事前 自分の家族、父親の家族、母親の家族の構成を調べてくる。 事後 家族を構造的に理解する。	110 分 160 分
第 8 回	家族のなかの私 2～家族の機能の中で	事前 家族の機能について考えられるものを列挙してくる。 事後 家族の機能について、総合的に認識し位置付ける。	110 分 160 分
第 9 回	家族のなかの私 3～少子・高齢社会の中で	事前 身の回りで意識できる少子化、高齢化の現象をいくつか挙げてくる。 事後 社会現象としての少子・高齢化を認識し理解する。	110 分 160 分
第 10 回	家族のなかの私 4～単身世帯増加の中で	事前 身の回りの単身世帯を挙げて、どのような世帯かを調べておく。 事後 単身世帯の増加によって生じる問題について認識し位置付ける。	110 分 160 分
第 11 回	音楽社会学概説 1～ウェーバーとジルバーマン、その他	事前 「音楽社会学」という用語を簡単に調べてくる。 事後 方法の違いについて認識する。	110 分 160 分
第 12 回	音楽社会学概説 2～アドルノ	事前 T. W アドルノについて簡単に調べてくる。 事後 アドルノの「音楽に対する態度の類型」について理解する。	110 分 160 分
第 13 回	音楽社会学概説 3～日本における西洋音楽導入期の社会と音楽	事前 中村紘子『ピアニストという蛮族がいる』中公文庫IV、Vを読んでくる。 事後 西洋音楽導入期の日本社会の音楽事情を理解し認識する。	110 分 160 分
第 14 回	音楽社会学概説 4～日本における西洋音楽導入期のピアニスト	事前 中村紘子『ピアニストという蛮族がいる』VI、VII、VIII、IXを読んでくる。 事後 西洋音楽導入期のピアニストの運命を理解する。	110 分 160 分
第 15 回	まとめ	事前 講義全体を振り返り、疑問の点を列挙してくる。 事後 全体講義を整理し、それぞれの考え方を理解する。	110 分 160 分

フィードバック 小テストなどについてコメントをつけ学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、試験、レポートなどを総合的に評価する。定期テスト 60％、小テスト 10％、課題 10％、授業態度 20％

テキスト 使用せず。参考文献、中村紘子『ピアニストという蛮族がいる』中公文庫

オフィスアワー E メールにて随時。wellatti@msb.biglobe.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒

形態：講義	単位数：2 単位
概要	心理学とは、自分も含めた人間の意識や行動の機能・機序を科学的に解明しようとする学問であり、広範な応用領域をもちつつ、学際領域にも貢献している。その素養は、芸術や教育、セラピーを学ぶ学生には欠かせないものと言える。

到達目標	授業目標は、基礎心理学を中心として、心理学全般にわたる大要を把握することである。
------	--

授業計画			
第 1 回	オリエンテーション：心理学とはなにか～定義・歴史・領域	事前 教科書はしがきを読む。 事後 授業ノートを見直しておく	40 分 60 分
第 2 回	心理学の研究方法	事前 プリント 1 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 3 回	感覚の一般特性	事前 教科書第 1 章第 1 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 4 回	知覚～視知覚を中心に	事前 教科書第 1 章第 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 5 回	記憶～感覚記憶、短期記憶	事前 教科書第 2 章 1, 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 6 回	記憶～長期記憶と知識表象	事前 教科書第 2 章 2, 3 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 7 回	知能～種々の理論	事前 教科書第 7 章を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 8 回	感情と欲求・動機づけ（１）～感情・情動	事前 教科書第 5 章第 1 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 9 回	感情と欲求・動機づけ（２）～欲求と動機づけ	事前 教科書第 5 章第 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 10 回	パーソナリティ（１）～性格の理論	事前 教科書第 8 章 3 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 11 回	パーソナリティ（２）～性格の形成	事前 教科書第 8 章 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 12 回	社会～対人認知と対人行動	事前 教科書第 10 章 2 節を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 13 回	社会～個人と集団	事前 プリント 2 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 14 回	文化と心理	事前 プリント 3 を読む。 事後 授業ノートを見直しておく	60 分 40 分
第 15 回	まとめ	事前 授業ノート全体を見直しておく 事後 試験後の解答について自分で確認・振り返る	80 分 20 分

フィードバック	授業での課題・ミニレポートなどについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	期末試験の成績と授業態度を総合しておこなう。試験成績 70%、受講態度 30%。
------	--

テキスト	相馬寿明（編著）『心理学 For you 』八千代出版 その他、必要に応じてプリントを配布する。
------	---

オフィスアワー	授業後教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。
---------	----------------------------

備考	この授業では基礎心理学を中心に、知能や感情、対人心理についても学ぶので、自分や他者の客観的理解に役立つはずである。
----	---

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 森田信一

科目コード：NAT202

対象コース／専門／学年： 全専門／2 年次、専攻科

形態：講義

単位数： 2 単位

概要	音響学では、音楽を演奏する際などに知っておく必要のある音響学的な知識を中心に扱う。音階と調律の仕組みを説明し、各楽器の発音の原理を扱う。音の響き方について室内やホールの空間についても学ぶ。
----	--

到達目標	まず、音階と調律の物理的な原理を理解すること。また、弦楽器（ピアノを含む）、管楽器、打楽器、電子楽器などの発音の仕組みを理解すること。また、室内やホールの構造とその音の響き方を理解し、より良い演奏と鑑賞のための知識を習得することをねらいとする。
------	--

授業計画	楽器や各種オーディオ機器、オーディオ資料、ビデオ資料などを活用して理解を深めるように進めていく。
------	--

第1回	音響学とは	事前 音響学という用語について、音楽との関係について本やインターネットで調べておく。	140 分
		事後 音響学で学ぶ項目について、授業で理解したことをまとめておく。	130 分
第2回	音階の歴史	事前 西洋音楽の歴史の中で音階に着目して調べておく。	140 分
		事後 授業で学んだ音階の種類についてまとめておく。	130 分
第3回	音階と調律の歴史	事前 音階における調律とは何かということについて調べておく。	140 分
		事後 調律の移り変わりについてまとめておく。	130 分
第4回	音階と調律の成り立ち	事前 調律の種類について調べておく。	140 分
		事後 音階、調律について学んだことをまとめてレポートを書く。	130 分
第5回	楽器の発音の仕組み（弦楽器）	事前 楽器の種類とその分類について調べておく。	140 分
		事後 弦楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。	130 分
第6回	楽器の発音の仕組み（管楽器）	事前 管楽器の構造について本やインターネットで調べておく。	140 分
		事後 管楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。	130 分
第7回	楽器の発音の仕組み（打楽器）	事前 打楽器の構造について本やインターネットで調べておく。	140 分
		事後 打楽器の発音原理について、学んだことをまとめておく。	130 分
第8回	楽器の発音の仕組み（電子楽器）	事前 電子楽器の構造について本やインターネットで調べておく。	140 分
		事後 電子楽器の発音原理にと構造について、学んだことをまとめておく。	130 分
第9回	録音について	事前 録音の歴史を調べておく。	140 分
		事後 録音という技術が生まれて発展してきた歴史についてまとめておく。	130 分
第10回	録音と音響機器	事前 録音に使われる機器について調べておく。	140 分
		事後 録音機器について学んだことをまとめてレポートを書く。	130 分
第11回	室内の音響	事前 主な音楽ホールの大さや収納人数、残響などについてインターネットで調べておく。	140 分
		事後 色々なホールについてまとめておく。	130 分
第12回	室内での録音	事前 音楽の演奏を録音する場合に使われるマイクについて調べておく。	140 分
		事後 室内での適切な録音の方法をまとめておく。	130 分
第13回	ホールの音響	事前 ホールの響きについて調べておく。	140 分
		事後 ホールの音響の色々なパターンについてまとめる。	130 分
第14回	ホールでの録音	事前 ホールに設置されているマイクについて調べておく。	140 分
		事後 ホールにおいてどのように録音が行われているかをまとめる。	130 分
第15回	全体のまとめ	事前 これまでの学習内容をまとめておく。	140 分
		事後 調律、楽器、室内やホールの響きについて学んだことをまとめ、授業全体のまとめをする。	130 分

フィードバック 各時間に書く小レポートについて、コメントをつけてフィードバックする。また、その内容について次の時間に復習として扱う。

成績評価 授業内での小レポートを合計して評価する。

テキスト 適宜プリントを配布する。
(参考資料) 楽器の科学 (日経サイエンス社, 1987), 楽器の音響学 (安藤由典, 音楽之友社, 1996)

オフィスアワー 集中講義のため、休み時間と授業終了後に教室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

音楽心理学

※音楽療法士養成に関する科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：NAT101

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	音楽心理学とは、音楽に関係した人間の行動とそれに伴う精神活動についての心理学である。音楽は、まず音として知覚され、構造をもつ「音楽」として認知（理解や記憶など）をされる対象であり、音楽聴取（および演奏）にはこの知覚と認知の二過程が必然的に含まれる。また、人は音楽の表現の中に美しさ、楽しさ、悲しさ、勇敢さなど様々な感情を感じ取ると共に、自分自身の中に強く深い情動をも喚起する。それはなぜか？その機序はどこまで分かったのかについて、最新の知見を講じる。
到達目標	授業の目標は、知覚や認知対象としての音楽について学び、そこから感情の喚起がどのように発生するかの仕組みにも関心を寄せつつ、聴取、演奏、作曲における心理学的原理を理解する。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：講義の目的・内容・進め方など	事前 教科書はしがきを読む 事後 授業ノートを見直しておく 20 分 60 分
第 2 回	音楽心理学の歴史と方法	事前 教科書第 1 章前半を読んでおく 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 3 回	音楽の多様な機能	事前 教科書第 1 章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 4 回	音楽の知覚（1）音高・絶対音感・協和感	事前 教科書第 2 章「音楽と音響」を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 5 回	音楽の知覚（2）音の大きさ、音色	事前 教科書第 3 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 6 回	音楽の認知（1）メロディの認知	事前 教科書第 4 章前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 7 回	音楽の認知（2）リズムの認知	事前 教科書第 4 章後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 8 回	音楽の記憶	事前 教科書第 5 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 9 回	音楽と一般認知能力：「モーツァルト効果」	事前 教科書第 6 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 10 回	音楽的感情の知覚	事前 教科書第 7 章の前半を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 11 回	音楽と感情の喚起	事前 教科書第 7 章の後半を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 12 回	音楽的感情についての諸理論	事前 教科書第 7 章全体を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 13 回	音楽行動の発達	事前 教科書第 8 章を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 14 回	音楽の進化心理学と音楽の意味	事前 プリントを読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 15 回	まとめ	事前 授業ノートを見直しておく 事後 試験の解答を自分で確認・振り返る 80 分 20 分
フィードバック	授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。	

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 70％、受講態度 30％。

テキスト 星野悦子（編著）『音楽心理学入門』（誠信書房）

オフィスアワー 授業後教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門／学年：全専門／1 年次、専攻科

形態：講義	単位数 2 単位
概要	人間の身体の仕組みについて、基礎を学習する。生体の恒常性を維持するための呼吸、循環、消化などの生理機能を理解すると共に、人間が自然環境や社会環境にどのように働きかけ、どのように適応しているかについて学習する。

到達目標 人間と環境、脳・呼吸・循環・代謝などに関する基礎を学び、生体の恒常性を維持する仕組みについて理解できること、また人間の環境適応のメカニズムについて理解できることを到達目標とする。

授業計画		
第 1 回	人間と自然環境、人間と植物・動物・微生物	事前 教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「人間の特異性、命の循環」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 2 回	人間の特徴、変化する環境への適応	事前 教科書の 1 章「地球環境と人間」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「変化する環境への適応」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 3 回	命の誕生、心身の発達と環境	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「ライフサイクル」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 4 回	感覚・運動機能と発達	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「感覚・運動機能と発達」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 5 回	脳と保育	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「脳と保育」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 6 回	心身の健康	事前 教科書の 2 章「人間らしさの発達と環境」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「心身の健康」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 7 回	呼吸の仕組み、血液、心臓の構造と働き、循環調節	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「呼吸の仕組み、血液、心臓の構造と働き、循環調節」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 8 回	消化吸収	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「消化吸収」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 9 回	神経の働き	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「神経の働き」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 10 回	体温調節とサーカディアンリズム	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「体温調節とサーカディアンリズム」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 11 回	体液の働き	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「体液の働き」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 12 回	体性感覚・特殊感覚	事前 教科書の 3 章「環境と人間の生理機能」を読み、概要をつかむ。 135 分 事後 「体性感覚・特殊感覚」をまとめ、理解し、復習する。 135 分
第 13 回	学習発表 1	事前 学習発表の準備をする。 135 分 事後 学習発表のまとめをする。 135 分
第 14 回	学習発表 2	事前 学習発表の準備をする。 135 分 事後 学習発表のまとめをする。 135 分
第 15 回	学習発表 3	事前 学習発表の準備をする。 135 分 事後 学習発表のまとめをする。 135 分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 レポート 30%、学習発表 40%、授業態度 30%

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著
参考図書 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社 2015、鈴木郁子編著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

備考 「医学概論」を履修する学生は、「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	☑	☑

医学概論

非常勤講師 鈴木郁子

科目コード：NAT203

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 生理学で身につけた知識の内容と関連づけながら、ストレス（外部環境によるストレス、身体的ストレス、心理・社会的ストレス、死へのストレス）への対応、生活環境と健康、環境問題と人間について学習する。ストレスへの対応に関連して、自律神経系・内分泌系について基礎的知識を身につける。心と脳、音楽と脳、医療と健康、音楽療法とストレスについて理解を深める。

到達目標 ストレス及びストレスへの対応について理解できることを到達目標とする。
音楽療法の意義について理解できること、地球環境問題に対応できる目を養うことを到達目標とする。

授業計画

第 1 回	ストレスとは、ストレスに関する学問の歴史	事前 教科書の 4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「ストレス学説」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 2 回	ストレスと自律神経系、自律神経系に関する学問の歴史	事前 教科書の 4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「ストレスと自律神経系」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 3 回	自律神経系の基礎	事前 教科書の 4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「自律神経系」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 4 回	ストレスと内分泌系	事前 教科書の 4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「内分泌系」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 5 回	外部環境によるストレス、身体的ストレス、痛み	事前 教科書の 4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「痛み」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 6 回	心理・社会的ストレス、死へのストレス	事前 教科書の「4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「心理・社会的ストレス」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 7 回	音楽と脳、音楽療法とストレス	事前 教科書の 4 章「ストレスへの対応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「音楽と脳、音楽療法とストレス」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 8 回	健康の概念、QOL	事前 教科書の 5 章「生活環境と適応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「QOL」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 9 回	病気の予防、免疫	事前 教科書の 5 章「生活環境と適応」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「病気の予防」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 10 回	生活環境と健康、アレルギー	事前 教科書の 6 章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「生活環境と健康、アレルギー」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 11 回	生活と地球環境問題	事前 教科書の 6 章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「地球環境問題」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 12 回	環境と生涯教育	事前 教科書の 6 章「環境教育と人間」を読み、概要をつかむ。	135 分
		事後 「環境と生涯教育」をまとめ、理解し、復習する。	135 分
第 13 回	学習発表 1	事前 学習発表の準備をする。	135 分
		事後 学習発表のまとめをする。	135 分
第 14 回	学習発表 2	事前 学習発表の準備をする。	135 分
		事後 学習発表のまとめをする。	135 分
第 15 回	学習発表 3	事前 学習発表の準備をする。	135 分
		事後 学習発表のまとめをする。	135 分

フィードバック 授業内で質疑を行う。

成績評価 レポート 30%、学習発表 40%、授業態度 30%

テキスト 教科書 やさしい環境生理学 地球環境と命のつながり 錦房出版 2019、鈴木郁子編著
参考図書 やさしい自律神経生理学 命を支える仕組み 中外医学社 2015、鈴木郁子編著

オフィスアワー 授業終了後、講義室にて

備考 「医学概論」を履修する学生は、1 年次の「生理学」を履修しておくことが望ましい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒

社会福祉

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 瓜巢由紀子

科目コード：SOC202

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：集中講義

単位数：2 単位

概要 社会福祉の対象は児童、障害児・者、高齢者、生活困窮者など多岐にわたり、さらにいえば全ての国民が対象である。そこで社会福祉の政策や法律などが私たちの生活の中にどのように活かされているかという基礎的知識を習得する。一方で、今日におけるわが国の社会福祉の課題について考え、これからの社会福祉のあり方についても習得し、社会福祉の理解を深めていく。

到達目標 ・社会福祉を広い視点で学び、基礎的知識を習得する。
・政策や法制度として社会福祉を理解するだけでなく、自らの生活に当てはめて社会福祉を理解できる。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 社会福祉のイメージ	事前	新聞記事やニュース等で社会の動きについて学ぶ。実習等で得た記録や資料等を復習する	140	分
		事後	教科書の指定ページを復習する	140	分
第 2 回	社会福祉とは何か	事前	教科書の指定ページを予習	140	分
		事後	教科書の指定ページを復習	140	分
第 3 回	私たちの生活と社会福祉の現状	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	配布資料にて復習	140	分
第 4 回	社会福祉の歴史	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	教科書の指定ページを復習	140	分
第 5 回	社会福祉の法制度	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	ワークシートにて復習	140	分
第 6 回	社会福祉の機関と施設	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	配布資料にて復習	140	分
第 7 回	利用者支援の基礎	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	配布資料にて復習	140	分
第 8 回	社会保障・公的扶助	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	ワークシートにて復習	140	分
第 9 回	子ども家庭福祉	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	教科書指定ページを復習	140	分
第 10 回	高齢者福祉	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	ワークシートにて復習	140	分
第 11 回	障害者福祉	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	教科書指定ページを復習	140	分
第 12 回	地域福祉	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	教科書指定ページを復習	140	分
第 13 回	社会福祉の専門職	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	教科書指定ページを復習	140	分
第 14 回	社会福祉の課題	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	教科書指定ページを復習	140	分
第 15 回	まとめ 試験内容の解説	事前	教科書指定ページを予習	140	分
		事後	理解不足な箇所の確認とその復習	140	分

フィードバック ワークシートや発表などついてコメントを付け、学習成果をフィードバックする

成績評価 試験 60％、ワークシート 10％、発表 10％、授業への積極的な取組 20％

テキスト 『よくわかる社会福祉【第 11 版】』山縣文治・岡田忠克編/ミネルヴァ書房
そのほか必要に応じてプリント等配布

オフィスアワー 授業後に教室にて

アクティブ・ラーニング ・グループワークを実施し、プレゼンテーションを行う
・ICT を活用した理論の可視化

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	□	□	☒	☒	□	□	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	

情報処理演習 I a,b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤助教 菊池由佳

科目コード：INF101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	Windows とワープロソフト（Word）の基礎知識を身につけ、文字入力、文書作成と編集、表や罫線の利用方法などの基本操作を学ぶ。一般的なビジネス文書、ポスター、プレゼンテーションなどの課題作成にも取り組む。

到達目標	急速な情報化の進展により、多様な情報を取捨選択し、活用することが求められるなか、各レポートやビジネス文書の作成、プレゼンテーションの発表などに必要な操作方法を学び、情報発信できる能力を身につける。
------	--

授業計画				
第 1 回	PC の使用・ファイル提出・テキストの説明 第 1 章 Word の基礎知識	事前	テキスト第 1 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 1 章のチェックリストで確認・復習	170 分
第 2 回	第 2 章 文字入力・保存 練習問題 第 3 章 STEP1～6 文書作成・社外文書の作成	事前	テキスト第 2・3 章 STEP1～6 まで読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 2 章練習問題・第 3 章の課題を復習	170 分
第 3 回	第 3 章 STEP7～9 文書作成・社内文章の作成 書式設定	事前	テキスト第 3 章 STEP7～9・P237 付録 2 を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 3 章の課題を復習	170 分
第 4 回	第 3 章 STEP10 文書の印刷・ページ設定 練習問題	事前	テキスト第 3 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 3 章練習問題を復習	170 分
第 5 回	第 4 章 表の作成	事前	テキスト第 4 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 4 章の課題を復習	170 分
第 6 回	第 4 章 表の作成 練習問題 第 5 章 文書の編集	事前	テキスト第 4・5 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 4 章練習問題・第 5 章の課題を復習	170 分
第 7 回	第 5 章 文書の編集 練習問題	事前	テキスト第 5 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 5 章練習問題を復習	170 分
第 8 回	総合問題 1・2・3・4	事前	テキスト第 1～5 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	総合問題を復習	170 分
第 9 回	第 6 章 表現力をアップする機能	事前	テキスト第 6 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 6 章の課題を復習	170 分
第 10 回	第 6 章 表現力をアップする機能 練習問題	事前	テキスト第 6 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 6 章練習問題を復習	170 分
第 11 回	第 7 章 便利な機能 練習問題・ファイルの互換性	事前	テキスト第 7 章・P263 付録 3「ファイルの互換性」を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	第 7 章の課題・練習問題を復習	170 分
第 12 回	PowerPoint の基礎 Word と共通機能でスライド作成	事前	テキスト第 3～7 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	総合問題の復習	170 分
第 13 回	PowerPoint の基礎 プレゼンテーション 文字編集・特殊効果	事前	テキスト第 3～7 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	総合問題を復習	170 分
第 14 回	総合問題 5・6・7・8	事前	テキスト第 5～7 章を読み、その概要をつかむこと	100 分
		事後	総合問題を復習	170 分
第 15 回	まとめ 理解度確認テスト	事前	テキストの全章チェックリストで理解度を確認・復習	100 分
		事後	テキストの全章チェックリストで理解度を確認・復習	170 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 80％・課題提出 10％・授業への積極的な取組 10％

テキスト 『Microsoft Word 2016 基礎』（FOM 出版）

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング ・授業で学習した文書の編集と、表現力をアップする機能・操作を活用して、デザインは自由にコンサートのちらしを学習課題として作成する
・課題提出後、学生各自のコンサートチラシをプロジェクトで投影し、学生同士で見ながら話し合い、色々なデザインの情報共有をした

備考 情報処理は毎回の演習の積み重ねが重要なので、その日の内容は次回の授業までに理解すること。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

情報処理演習 II

※音楽療法士養成に関する科目

非常勤助教 菊池由佳

科目コード：INF201

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習 単位数：2 単位

概要 Windows と表計算ソフト（Excel）の基礎知識を身につけ、表計算、グラフ作成、関数などの利用方法を学ぶ。実践的な表やグラフ、データベースなどの課題作成にも取り組む。

到達目標 日常生活における利便性の向上や仕事の効率化のために、コンピュータをどう活用すればよいかを考える。そして各分野で表やデータベースなどを作成し、情報を活用・発信できる能力を身につける。

授業計画

第 1 回	PC の使用・ファイル提出・テキストの説明 第 1 章 Excel の基礎知識	事前 テキスト第 1 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 1 章のチェックリストで確認・復習	100 分 170 分
第 2 回	第 2 章 データの入力 練習問題	事前 テキスト第 2 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 2 章の課題・練習問題を復習	100 分 170 分
第 3 回	第 3 章 表作成	事前 テキスト第 3 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 3 章の課題を復習	100 分 170 分
第 4 回	第 3 章 練習問題	事前 テキスト第 3 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 3 章練習問題を復習	100 分 170 分
第 5 回	第 4 章 数式の入力	事前 テキスト第 4 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 4 章の課題を復習	100 分 170 分
第 6 回	第 4 章 練習問題	事前 テキスト第 4 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 4 章練習問題を復習	100 分 170 分
第 7 回	第 5 章 複数シートの操作 練習問題	事前 テキスト第 5 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 5 章の課題・練習問題を復習	100 分 170 分
第 8 回	第 6 章 表の印刷 練習問題	事前 テキスト第 6 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 6 章の課題・練習問題を復習	100 分 170 分
第 9 回	第 7 章 グラフの作成	事前 テキスト第 7 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 7 章の課題を復習	100 分 170 分
第 10 回	第 7 章 グラフの作成 練習問題 第 8 章 STEP1～4 データベースの利用	事前 テキスト第 7 章・8 章 STEP1～4 まで読み、その概要をつかむこと 事後 第 7 章練習問題・第 8 章の課題を復習	100 分 170 分
第 11 回	第 8 章 STEP5 データベースの利用 練習問題	事前 テキスト第 8 章を読み、その概要をつかむこと 事後 第 8 章練習問題を復習	100 分 170 分
第 12 回	総合問題 1・2・3・4	事前 テキスト第 2～6 章を読み、その概要をつかむこと 事後 総合問題を復習	100 分 170 分
第 13 回	第 9 章 便利な機能 練習問題・ファイルの互換性・セキュリティ	事前 テキスト第 9 章・P285 付録 3「ファイルの互換性」を読み、その概要をつかむこと 事後 第 9 章の課題・練習問題を復習	100 分 170 分
第 14 回	総合問題 5・6・7・8	事前 テキスト第 5～9 章を読み、その概要をつかむこと 事後 総合問題を復習	100 分 170 分
第 15 回	まとめ 理解度確認テスト	事前 テキストの全章チェックリストで理解度を確認・復習 事後 テキストの全章チェックリストで理解度を確認・復習	100 分 170 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 80％・課題提出 10％・授業への積極的な取組 10％

テキスト 『Microsoft Excel 2016 基礎』（FOM 出版）

オフィスアワー 授業終了後教室にて

備考 情報処理は毎回の演習の積み重ねが重要なので、その日の内容は次回の授業までに理解すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐

到達目標 各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画				
【AL】				
第 1 回	Orientation 自己紹介	事前	教科書の目次を読み、内容をつかむ	80 分
		事後	自己紹介 writing	190 分
第 2 回	Unit 1 Nice to Meet You! Aoi Meets Emily Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 3 回	Unit 1 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 4 回	Unit 2 Making Plans to Travel Together Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 5 回	Unit 2 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 6 回	Unit 3 Taiwan: Experiencing Traditional Culture Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 7 回	Unit 3 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 8 回	Unit 4 Taiwan: Outside Taipei Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 9 回	Unit 4 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 10 回	Unit 5 Hong Kong: What a Wonderful Night View! Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 11 回	Unit 5 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 12 回	Unit 6 Hong Kong: Dinner on a Floating Restaurant? Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 13 回	Unit 6 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 14 回	Wrap-up (Unit 1-6)	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 15 回	Review (Unit1-6) 理解度確認テスト	事前	確認テストの準備をする	135 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	135 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業態度 50%】

テキスト Kiyoshi Yukitoki, Kyoko Imagawa, Anthony J. Parker “First Time Traveling Abroad”（松柏社）

オフィスアワー 授業開始前もしくは終了後、あるいはアポイントメントによって対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	□	□	☑	☑	□	□

英語Ⅰ-2	
非常勤講師 山内あゆ子	科目コード：ENG102
専門／学年： 全専門／1 年次	
形態：講義	単位数：2 単位
概要	英語Ⅰ-1 に引き続き、実用的な英語力と国際的な視野を持つ人材の養成を目指す。会話に必須の語彙、文法、興味深いトピックを取り上げて学ぶ。
到達目標	各 Unit でのトピックや表現を生きた英語で学び、使える英語の幅を広げる。

授業計画

【AL】

第 1 回	Unit 7 At Hong Kong International Airport: A New Friend Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	80 分
		事後	今日の授業内容を復習する	190 分
第 2 回	Unit 7 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 3 回	Unit 8 Thailand: The Land of Smiles Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 4 回	Unit 8 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 5 回	Unit 9 Singapore: A Multiethnic Society Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 6 回	Unit 9 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 7 回	Unit 10 Singapore: High Tea at the Raffles Hotel, Anyone? Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 8 回	Unit 10 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 9 回	Unit 11 Perth: Emily's Family Meets Aoi Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 10 回	Unit11 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 11 回	Unit 12 Perth: Where City Meets Outback Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 12 回	Unit 12 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 13 回	Unit 13 Sydney: The Harbour City Words and Phrases, Warm-up, Exercise 1, 2	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 14 回	Unit 13 Exercise 3, Challenge Corner	事前	教科書の該当箇所を予習する	135 分
		事後	今日の授業内容を復習する	135 分
第 15 回	Review (Unit 7-13) 理解度確認テスト	事前	確認テストの準備をする	135 分
		事後	理解不足の箇所を復習する	135 分

フィードバック 授業での課題について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度、テスト、課題などにに基づき総合的に行う。
【テスト 30%、課題 20%、授業態度 50%】

テキスト Kiyoshi Yukitoki, Kyoko Imagawa, Anthony J. Parker “First Time Traveling Abroad”（松柏社）

オフィスアワー 授業前後あるいはアポイントメントにより対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	□	□	☑	☑	□	□

専門／学年： 全専門／2 年次、専攻科

形態：講義 単位数：2 単位

概要 コミュニカティブ・アプローチのテキストを用いて、日常生活で頻繁に使われる基本的かつ機能的な言語の習得を目指す。語彙の習得から始まり、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングまで、総合的に学び、実践的な能力の向上をはかる。

到達目標 日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、リスニング能力の向上だけでなく、ペア・グループワークを多く取り入れて、スピーキング能力の向上をはかる。英語の歌や音楽をテーマにした映画等も随時扱う予定である。

授業計画			
第 1 回	Orientation 教科書や授業の進め方についての説明 自己紹介、英語の基本的な表現	事前 教科書の概要に目を通す	100 分
		事後 自己紹介の練習をする	100 分
第 2 回	Chapter 1 Amber ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 3 回	Chapter 1 Amber ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 4 回	Chapter 2 Material World ① Vocabulary, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 5 回	Chapter 2 Material World ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 6 回	Chapter 3 Symbol ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 7 回	Chapter 3 Symbol ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 8 回	Chapter 4 The Maori ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 9 回	Chapter 4 The Maori ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 10 回	Chapter 5 Manatees ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 11 回	Chapter 5 Manatees ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 12 回	Chapter 6 Followers of Fashion ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 13 回	Chapter 6 Followers of Fashion ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する	140 分
		事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分
第 14 回	Free time 映画を使った英語学習	事前 プリントなどで語彙や重要表現の予習をする	140 分
		事後 理解不足の箇所を復習する	140 分
第 15 回	Review (Chapter 1～6) 理解度確認テスト	事前 確認テストの準備をする	200 分
		事後 理解不足の箇所を復習する	160 分

フィードバック 答案返却などにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期テスト 60%、小テストと課題 20%、授業への積極的な取り組み 20%

テキスト 森田彰、Jeffrey Miller 他著 *BBC Short Clips on DVD* 『やさしい英語で学ぶ BBC ドキュメンタリー』（成美堂）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業の前後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒

英語Ⅱ-2

非常勤講師 高橋百合子

科目コード：ENG202

専門／学年：全専門／2 年次、専攻科

形態：講義	単位数：2 単位
概要	コミュニケーション・アプローチのテキストを用いて、日常生活で頻繁に使われる基本的かつ機能的な言語の習得を目指す。語彙の習得から始まり、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングまで、総合的に学び、実践的な能力の向上をはかる。

到達目標	日常生活で頻繁に使われる基本的な言語表現の習得を目指す。「英語Ⅰ」で学んだことをもとに、リスニング能力の向上だけでなく、ペア・グループワークを多く取り入れて、スピーキング能力の向上をはかる。英語の歌や音楽をテーマにした映画等も随時扱う予定である。
------	---

授業計画			
第 1 回	定期試験の解説 前期の復習	事前 前期の基礎事項を確認する 事後 試験の問題を復習する	100 分 100 分
第 2 回	Chapter 7 Food ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 3 回	Chapter 7 Food ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 4 回	Chapter 8 Water ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 5 回	Chapter 8 Water ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 6 回	Chapter 9 The Marsh Arabs ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 7 回	Chapter 9 The Marsh Arabs ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 8 回	Chapter 10 Stepping Out ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 9 回	Chapter 10 Stepping Out ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 10 回	Chapter 11 Medicine ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 11 回	Chapter 11 Medicine ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 12 回	Chapter 12 The Saami ① Vocabulary check, listening, visual comprehension	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	140 分 140 分
第 13 回	Chapter 12 The Saami ② Reading, group work	事前 教科書の該当箇所を予習する 事後 授業で学習した箇所を復習する	200 分 160 分
第 14 回	Free Time 英語による歌曲を使ったグループ学習	事前 英語の歌詞の意味を調べる 事後 グループ活動で学んだことをまとめる	140 分 140 分
第 15 回	Review (Chapter 7～12) 理解度確認テスト	事前 理解不足の点を調べる 事後 解説をもとに、各自まとめを行う	140 分 140 分

フィードバック 答案返却などにより、学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期テスト 60%、小テストと課題 20%、授業への積極的な取り組み 20%

テキスト 森田彰、Jeffrey Miller 他著 *BBC Short Clips on DVD* 『やさしい英語で学ぶ BBC ドキュメンタリー』（成美堂）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業の前後に対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒

専門／学年： 全専門／1～2 年次／専攻科

形態：講義	単位数 2 単位
概要	イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。イタリア語に初めて触れる学生が対象。 アルファベートと発音の練習からはじめ、初級文法の学習を中心としながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げてゆきたい。
到達目標	イタリア語のアルファベートと発音、名詞・冠詞・形容詞・動詞の用法を理解し、簡単な単語を使って基本的な挨拶や自己紹介ができるようになることが目標である。

授業計画	原則的に教科書にしたがって授業を進める。 履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。
------	--

第 1 回	アルファベートと発音（解説 副教材を使用）	事前 教科書に目を通し、付属 CD でイタリア語の音声を試聴 事後 配布教材を使い、授業内容の復習	120 分 150 分
第 2 回	アルファベートと発音（練習 副教材を使用）	事前 第 1 回の配布教材を使い、アルファベートと発音の練習 事後 配布教材を使い、授業内容の復習	120 分 150 分
第 3 回	Unità 1：名詞と形容詞（教科書 pp.6-9）	事前 教科書 Unità 1（pp.6-9）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 教科書巻末にある Unità 1 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 4 回	Unità 1：名詞と形容詞（pp.10-13）	事前 Unità 1（pp.10-13）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 1 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 5 回	Unità 2：essere と avere（pp.14-19）	事前 Unità 2（pp.14-19）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 2 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 6 回	Unità 2：essere と avere（pp.18-23）	事前 Unità 2（pp.18-23）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 2 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 7 回	Unità 3：are 動詞（pp.24-27）	事前 Unità 3（pp.24-27）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 3 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 8 回	Unità 3：are 動詞（pp.28-31）	事前 Unità 3（pp.28-31）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 3 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 9 回	Unità 4：are 動詞・ere 動詞・ire 動詞（pp.32-35）	事前 Unità 4（pp.32-35）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 4 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 10 回	Unità 4：are 動詞・ere 動詞・ire 動詞（pp.36-39）	事前 Unità 4（pp.36-39）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 4 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 11 回	Unità 5：piacere（pp.40-43）	事前 Unità 5（pp.40-43）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 5 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 12 回	Unità 5：piacere（pp.44-47）	事前 Unità 5（pp.44-47）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 5 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 13 回	Unità 6：再帰動詞・不規則動詞（pp.48-53）	事前 Unità 6（pp.48-53）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 6 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 14 回	Unità 6：再帰動詞・不規則動詞（pp.52-57）	事前 Unità 6（pp.52-57）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 6 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 15 回	アルファベートと発音、Unità 1-6 のまとめ	事前 アルファベートと発音、Unità 1-6 の復習 事後 授業内容の復習、期末試験の準備	120 分 150 分

フィードバック 授業中に行う小テストや期末試験については、答案添削や試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価	小テストや期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。 成績評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み（小テスト）20%、期末試験 80%
テキスト	遠藤礼子著 『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版』（白水社）

オフィスアワー 授業の前後

備考 イタリア語の辞書については初回の授業で紹介する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	☑	□	□

専門／学年： 全専門／1～2 年次／専攻科

形態：講義	単位数 2 単位
概要	イタリア語のもっとも基本的なしくみを学ぶ。伊語-1 からの継続講義。 動詞の用法を中心に初級文法の学習を進めながら、挨拶や日常のコミュニケーションに必要な語彙や表現を身につけてゆく。 語学を通じ、イタリアの社会や文化についても関心を広げたい。
到達目標	過去や未来の時制をはじめ、動詞の用法についての理解を深めて語彙も増やし、日常のコミュニケーションに必要な表現の基本を身につけることが目標である。

授業計画	原則的に教科書にしたがって授業を進める。 履修生のレベルや授業の進み具合により、計画を変更する場合もある。
------	--

第 1 回	Unità 1-3 の復習	事前 Unità 1-3 のテキストや解説の復習 事後 教科書巻末にある Unità 1-3 の練習問題の復習	120 分 150 分
第 2 回	Unità 4-6 の復習	事前 Unità 4-6 のテキストや解説の復習 事後 Unità 4-6 の練習問題の復習	120 分 150 分
第 3 回	Unità 7：補助動詞（教科書 pp.58-61）	事前 Unità 7（pp.58-61）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 7 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 4 回	Unità 7：補助動詞（pp.62-65）	事前 Unità 7（pp.62-65）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 7 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 5 回	Unità 8：近過去（pp.66-67）	事前 Unità 8（pp.66-67）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 6 回	Unità 8：近過去（pp.68-69）	事前 Unità 8（pp.68-69）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 7 回	Unità 8：近過去（pp.70-73）	事前 Unità 8（pp.70-73）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 8 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 8 回	Unità 9：半過去（pp.74-75）	事前 Unità 9（pp.74-75）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 9 回	Unità 9：半過去（pp.76-79）	事前 Unità 9（pp.76-79）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 10 回	Unità 9：未来（pp.80-81）	事前 Unità 9（pp.80-81）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 11 回	Unità 9：未来（pp.82-85）	事前 Unità 9（pp.82-85）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 9 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 12 回	Unità 11：命令法（pp.86-87）	事前 Unità 11（pp.86-87）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 11 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 13 回	Unità 11：命令法（pp.88-91）	事前 Unità 11（pp.88-91）のテキストや解説を読み、単語の意味と発音を確認 事後 Unità 11 の練習問題を行う	120 分 150 分
第 14 回	Unità 7-8 のまとめ	事前 Unità 7-8 の復習 事後 授業内容の復習	120 分 150 分
第 15 回	Unità 9-11 のまとめ	事前 Unità 9-11 の復習 事後 授業内容の復習、期末試験の準備	120 分 150 分

フィードバック 授業中に行う小テストや期末試験については、答案添削や試験後の解説などにより成果をフィードバックする。

成績評価	小テストや期末試験により、初級文法に関する理解度とその応用力をはかる。 成績評価配分（目安）：授業への積極的な取り組み（小テスト）20%、期末試験 80%
テキスト	遠藤礼子著 『Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版』（白水社）

オフィスアワー 授業の前後

備考 伊語-1（前期）の継続講義となるので、伊語-1 の単位取得者が対象。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	☑	□	□

保健体育講義

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：1 単位
概要	健康に影響を及ぼす身近な環境について学ぶとともに、生活習慣が原因で発症する疾患とその予防について理解を深める。

到達目標	“健康や体力づくりのために運動しよう”とする人が、楽しく安全に運動を行うために必要な、一人ひとりの身体の状態にあった適切な運動と実践方法を理解する。
------	--

授業計画	「身体 の健康を考える」
------	--------------

第 1 回	オリエンテーション よい健康状態を保つための条件	事前 事後	自分の現在の健康状態を確認する。 1 週間の生活を記録する（食事、運動、睡眠）	60 分 220 分
第 2 回	健康保持のための運動	事前 事後	1 週間の生活記録をまとめる。 自分の生活環境を見直す（身体活動時間）	120 分 160 分
第 3 回	健康と環境	事前 事後	身体活動時間をまとめる。 生活の中に身体活動時間を増やす工夫をし実践する。	60 分 220 分
第 4 回	現代社会と運動	事前 事後	生活習慣病とは何か調べる。 生活習慣の中で注意することを理解し実践する。	120 分 160 分
第 5 回	健康・体力づくりのための運動	事前 事後	自分に必要な運動とは何かふりかえる。 自分にあった運動を理解する。	60 分 220 分
第 6 回	運動プログラム作成	事前 事後	運動プログラムを作成する。 運動プログラムを実践する。	100 分 180 分
第 7 回	生涯スポーツとは	事前 事後	運動プログラム実践記録をまとめる。 生涯スポーツの実践を理解する。	220 分 60 分
第 8 回	自分にあった適切な運動	事前 事後	運動中の傷害を誘発する原因について調べる。 安全に運動するために応急処置の必要性を確認する。	140 分 140 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験 60%、課題 20%、授業態度 20%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

備考 課題について、グループ毎に協力し合う時間がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒

体育実技

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 荒金幸子

科目コード：PHY102

専門／学年：全専門／1 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	リズム体操、縄、ボール運動等動きを楽しみながら体育活動の意義を理解する。

到達目標	いろいろな運動を体験しながら、動作がうまくコントロールできる「身体づくり」を目指す。自ら伸び伸びと楽しく身体を動かすこと、運動やスポーツに親しむ態度・能力を身につける。
------	--

授業計画	「健康づくり～楽しく身体を動かそう～」
------	---------------------

第 1 回	手軽にできる体力・運動能力チェック	事前 初回の実技に向けてケガをしないからだの準備をする。	50 分
		事後 疲労が感じられる部分をケアする。	50 分
第 2 回	からだほぐし・からだを器用に動かしてみよう	事前 巧緻性を高める体操とは何か調べる。	40 分
		事後 からだを器用に動かす練習をする。	60 分
第 3 回	動いてみよう・動かしてみよう（縄になれよう）	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う。	40 分
		事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチを行う習慣を身につける。	60 分
第 4 回	動いてみよう・動かしてみよう（リズム縄跳び）	事前 縄跳びに必要な準備運動・体操を行う。	30 分
		事後 リズムに合わせて跳べるようにする。疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチを行う。	70 分
第 5 回	動いてみよう・動かしてみよう（ボールになれよう）	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う。	40 分
		事後 使った部分を中心にケアする。ストレッチを行う。	60 分
第 6 回	動いてみよう・動かしてみよう（ボールゲーム）	事前 ボール運動に必要な準備運動・体操を行う。	40 分
		事後 使った部分を中心にケアする。ストレッチに加え軽い筋力トレーニングを行う習慣を身につける。	60 分
第 7 回	ゲームを楽しもう基本編	事前 全身運動を取り入れケガをしないからだの準備をする。	30 分
		事後 ストレッチ、筋力トレーニングと全身がリラックスできる体操を行う。	70 分
第 8 回	ゲームを楽しもう応用編	事前 全身運動を取り入れケガをしないからだの準備をする。	30 分
		事後 ストレッチ、筋力トレーニング、全身がリラックスできる体操を行う。	70 分
第 9 回	リズムによって動いてみよう（動きを楽しもう）	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を取り入れることを心がける。	50 分
		事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50 分
第 10 回	リズムによって動かしてみよう（動きを工夫してみよう）	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を行う。	50 分
		事後 疲労が残らないようにケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50 分
第 11 回	身近な用具を使って動いてみよう	事前 からだを動かし体調の確認をする。有酸素運動を行う。	50 分
		事後 疲労が残らないようにケアする。身近な用具をつかったストレッチ、筋力トレーニングを工夫する。	50 分
第 12 回	ひと工夫した運動・ゲームを考えよう	事前 からだを動かし体調の確認をする。楽しかった運動・ゲームをアレンジする。有酸素運動を行う。	60 分
		事後 疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	40 分
第 13 回	ひと工夫した運動・ゲームを楽しもう	事前 運動・ゲームに必要な準備運動・体操を行う。有酸素運動を行う。	50 分
		事後 疲労が感じられる部分をケアする。ストレッチ、筋力トレーニングを行う。	50 分
第 14 回	運動会を企画しよう	事前 楽しく競える内容を考える。提案準備をする。	50 分
		事後 楽しく競える内容と方法であるかを確認する。	50 分
第 15 回	運動会を楽しもう まとめ	事前 運動会種目に合わせた準備運動・体操を行う。有酸素運動を行う。	50 分
		事後 積極的にからだを動かし体調管理ができる時間をもつように心がける。	50 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技 50%、態度 30%、提出物 20%とし総合的に判断する。

テキスト 必要に応じて資料を配布する。

オフィスアワー 授業前後に教室にて。

備考・必ず運動着、運動靴を着用する。
・運動制限のある学生は授業で申し出ること。また、忘れ物をした場合や体調不良などで見学したい学生は、授業開始前に連絡し指示を受けること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・ 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考 力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自 発的発信力	グローバルな 視野	社会的責 任・倫理観	生涯学習 意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒

初年次プログラム

学科長 教授 内田有一	科目コード：CAR101
専門／学年： 全専門／1 年次	

形態：講義	単位数：2 単位
概要	短大に入学した新入生は、2 年間という短い期間を有意義に過ごす事が重要である。このプログラムは入学後、半期にわたって大学での学修がよりスムーズに計れるよう、新入生のための勉学および生活牽引の講座である。

到達目標	初年次プログラムは、いち早く大学生生活に慣れるための移行時期に学習面から生活面に至るまでスムーズに適応できるよう総合的につくられたオムニバス形式の講義である。卒業後の人生を見据えて、キャリア・プランを立て、それに向けて計画的な履修をすることを目標とする。
------	---

授業計画	未定の部分は後日発表する。
------	---------------

第 1 回	古楽入門 古楽器、歴史的情報に基づいた演奏実践等古楽の様々な側面を紹介し、その今日的意義を考える。	事前 古楽に関する情報を集め、それを批判的に考察して自分なりの考え方を整理する。	180 分
		事後 様々な演奏を聞きそれぞれの特徴を比較する。	100 分
第 2 回	楽器（グランド・ピアノ）の扱い方／上野学園楽器室の楽器の借り方・返し方 上野学園図書館の利用方法	事前 楽器の取り扱いについて調べる 上野学園図書館の場所を確認する	140 分
		事後 楽器室に行ってみる 図書館で楽譜を閲覧してみる	140 分
第 3 回	3 つのポリシー／カリキュラムマップ・カリキュラムツリー、ナンバリング 自分の時間割を作る 卒業までに習得すべき科目や必要単位数を知り、履修計画を立てた上で一年次の時間割を作成する	事前 学生のためのハンドブック、履修計画表、講義要旨、授業時間表を読む	140 分
		事後 1 年次の履修シミュレーションを立ててみる	140 分
第 4 回	学内 PC の起動・操作方法	事前 パソコンを開き、基本的な用語を予習しておく	140 分
		事後 スムーズに文書が作成できるよう練習する	140 分
第 5 回	キャリア体験談（大学卒業生） 卒業後留学をし、現在演奏活動をしている先輩の体験談を聞き、自分のキャリアプランニングを考える	事前 事前に配布する資料をよく読む	140 分
		事後 自分の目標を再確認する	140 分
第 6 回	ボランティア入門 学長招待新入生歓迎会	事前 ボランティアについて調べる	140 分
		テーブルマナーについて調べる	
		事後 音楽でのボランティアを考える。	140 分
		レストラン等でマナーを実践する。	
第 7 回	キャリア体験談（短大卒業生） 短大を卒業して社会で活躍している先輩のお話を聞く	事前 音楽関係の仕事にはどんなものがあるか調べる	140 分
		事後 授業でメモを取り、学習の成果を取りまとめる	140 分
第 8 回	キャリア・プラン① 「音楽とともに働く」を考える。	事前 事前に配布する資料をよく読む	140 分
		事後 自分の進路についてもう一度よく考える。	140 分
第 9 回	SNS の適正利用	事前 SNS の利用方法について自分なりに調べてみる	140 分
		事後 講義内で学んだことを、実際に活かす	140 分
第 10 回	ライフ・プラン①（確井俊樹客員教授） 講師の確井氏は大卒後、すぐ海外に出られ、音楽家として演奏家に留まらず文化活動のクリエイターとして活躍中。講師の発想力、行動力の魅力の源点、ヒントを聴く。	事前 自分の将来プランを各自が思い描いてみる	140 分
		事後 プランを具体化させるために必要なスキルに焦点を定める	140 分
第 11 回	ライフ・プラン②（年金講座） 学生も今日、選挙権を有する一社会人としての自覚のもとに、自分と社会との関わり方を年金を通して学び理解を深める	事前 学生にとっての年金制度について、イメージしてみる	140 分
		事後 学生から社会人になっても安定した生活設計を描けるよう意識を高める	140 分
第 12 回	論文・レポートの書き方 大学において必須である論文やレポートを書くにあたっての基本的留意事項を学ぶ	事前 学生のためのハンドブックの該当項を読み理解する。 レポート用紙、筆記用具を用意する	140 分
		事後 再度確認し、本学の一員としての自覚を持つ	140 分
第 13 回	自分史 過去・現在・未来	事前 自分の誕生から今までをふりかえる	140 分
		事後 将来の自分を予想してみる	140 分
第 14 回	自校史 本学の成立、歴史を知る	事前 学生のためのハンドブックの「沿革」をよく読み、理解する	140 分
		事後 建学の精神を知り、本学の一員としての自覚を持つ	140 分
第 15 回	言語表現（私と音楽） 事前作文＋1 人 20 分の面接 面接日程は別途掲示にて通知される	事前 課題作文を書いて、期限までに大学事務部へ提出する	140 分
		事後 面接を通じて、自分と音楽との関わり方を再確認する	140 分

フィードバック 「言語表現」時に口頭で初年次プログラム全体のフィードバックを行う。

成績評価	授業への取り組み 60％ 授業態度 40％
------	-----------------------

テキスト	特になし
------	------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて対応する。
---------	-----------------

備考	入学直後ガイダンス時期から不定期に実施されるため日程を掲示板等で確認すること。
----	---

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☐	☐	☑	☑	☐	☐	☐	☑	☑	☑	☐	☑	☐	☑		☑

専門実技Ⅰ-1（ピアノ）

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子

科目コード：IND101

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	古典派の作品で読譜力・構成力・立体的表現力を身につける

到達目標	ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・運指・脱力を習得することを目標とする。
------	--------------------------------------

授業計画	前期 15 回 各人 50 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	事前 自分の演奏で何が不足しているかを考える 事後 1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分 420 分
第 2 回	基礎的なことの確認－姿勢－	事前 様々な椅子の高さで演奏を試み、最適な椅子の高さを探す 事後 椅子に座った時の姿勢を確認しながら演奏をする	420 分 420 分
第 3 回	基礎的なことの確認－打鍵－	事前 ピアノアンサンブルⅠで調べた打鍵のしくみを確認する 事後 打鍵を確認しながら、1 つ 1 つの音をしっかりと演奏する	420 分 420 分
第 4 回	基礎的なことの確認－脱力－	事前 体を動かして肘・手首の脱力を試みる 事後 肩・肘・手首に力が入らずに演奏できているかを確認をする	420 分 420 分
第 5 回	前期試験曲－前期試験に向けての勉強の仕方－	事前 作品を決め、読譜をはじめる 事後 作曲家について調べる	420 分 420 分
第 6 回	前期試験曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして、読譜をする 事後 正しい読譜ができているか確認をする	420 分 420 分
第 7 回	前期試験曲－形式－	事前 形式を考え、練習をする 事後 ソナタ形式について調べ、演奏に結びつける	420 分 420 分
第 8 回	前期試験曲－様式－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	前期試験曲－表現－	事前 表現方法を考えて練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す	420 分 420 分
第 10 回	前期試験曲－和声感－	事前 和声機能の確認をする 事後 和音の響きを確認する	420 分 420 分
第 11 回	前期試験曲－強弱－	事前 強弱の確認をする 事後 コントラストのつけ方の研究をする	420 分 420 分
第 12 回	前期試験曲－音色－	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探る 事後 曲のキャラクターを考え、練習をする	420 分 420 分
第 13 回	前期試験曲－より深い解釈－	事前 和音の響きを聴いているか確認をする 事後 声部それぞれが生き、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分 420 分
第 14 回	前期試験曲－より深い表現－	事前 表現を掘り下げて練習をする 事後 独自の表現ができているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	前期試験曲－仕上げ－	事前 オーディキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をするように心がけて、練習をする	420 分 420 分

フィードバック 前期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各実技担当教員のレッスン室で対応する。（各実技担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅰ-2（ピアノ）

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子	科目コード：IND102
-----------------	--------------

専門／学年：	ピアノ専門／1 年次
--------	------------

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要	ロマン派、近現代の作品で、表現能力・音楽性を身につける。
----	------------------------------

到達目標	表現力・音の色彩感を養うことを目標とする。
------	-----------------------

授業計画	後期 15 回 各人 50 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	オーディションの曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして読譜をする	420 分
		事後 正しい読譜ができているか確認して、練習をする	420 分
第 2 回	オーディションの曲－解釈－	事前 作曲時の時代背景を調べる	420 分
		事後 形式を考え、練習をする	420 分
第 3 回	オーディションの曲－表現－	事前 表現方法を考えて、練習をする	420 分
		事後 表現する上で最適なテンポを探す	420 分
第 4 回	オーディションの曲－仕上げ－	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探り練習をする	420 分
		事後 曲のキャラクターを考え、練習をする	420 分
第 5 回	後期試験曲－後期試験に向けての勉強の仕方－	事前 作品を決め、読譜をはじめる	420 分
		事後 作曲家について調べる	420 分
第 6 回	後期試験曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、意識をして読譜をする	420 分
		事後 正しい読譜ができているか確認をし、練習をする	420 分
第 7 回	後期試験曲－形式－	事前 形式を考えて、練習をする	420 分
		事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420 分
第 8 回	後期試験曲－様式－	事前 作曲時の時代背景を調べる	420 分
		事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分
第 9 回	後期試験曲－表現－	事前 表現方法を考えて、練習をする	420 分
		事後 表現する上で最適なテンポを探し、練習する	420 分
第 10 回	後期試験曲－和声感－	事前 和声機能の確認をして、練習をする	420 分
		事後 和音の響きを意識して、練習をする	420 分
第 11 回	後期試験曲－強弱－	事前 強弱の確認をして練習をする	420 分
		事後 コントラストのつけ方の研究をして、練習する	420 分
第 12 回	後期試験曲－音色－	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探り、練習をする	420 分
		事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	420 分
第 13 回	後期試験曲－細部の表現－	事前 アーティキュレーションスラーの確認をして、練習をする	420 分
		事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をして、練習をする	420 分
第 14 回	後期試験曲－細部の音色－	事前 タッチの確認をして練習をする	420 分
		事後 色彩感のある音を出しているか、確認をしながら、練習をする	420 分
第 15 回	後期試験曲－仕上げ－	事前 曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする	420 分
		事後 広い空間での響きを意識して、練習をする	420 分

フィードバック	オーディション・後期演奏試験の演奏について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％ 試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。
------	--

テキスト	適宜授業内に指示する。
------	-------------

オフィスアワー	各実技担当教員のレッスン室で対応する。（各実技担当教員レッスン日）
---------	-----------------------------------

備考	
----	--

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☐

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	様々な作曲家特有の語法を学ぶ。

到達目標 バランス・聴きとる力を養い、学内演奏会でのホール演奏に結びつける。

授業計画	前期 15 回、各人 50 分の個人指導。 実技演習においては、ピアノアンサンブルⅡ-1 の学内演奏会の曲の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	ガイダンス 1 年間の学習計画	事前 レパートリーに加えたい作品を選ぶ 事後 1 年間の目標を設定し、勉強方針を立てる	420 分 420 分
第 2 回	オーディションの曲－定期演奏会オーディションに向けての勉強の仕方－	事前 作品を決め、読譜を始める 事後 作曲家について調べる	420 分 420 分
第 3 回	オーディションの曲－読譜の確認－	事前 楽語を調べ、楽語を意識して、練習する 事後 正しい読譜が出来ているか確認をする	420 分 420 分
第 4 回	オーディションの曲－様式・形式－	事前 作曲家の時代背景を考える 事後 曲の形式を考える	420 分 420 分
第 5 回	オーディションの曲－和声感－	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和音の響きを意識して、練習をする	420 分 420 分
第 6 回	オーディションの曲－強弱－	事前 強弱の確認をして、練習する 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする	420 分 420 分
第 7 回	オーディションの曲－音色－	事前 作曲家の要求している音色を探る 事後 曲のキャラクターを考える	420 分 420 分
第 8 回	オーディションの曲－フレーズ感－	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	420 分 420 分
第 9 回	オーディションの曲－表現－	事前 表現方法を考える 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	420 分 420 分
第 10 回	オーディションの曲－テンポ感－	事前 最終的なテンポを設定する 事後 テンポの不自然なふらつきがないか、確認をする	420 分 420 分
第 11 回	学内演奏会の曲－様式－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 12 回	学内演奏会の曲－表現－	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探し、練習をする	420 分 420 分
第 13 回	学内演奏会の曲－強弱－	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習する	420 分 420 分
第 14 回	学内演奏会の曲－仕上げ－	事前 2 人でタッチの確認をして、練習をする 事後 色彩感のある音を出しているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	学内演奏会の曲－仕上げ－	事前 掘り下げた表現ができているか確認をする 事後 声部それぞれが生きており、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分 420 分

フィードバック 学内演奏会の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 学内演奏会 60%、課題 20%、授業態度 20%

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	より高度なテクニック・より深い音楽表現・より豊かな表現力を習得する。

到達目標 楽曲にあった音色・音楽表現を追及し、オーディション・卒業演奏試験で質の高い演奏を目指す。

授業計画	後期 15 回、各人 50 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。		
第 1 回	オーディションの曲－細かいニュアンス	事前 タッチの確認をして、練習する 事後 色彩感のある音を出しているか確認して、練習する	420 分 420 分
第 2 回	オーディションの曲－響き－	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 事後 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分 420 分
第 3 回	オーディションの曲－仕上げ－	事前 曲のイメージをしっかりと捉えて、練習をする 事後 掘り下げた表現ができているか確認をする	420 分 420 分
第 4 回	オーディションの曲－仕上げ－	事前 広い空間での響きを意識して、練習をする 事後 全体の流れを確認する	420 分 420 分
第 5 回	試験曲－卒業演奏試験に向けての勉強の仕方－	事前 作品を決め、読譜をする 事後 作曲家について、調べる	420 分 420 分
第 6 回	試験曲－読譜の確認－	事前 楽譜を調べ、楽譜を意識して、練習をする 事後 正しい読譜が出来ているか、確認をする	420 分 420 分
第 7 回	試験曲－形式－	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉えて、練習をする	420 分 420 分
第 8 回	試験曲－様式－	事前 作曲時の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	420 分 420 分
第 9 回	試験曲－表現－	事前 表現方法を考える 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	420 分 420 分
第 10 回	試験曲－和声感－	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和音の響きを意識して、練習をする	420 分 420 分
第 11 回	試験曲－強弱－	事前 強弱の確認をして、練習する 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする	420 分 420 分
第 12 回	試験曲－音色－	事前 作曲家の要求している音色を探る 事後 曲のキャラクターを考える	420 分 420 分
第 13 回	試験曲－細部の表現－	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	420 分 420 分
第 14 回	試験曲－細部の音色－	事前 タッチの確認をする 事後 色彩感のある音を出しているか確認をする	420 分 420 分
第 15 回	試験曲－より深い解釈－	事前 和声の響きを聴いているか確認をして、練習する 事後 声部それぞれが生きて、立体的な演奏になっているか確認をする	420 分 420 分
フィードバック	オーディション・卒業演奏試験の演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。		

成績評価 卒業演奏試験の評価が 50 点以上であること。卒業演奏試験 60%、課題 20%、授業態度 20%
試験にレッスンへの取り組み等を加味して、総合的に評価。なお、評価は複数教員（ピアノ実技担当教員）による。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

専門実技Ⅰ-1（器楽）

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久	科目コード：IND101
--------------	--------------

専門／学年：器楽専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標	個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。前期試験に向けて計画を立て学修する。
------	---

授業計画	前期 15 回 各人 50 分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。		
第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前 入学前の学習を確認し学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（装飾法を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード バロック時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 9 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 13 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 前期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、前期試験に向けて練習する	420 分 420 分

フィードバック 前期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価	実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％ なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。
------	--

テキスト 各教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅰ-2（器楽）

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久	科目コード：IND102
--------------	--------------

専門／学年：器楽専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要 この授業は学習の最も中心となる各自の専門実技をレッスン形式で学ぶものである。

到達目標	個々の能力、状況に応じて基本を学び、ベーシックな作品から高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。後期試験に向けて計画を立て学修する。
------	---

授業計画	後期 15 回 各人 50 分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 ・各学生の能力を見極め、基礎的なテクニックについて適正な課題を用い指導する。 ・オーソドックスな作品を中心に、正しい技術に基づいた演奏法を学ぶ。			
	第 1 回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分	
		第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方をを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分	
		第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分	
		第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード 古典時代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分	
		第 9 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（時代背景を学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ後期試験曲を学ぶ	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分	
		第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（テクニックを学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（音楽表現を学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分	
		第 13 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分	
		第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 後期試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、後期試験に向けて練習する

フィードバック 後期試験の後、実技担当教員、試験審査教員からコメントを受ける。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各教員から教則本、楽曲等の指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は、各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門／学年：器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	専門実技Ⅱ-1 は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標	個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。
------	--

授業計画	前期 15 回 各人 50 分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。
------	---

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	一年次の学習を確認し学習計画案を立てる	420	分
		事後	学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420	分
第 2 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 3 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方をを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 4 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（演奏スタイルを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 5 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 6 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 7 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 8 回	音の研究、音階練習、エチュード ロマン派時代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 9 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 10 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方をを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 11 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（テクニックを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 12 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 13 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 14 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420	分
第 15 回	音の研究、音階練習、エチュード 学内演奏会用の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前	ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる	420	分
		事後	問題箇所を確認し、学内演奏会に向けて練習する	420	分

フィードバック 学内演奏会の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価 学内演奏会において評価する。評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。

テキスト 各実技教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（器楽）

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND202

専門／学年：器楽専門／2年次

形態：実技	単位数：2単位
概要	専門実技Ⅱ-2は学習の最も中心となる各自の専門実技を個人レッスン形式で学ぶものである。

到達目標	個々の能力、状況に応じて、より高度な作品へと取り組みながら、豊かな表現力と個性を伴った演奏を可能とするために、総合的演奏技術の向上を目指す。
------	--

授業計画	後期 15 回 各人 50 分の個人指導 以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。 技術の充実をめざすと共に、その応用として様々な作品をとりあげ、音楽を表現する方法について深く研究する。
------	---

第1回	後期の学習計画を立てる	事前 前期の学習を確認し後期の学習計画案を立てる 事後 学習計画を確認し、楽譜等今後必要な準備をする	420 分 420 分
第2回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第3回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（楽譜の読み取り方を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第4回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（テクニクを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第5回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（音楽表現を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第6回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第7回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第8回	音の研究、音階練習、エチュード 近代・現代の楽曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第9回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（時代背景を中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第10回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ後期試験曲を中心に	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第11回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（テクニクを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第12回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（音楽表現を学ぶ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第13回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（ピアノとの音程合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第14回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（ピアノとの表現合わせを中心に）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	420 分 420 分
第15回	音の研究、音階練習、エチュード 卒業演奏試験曲を学ぶ（仕上げ）	事前 ロングトーン、音階練習等の基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、卒業演奏試験に向けて練習する	420 分 420 分

フィードバック 卒業演奏試験の後、実技担当教員、器楽実技教員からコメントを受ける。

成績評価	実技試験・卒業演奏試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％ なお、試験審査は複数教員（弦管打楽器実技担当教員）による。
------	---

テキスト 各実技教員から指示あり。

オフィスアワー 各実技担当教員研究室（各実技担当教員レッスン日）

備考 1 回あたりの時間数（事前・事後）は各教員からの指示がある。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

専門実技Ⅰ-1（声楽）

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直	科目コード：IND101
--------------	--------------

専門／学年：声楽専門／1 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱に必要な基礎技術を習得する。すなわち正しい姿勢、腹式呼吸による自然な発声を身につける。

到達目標	エチュード、イタリア古典歌曲を中心題材として歌唱の基本技術を体得することを目標とする。 声楽の技術、音楽を学び、実技試験等に向け表現力を養う。
------	--

授業計画	各人 50 分の個人指導 試験課題は、任意の歌曲 1 曲。
------	----------------------------------

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	90 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 読譜、音程・リズムを正確に読む	事前	練習曲④ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	練習曲⑤ 課題曲③ 母音と子音の明確化	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 2 詩（ディクション）と音（メロディー）との関わり方	事前	練習曲⑥ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲③、課題曲④ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 8 回	前期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前	課題曲③、課題曲④ 暗譜して練習する	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 暗譜の確認と表現法の研究	210 分
第 9 回	前期試験曲を選ぶ 試験曲の読譜	事前	前期試験曲の譜読み、楽譜を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の音程、リズムを正確に読む練習	210 分
第 10 回	前期試験曲を学ぶ 1 音程・リズムを正確に読む	事前	前期試験曲の言葉（単語）の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 問題点の認識と解決をはかる	事前	前期試験曲、伴奏合わせを繰り返す	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに確認、練習をする	210 分
第 14 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 3 暗譜を確かなものとする	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	前期試験曲、内容を考えながら伴奏者と合わせる	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしながら伴奏合わせをくり返す	90 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック	試演、試験後に個人面談のかたちで学修成果をフィードバックする
---------	--------------------------------

成績評価	実前期演奏試験、評価は複数の教員による採点。
------	------------------------

テキスト	コンコーネ 50 番 他 イタリア古典歌曲集 等 担当教員より、ガイダンス及び授業内にて適宜指示する。
------	---

オフィスアワー	各教員の出校日 各教員のレッスン室
---------	----------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅰ-2（声楽）

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直	科目コード：IND102
--------------	--------------

専門／学年： 声楽専門／1 年次

形態：実技 単位数：2 単位

概要 個人レッスンの形態で、声楽の基礎技術および音楽を学ぶ。日本歌曲を含む歌唱技術と表現力を身につける。

到達目標 ディクショ ン（詩・韻律）と音楽（旋律）との深い関わりを認識し、技術と表現力を向上を目標とする。
前期の学習を踏まえ、発声、エチュード、イタリア歌曲及び日本歌曲にて声楽の基礎の確立を目指す。

授業計画 各人 50 分の個人指導
試験課題は、日本歌曲および自由曲。上記を題材とし、読譜力、解釈力、演奏様式を身につける

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の選曲と譜読み	210 分 210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲⑤及び⑥の譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥を音程、リズムに注意して練習する	210 分 210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥を言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 4 回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	事前 課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考える 発音練習する 事後 課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210 分 210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究、楽譜の意味を知る	事前 課題曲⑤及び⑥、強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥、表現、テンポを考えながら練習	210 分 210 分
第 6 回	後期試験曲を探る 読譜、音程・リズムを正確に	事前 課題曲⑦ 譜読み 事後 課題曲⑦ 音程、リズムを正確に読む	210 分 210 分
第 7 回	後期試験曲を選ぶ 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 課題曲⑦ 発音練習母音と子音の明確化 事後 課題曲⑦ 表現、テンポを意識する	210 分 210 分
第 8 回	後期試験曲を学ぶ 1 表現法の研究、楽譜を読みこむ	事前 課題曲⑦ 単語の意味を調べる 事後 課題曲⑦ 単語及び詩の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 9 回	後期試験曲を学ぶ 2 テンポの変化、強弱他を意識する	事前 課題曲⑦ 曲の内容を把握する 事後 課題曲⑦ 曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 10 回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	事前 課題曲⑦ 言葉の意味、時代背景等調べる 事後 課題曲⑦ 言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 11 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前 課題曲⑦ 単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする 事後 課題曲⑦ 詩の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 12 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 2 楽曲の研究を深める	事前 課題曲⑦ 伴奏あわせをする。 強弱他音楽用語を調べる 事後 課題曲⑦ 伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 3 楽曲の研究を深め、暗譜をする	事前 課題曲⑦ 伴奏合わせを繰り返し、暗譜練習する 事後 課題曲⑦ 呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 4 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにす	事前 課題曲⑦ 伴奏者とともに表現方法を工夫する 事後 課題曲⑦ 曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210 分 210 分
第 15 回	後期のまとめ	事前 課題曲⑦ 伴奏者とともに 暗譜の確認 事後 課題曲⑦ 伴奏者とともに 曲の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック オーディション、定期演奏会等後に個人面談の形で、後期を振り返り、成果や次の課題を話し合う

成績評価 後期演奏試験、複数の教員による採点。

テキスト コンコーネ 50 番 他
曲目は個々の状況に合わせ、適宜選択する。

オフィスアワー 各教員の出校日
各教員のレッスン室

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	☑	☑	□	☑	□	☑	□	☑	□	□	☑	□	□	□

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標	1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを拡げながら発声法・技術の向上を目指す。
------	---

授業計画	毎週 50 分、15 回の個人指導。学内演奏会（独唱または重唱、器楽のオブリガードを伴う楽曲を含む）に向け、技術及び表現を身につける
------	--

第 1 回	前期の学習計画を立てる	事前	これまでの学習内容を整理する	90 分
		事後	練習曲① 課題曲① 読譜、練習をする	210 分
第 2 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 1 姿勢、呼吸法を中心に	事前	練習曲① 課題曲① 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲② 課題曲② 読譜、練習をする	210 分
第 3 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 2 ストレッチ、発声法を中心に	事前	練習曲② 課題曲② 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲③ 課題曲③ 読譜、練習をする	210 分
第 4 回	発声の基礎および歌唱技術の習得 3 母音、子音の明確化	事前	練習曲③ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む	210 分
		事後	練習曲④ 課題曲④ 読譜、練習をする	210 分
第 5 回	歌曲、楽譜を読み込む 1 詩（ディクショ）ン）と音（メロディー）との関わり方、楽譜の意味	事前	練習曲④ 課題曲③ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	練習曲⑤ 課題曲③ 母音と子音の明確化	210 分
第 6 回	歌曲、楽譜を読み込む 2 詩の内容を理解する	事前	練習曲⑥ 課題曲④ 音程、リズムを正確に読む 発音練習	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 言葉の意味を調べる	210 分
第 7 回	声のカテゴリーを踏まえ、複数の課題曲を選択 前期試験を意識する	事前	課題曲③、課題曲④ 詩の内容を考える	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ テンポ、強弱等意識して練習する	210 分
第 8 回	前期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前	課題曲③、課題曲④ 暗譜して練習する	210 分
		事後	課題曲③、課題曲④ 暗譜の確認と表現法の研究	210 分
第 9 回	前期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	事前	前期試験曲の譜読み	210 分
		事後	前期試験曲の音程、リズムを正確に読む練習	210 分
第 10 回	前期試験曲を学ぶ 1 母音と子音の明確化	事前	前期試験曲の言葉（単語）の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習	210 分
第 11 回	前期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前	前期試験曲の単語、文章の意味を考える	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容を考えながら練習、楽譜の意味を考える	210 分
第 12 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前	前期試験曲の内容と強や、音楽用語の意味を調べる	210 分
		事後	前期試験曲の詩の内容と強弱他を考えながら練習	210 分
第 13 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 2 問題点の認識と解決をはかる	事前	前期試験曲、伴奏合わせを繰り返す	210 分
		事後	前期試験曲、呼吸、テンポを伴奏者とともに練習	210 分
第 14 回	伴奏者を伴い前期試験曲を学ぶ 3 暗譜を確かなものとする	事前	前期試験曲、伴奏者とともに暗譜練習する	210 分
		事後	前期試験曲、内容を考えながら伴奏者と合わせる	210 分
第 15 回	前期のまとめ	事前	前期試験曲、暗譜をしながら伴奏合わせをくり返す	210 分
		事後	前期試験曲、暗譜の確認および演奏の完成度を上げていく	210 分

フィードバック	試演会、学内演奏会後、個人面談の形で前期を振り返り、次の課題を話し合う。
---------	--------------------------------------

成績評価	前期演奏試験、複数の教員による採点。
------	--------------------

テキスト	コンコーネ、イタリア歌曲等、 レッスン時に指示する。
------	-------------------------------

オフィスアワー	各教員の出校日、各教員のレッスン室
---------	-------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

専門実技Ⅱ-2（声楽）

専門／学年：声楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	個人レッスンの形態で歌唱の三原則すなわち姿勢・呼吸・発声を基に、より自然な歌唱を習得する。

到達目標	1 年次に習得した歌唱法を基に、演奏表現の更なる発展をテーマとする。個々の特性にもよるが、歌曲だけでなく、オペラやオラトリオのアリア等レパートリーを広げながら発声法・技術の向上を目指す。
------	---

授業計画	毎週 50 分、15 回の個人指導。卒業課題は歌曲 1 曲、自由曲 1 曲。前期に加え、演奏の完成度を上げる
------	--

第 1 回	前期成果の確認と後期の学習計画を立てる	事前 前期試験の反省 事後 後期の課題の譜読み	210 分 210 分
第 2 回	歌唱技術の習得 1 異なる言語による作品の読譜	事前 課題曲⑤及び⑥の譜読み 事後 課題曲⑤及び⑥を音程、リズムに注意して練習する	210 分 210 分
第 3 回	歌唱技術の習得 2 異なる言語による作品の詩の内容を理解する	事前 課題曲⑤及び⑥の言葉の意味を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥を言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 4 回	歌唱技術の習得 3 異なる言語による作品、母音と子音の明確化	事前 課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考える 発音練習する 事後 課題曲⑤及び⑥の詩の内容を考えながら練習 母音と子音の明確化	210 分 210 分
第 5 回	歌唱技術の習得 4 異なる言語による作品、表現法の研究	事前 課題曲⑤及び⑥、強弱、テンポの変化、音楽用語等を調べる 事後 課題曲⑤及び⑥、表現、テンポを考えながら練習	210 分 210 分
第 6 回	後期試験曲を探る 読譜力と詩の解釈をすすめる	事前 課題曲⑦ 譜読み 事後 課題曲⑦ 音程、リズムを正確に読む	210 分 210 分
第 7 回	後期試験曲を選ぶ 読譜 音程・リズムを正確に読む	事前 課題曲⑦ 発音練習母音と子音の明確化 事後 課題曲⑦ 表現、テンポを意識する	210 分 210 分
第 8 回	後期試験曲を学ぶ 1 母音、子音の明確化	事前 課題曲⑦ 単語の意味を調べる、楽譜を調べる 事後 課題曲⑦ 単語及び詩の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 9 回	後期試験曲を学ぶ 2 詩の内容を理解する、楽譜を読みこむ	事前 課題曲⑦ 曲の内容を把握する 事後 課題曲⑦ 曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 10 回	後期試験曲を学ぶ 3 伴奏者とともに曲の理解を深める	事前 課題曲⑦ 言葉の意味、時代背景等調べる 事後 課題曲⑦ 言葉の意味を考えながら練習する	210 分 210 分
第 11 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 1 演奏の質の向上をはかる	事前 課題曲⑦ 単語、文章の意味を調べる 伴奏合わせをする 事後 課題曲⑦ 詩の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 12 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 2 楽曲の研究を深める	事前 課題曲⑦ 伴奏合わせをする。 強弱他音楽用語を調べる 事後 課題曲⑦ 伴奏者とともに曲の内容を考えながら練習する	210 分 210 分
第 13 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 3 楽曲の研究を深め、暗譜をする	事前 課題曲⑦ 伴奏合わせを繰り返し、暗譜練習する 事後 課題曲⑦ 呼吸、テンポ等、伴奏者と確認する	210 分 210 分
第 14 回	伴奏者を伴い後期試験曲を学ぶ 4 楽曲の内容を深め、暗譜を確かなものにする	事前 課題曲⑦ 伴奏者とともに表現方法を工夫する 事後 課題曲⑦ 曲の内容を考えながら合わせ、表現力をあげる	210 分 210 分
第 15 回	後期のまとめ	事前 課題曲⑦ 伴奏者とともに 暗譜の確認 事後 課題曲⑦ 伴奏者とともに 曲の完成度を上げていく	210 分 210 分

フィードバック	試演会、後期試験その他後、個人面談の形で振り返る。
---------	---------------------------

成績評価	後期演奏試験、複数の教員による採点。
------	--------------------

テキスト	コンコーネ、イタリア歌曲等、 レッスン時に指示する。
------	-------------------------------

オフィスアワー	各教員の出校日、各教員のレッスン室
---------	-------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF206

専門／学年：全専門／2 年次

单位数：1 单位

概要	作曲法とは、旋律・和声・リズムなどの音楽形成の要素を駆使してひとつの楽曲を作り上げる方法のことである。 特に変奏曲を中心に分析を行う。また、変奏曲の作曲にも取り組み、音出しをする。
----	---

到達目標 簡単な作曲ができるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【変奏曲の分析】		【変奏曲の作曲】			
第1回	ガイドンス	変奏曲とは	事前 事後	変奏曲の予習 変奏曲の復習	「変奏曲」の項目を音楽事典で読む 45分 45分
第2回	変奏曲(作品 a 上)	(変奏 A)	事前	作品 a、変奏 A の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	伴奏形	事後	作品 a、変奏 A の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第3回	変奏曲(作品 a 中)	(変奏 B)	事前	作品 a、変奏 B の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	刺繍音	事後	作品 a、変奏 B の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第4回	変奏曲(作品 a 下)	(変奏 C)	事前	作品 a、変奏 C の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：きらきら星変奏曲	経過音	事後	作品 a、変奏 C の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第5回	ヴァイオリンの変奏曲(作品 b 前半)	(変奏 D)	事前	作品 b、変奏 D の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	バガニーニ：24 の奇想曲 第 24 番	倚音	事後	作品 b、変奏 D の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第6回	ヴァイオリンの変奏曲(作品 b 後半)	(変奏 E)	事前	作品 b、変奏 E の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	バガニーニ：24 の奇想曲 第 24 番	掛留音	事後	作品 b、変奏 E の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第7回	変奏曲 (作品 c 前半)	(変奏 F)	事前	作品 c、変奏 F の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：ピアノソナタ K.331 第 1 楽章	先取音	事後	作品 c、変奏 F の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第8回	変奏曲 (作品 c 後半)	(変奏 G)	事前	作品 c、変奏 G の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	モーツァルト：ピアノソナタ K.331 第 1 楽章	逸音	事後	作品 c、変奏 G の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第9回	変奏曲 (作品 d)	(変奏 H)	事前	作品 d、変奏 H の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	ヘンデル：調子のよい鍛冶屋	和声音	事後	作品 d、変奏 H の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第10回	変奏曲 (作品 e 前半) ベートーヴェン：	(変奏 I)	事前	作品 e、変奏 I の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「トルコ行進曲」による変奏曲	和音	事後	作品 e、変奏 I の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第11回	変奏曲 (作品 e 後半) ベートーヴェン：	(変奏 J)	事前	作品 e、変奏 J の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「トルコ行進曲」による変奏曲	移旋	事後	作品 e、変奏 J の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第12回	変奏曲 (作品 f 前半) ベートーヴェン：	(変奏 K)	事前	作品 f、変奏 K の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「わが心もはやうつろになりて」による変奏曲	拍子の変更	事後	作品 f、変奏 K の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第13回	変奏曲 (作品 f 後半) ベートーヴェン：	変奏曲の作曲法 (基礎)	事前	作品 f、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	「わが心もはやうつろになりて」による変奏曲		事後	作品 f、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第14回	変奏曲 (作品 g)	変奏曲の作曲法 (発展)	事前	作品 g、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	様々な作曲家：バガニーニの主題による変奏曲		事後	作品 g、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く
第15回	変奏曲 (作品 h)	変奏曲の作曲法 (総合)	事前	作品 h、変奏曲の作曲法の予習	楽譜を見ながら音源を聴く
	バッハヘルベル：3 声のカノンとジーク		事後	作品 h、変奏曲の作曲法の復習	分析譜を見ながら音源を聴く

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

成績評価 作品提出・発表(変奏曲の作曲)50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐			☐	☐	☐

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF207

専門／学年：全専門／2年次

形態：演習

概要	作曲法とは、旋律・和声・リズムなどの音楽形成の要素を駆使してひとつの楽曲を作り上げる方法のことである。 特にアンサンブル作品とフーガを中心に分析を行う。 また、ピアノ連弾（もしくは器楽＋ピアノ）への編曲にも取り組み、音出しをする。
----	---

到達目標 簡単なアンサンブル曲に編曲ができるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【アンサンブル曲の分析・編曲】	【フーガの分析】			
第1回	作品発表(グループ a)	インヴェンション(作品 A)	事前	作品発表、作品 A の予習	45 分
	変奏曲の作曲	バッハ：インヴェンション第 1 番	事後	作品発表、作品 A の復習	45 分
第2回	作品発表(グループ B)	インヴェンション(作品 B)	事前	作品発表、作品 B の予習	45 分
	変奏曲の作曲	バッハ：インヴェンション第 4 番	事後	作品発表、作品 B の復習	45 分
第3回	ピアノ連弾曲(作品 a)	カノン(作品 C)	事前	作品 a、作品 C の予習	45 分
	フォーレ：ドリーより「子守歌」	バッハ：インヴェンション第 8 番	事後	作品 a、作品 C の復習	45 分
第4回	ピアノ連弾曲(作品 b)	カノン(作品 D)	事前	作品 b、作品 D の予習	45 分
	フォーレ：ドリーより「ミ・ア・ウー」	バッハ：インヴェンション第 2 番	事後	作品 b、作品 D の復習	45 分
第5回	ピアノ連弾曲(作品 c)	フーガ(作品 E)	事前	作品 c、作品 E の予習	45 分
	ドビュッシー：小組曲より「小舟にて」	島岡譲：2 声の学習フーガ	事後	作品 c、作品 E の復習	45 分
第6回	ピアノ連弾曲(作品 d)	フーガ(作品 F)	事前	作品 d、作品 F の予習	45 分
	マ・メール・ロワより「眠りの森の美女のパヴァーヌ」	バッハ：平均律 第 1 巻 第 10 番	事後	作品 d、作品 F の復習	45 分
第7回	声楽+ピアノ曲(作品 e)	フーガ(作品 G)	事前	作品 e、作品 G の予習	45 分
	成田為三：浜辺の歌	バッハ：平均律 第 1 巻 第 2 番	事後	作品 e、作品 G の復習	45 分
第8回	声楽+ピアノ曲(作品 f)	フーガ(作品 H)	事前	作品 f、作品 H の予習	45 分
	ラフマニノフ：ヴォカリーズ	バッハ：平均律 第 2 巻 第 5 番	事後	作品 f、作品 H の復習	45 分
第9回	ピアノ連弾曲(作品 g)	フーガ(作品 I)	事前	作品 g、作品 I の予習	45 分
	シューベルト：軍隊行進曲 第 1 番	バッハ：平均律 第 2 巻 第 1 番	事後	作品 g、作品 I の復習	45 分
第10回	器楽+ピアノ曲(作品 h)	オルガンのフーガ(作品 J)	事前	作品 h、作品 J の予習	45 分
	ヴァイオリンソナタ 第 5 番「春」第 1 楽章	バッハ：小フーガ ト短調	事後	作品 h、作品 J の復習	45 分
第11回	器楽+ピアノ曲(作品 i)	オルガンのフーガ(作品 K)	事前	作品 i、作品 K の予習	45 分
	モーツァルト：フルート協奏曲 第 1 番 第 1 楽章	バッハ：トッカータとフーガ ニ短調	事後	作品 i、作品 K の復習	45 分
第12回	アンサンブルの編曲法(基礎)	二重フーガ(作品 L)	事前	アンサンブルの編曲法、作品 L の予習	45 分
		バッハ：フーガの技法 対位法第 9 番	事後	アンサンブルの編曲法、作品 L の復習	45 分
第13回	アンサンブルの編曲法(発展)	合唱のフーガ(作品 M)	事前	アンサンブルの編曲法、作品 M の予習	45 分
		モーツァルト：レクイエムより「キリエ」	事後	アンサンブルの編曲法、作品 M の復習	45 分
第14回	作品発表(グループ a)		事前	作品発表の予習	45 分
	アンサンブルの編曲		事後	作品発表の復習	45 分
第15回	作品発表(グループ B)		事前	作品発表の予習	45 分
	アンサンブルの編曲		事後	作品発表の復習	45 分

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

成績評価 作品提出・発表{ピアノ連弾(もしくは器楽+ピアノ)の編曲}50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	ミラクル・ジャン・スタイル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐			☐	☐	☐

音楽史-1

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 長岡英 科目コード：LEC101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 中世、ルネサンスからバロック、古典派時代までの音楽を対象とし、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけさせる。

- 到達目標
- 1. 各時代の代表的な作曲家や作品、様式の特徴を理解する。
 - 2. 宗教や政治など他の領域とも関連させながら音楽史の流れを把握する。
 - 3. 自分が聴いたり演奏したりする作品を、より多角的に理解できるようにする。

授業計画		
第 1 回	音楽史概説	事前 教科書 pp. 82-86 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、音楽史時代区分について理解する。 140 分
第 2 回	中世① グレゴリオ聖歌	事前 教科書 pp. 87-91 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、グレゴリオ聖歌について理解する。 140 分
第 3 回	中世② 単声から多声へ	事前 教科書 pp. 92-96 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、単声から多声へについて理解する。 140 分
第 4 回	ルネサンス① ミサ曲	事前 教科書 pp. 97-101 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、ミサ曲について理解する。 140 分
第 5 回	ルネサンス② オペラの誕生	事前 教科書 pp. 106-110 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、オペラの誕生について理解する。 140 分
第 6 回	バロック① 器楽の成立	事前 教科書 pp. 111-115 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、器楽の成立について理解する。 140 分
第 7 回	バロック② バッハの器楽曲	事前 教科書 pp. 116-120 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、バッハの器楽曲について理解する。 140 分
第 8 回	バロック③ バッハの声楽曲	事前 教科書 pp. 121-125 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、バッハの声楽曲について理解する。 140 分
第 9 回	バロック④ ヘンデル	事前 教科書 pp. 126-130 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、ヘンデルについて理解する。 140 分
第 10 回	前古典派	事前 教科書 pp. 10-14 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、前古典派について理解する。 140 分
第 11 回	古典派① ハイドン	事前 教科書 pp. 15-19 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、ハイドンについて理解する。 140 分
第 12 回	古典派② モーツァルト	事前 教科書 pp. 20-24 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、モーツァルトについて理解する。 140 分
第 13 回	古典派③ ベートーヴェン（ウィーン中期まで）	事前 教科書 pp. 25-29 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、ウィーン中期までのベートーヴェンについて理解する。 140 分
第 14 回	古典派④ ベートーヴェン（ウィーン後期）	事前 教科書 pp. 30-31 を読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、ウィーン後期のベートーヴェンについて理解する。 140 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 前期のノートを読みまとめる。 130 分 事後 ノートをまとめ、中世から古典派について理解する。 140 分

フィードバック 授業内に行う小テストや小レポートは、後日返却および解説を行いフィードバックする。

成績評価 授業の内容の理解度を測る定期試験（約 80％）、小テストや小レポートに授業中の態度を加味して（約 20％）総合的に評価する。

テキスト 長岡英『オケ奏者なら知っておきたいクラシックの常識』（アルテスパブリッシング、2014）

オフィスアワー 原則として授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 音楽、楽譜から作曲者の意図を読み解く小テストを実施し、後から解説や回答の紹介を行う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	□	□	

音楽史-2

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 長岡英 科目コード：LEC102

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 ロマン派以降の音楽を対象とし、視聴覚資料を利用しながら西洋音楽についての基本的な知識を身につけさせる。日本の伝統音楽も取り上げる。

到達目標 1. 各時代の代表的な作曲家や作品、様式の特徴を理解する。
2. 宗教や政治など他の領域とも関連させながら音楽史の流れを把握する。
3. 自国の音楽について基礎的な知識を得る。
4. 自分が聴いたり演奏したりする作品を、より多角的に理解できるようにする。

授業計画

第 1 回	古典派⑤ ピリオド楽器について	事前 教科書 pp. 36-40 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ピリオド楽器について理解する。	130 分 140 分
第 2 回	ロマン派① シューベルト	事前 教科書 pp. 41-45 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、シューベルトについて理解する。	130 分 140 分
第 3 回	ロマン派② メンデルスゾーン	事前 教科書 pp. 46-50 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、メンデルスゾーンについて理解する。	130 分 140 分
第 4 回	ロマン派③ シューマン	事前 教科書 pp. 51-55 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、シューマンについて理解する。	130 分 140 分
第 5 回	ロマン派④ ベルリオーズ	事前 教科書 pp. 56-60 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ベルリオーズについて理解する。	130 分 140 分
第 6 回	ロマン派⑤ ヴァーグナー	事前 教科書 pp. 61-65 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ヴァーグナーについて理解する。	130 分 140 分
第 7 回	ロマン派⑥ ヴェルディ	事前 教科書 pp. 66-70 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ヴェルディについて理解する。	130 分 140 分
第 8 回	ロマン派⑦ チェコの国民楽派	事前 教科書 pp. 71-75 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、チェコの国民楽派について理解する。	130 分 140 分
第 9 回	ロマン派⑧ ロシアの国民楽派	事前 教科書 pp. 76-78 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ロシアの国民楽派について理解する。	130 分 140 分
第 10 回	ロマン派⑧ サン＝サーンス、フランク	事前 教科書 pp. 138-142 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、19 世紀フランス音楽について理解する。	130 分 140 分
第 11 回	後期ロマン派	事前 教科書 pp. 143-147 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、後期ロマン派について理解する。	130 分 140 分
第 12 回	日本の伝統音楽① 雅楽	事前 教科書 pp. 148-152 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、雅楽について理解する。	130 分 140 分
第 13 回	日本の伝統音楽② 能楽	事前 教科書 pp. 153-157 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、能楽について理解する。	130 分 140 分
第 14 回	日本の伝統音楽③ 歌舞伎	事前 教科書 pp. 158-162 を読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、歌舞伎について理解する。	130 分 140 分
第 15 回	後期のまとめ	事前 後期のノートを読みまとめる。 事後 ノートをまとめ、ロマン派から 20 世紀音楽について理解する。	130 分 140 分

フィードバック 授業内に行う小テストや小レポートは、後日返却および解説を行いフィードバックする。

成績評価 授業の内容の理解度を測る定期試験（約 80％）、小テストや小レポートに授業中の態度を加味して（約 20％）総合的に評価する。

テキスト 長岡英『オケ奏者なら知っておきたいクラシックの常識』（アルテスパブリッシング、2014）

オフィスアワー 原則として授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 音楽、楽譜から作曲者の意図を読み解く小テストを実施し、後から解説や回答の紹介を行う

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	□	□

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF101

専門／学年：全専門／1年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	和音の構造を理解した上で、バス・ソプラノ課題を中心とした4声体による和声課題の実施方法を学ぶ。 特に、禁則や定型など初歩的な内容に重点を置く。
----	--

到達目標 バスやソプラノの旋律から学んだ知識と各自の判断を合わせ基本をおさえながら課題を解く能力を身につける。
同時に、1つの声部をもとに和声全体を構築する力を養う。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。なお和声分析の対象となる作品とその数は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適時決定する。

【AL】	【和声】	【楽曲分析】		
第1回	ガイダンス 和声法とは	事前 楽典の復習	「和声」の項目を音楽事典で読む	45 分
		事後 ガイダンスの復習		45 分
第2回	第1章 和音（基礎）	事前 第1章の予習	テキストを読む	45 分
		事後 第1章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第3回	第1章 和音（発展）	事前 第1章の予習	テキストを読む	45 分
		事後 第1章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第4回	第2章 4声体の配置（基礎）	事前 第2章の予習	テキストを読む	45 分
		事後 第2章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第5回	第2章 4声体の配置（発展）	事前 第2章の予習	テキストを読む	45 分
		事後 第2章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第6回	第3章 和音機能	事前 第3章の予習	テキストを読む	45 分
		事後 第3章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第7回	第4章 D-Tの連結（基礎）	事前 第4章の予習	テキストを読む	45 分
		事後 第4章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第8回	第4章 D-Tの連結（発展）	事前 第4章の予習	テキストを読む	45 分
		事後 第4章の復習	課題の実施と見直し	45 分
第9回	第5章 T-D-Tの連結（基礎）	事前 第5章、作品Aの予習	テキストを読む	45 分
	（作品A）	事後 第5章、作品Aの復習	課題の実施と見直し	45 分
第10回	第5章 T-D-Tの連結（発展）	事前 第5章、作品Bの予習	テキストを読む	45 分
	（作品B）	事後 第5章、作品Bの復習	課題の実施と見直し	45 分
第11回	第6章 T-Tの連結	事前 第6章、作品Cの予習	テキストを読む	45 分
	（作品C）	事後 第6章、作品Cの復習	課題の実施と見直し	45 分
第12回	第7章 TとD諸和音との連結（基礎）	事前 第7章、作品Dの予習	テキストを読む	45 分
	（作品D）	事後 第7章、作品Dの復習	課題の実施と見直し	45 分
第13回	第7章 TとD諸和音との連結（発展）	事前 第7章、作品Eの予習	テキストを読む	45 分
	（作品E）	事後 第7章、作品Eの復習	課題の実施と見直し	45 分
第14回	試験の概要	事前 第1～7章の復習		45 分
		事後 試験の概要の復習		45 分
第15回	まとめ	事前 まとめの予習		45 分
		事後 まとめの復習		45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組（授業中の発言及び与えられた課題の実施状況） 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サール社出版）を使用する他、進度に応じて課題や資料を配布する。配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意することを推奨する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐		☐	☐	☐	☐

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF102

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	和声法Ⅰ－１の内容をふまえ、新たな和音を加えた４声体による和声課題の実施方法を学ぶ。 様々な調性に対応できるよう、移調や移旋の実習を取り入れる。
----	---

到達目標	和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。 何通りかの解答が出来ることを予測し、より音楽的と考えられるものを選択する力を身につける。
------	--

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。なお和声分析の対象となる作品とその数は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適時決定する。

[AL]	【和声】	【楽曲分析】		
第 1 回	和声法 I－1 の試験の解説		事前 第 1～7 章の復習 事後 和声法 I－1 の試験の解説の復習	45 分 45 分
第 2 回	第 8 章 II ⁽¹⁾ の和音	(作品 A)	事前 第 8 章、作品 A の予習 事後 第 8 章、作品 A の復習	45 分 45 分
第 3 回	第 9 章 I ² 、V ₍₇₎	(作品 B)	事前 第 9 章、作品 B の予習 事後 第 9 章、作品 B の復習	45 分 45 分
第 4 回	第 9 章 8 小節のバス課題（基礎）	(作品 C)	事前 第 9 章、作品 C の予習 事後 第 9 章、作品 C の復習	45 分 45 分
第 5 回	第 9 章 8 小節のバス課題（発展）	(作品 D)	事前 第 9 章、作品 D の予習 事後 第 9 章、作品 D の復習	45 分 45 分
第 6 回	第 9 章 8 小節のソプラノ課題（基礎）	(作品 E)	事前 第 9 章、作品 E の予習 事後 第 9 章、作品 E の復習	45 分 45 分
第 7 回	第 9 章 8 小節のソプラノ課題（発展）	(作品 F)	事前 第 9 章、作品 F の予習 事後 第 9 章、作品 F の復習	45 分 45 分
第 8 回	第 10 章 V ² ₇ －I ⁽¹⁾ の連結	(作品 G)	事前 第 10 章、作品 G の予習 事後 第 10 章、作品 G の復習	45 分 45 分
第 9 回	第 11 章 VI の和音（基礎）	(作品 H)	事前 第 11 章、作品 H の予習 事後 第 11 章、作品 H の復習	45 分 45 分
第 10 回	第 11 章 VI の和音（発展）	(作品 I)	事前 第 11 章、作品 I の予習 事後 第 11 章、作品 I の復習	45 分 45 分
第 11 回	第 12 章 IV ⁽¹⁾ (D ₂) の和音 (II ¹ の代用)	(作品 J)	事前 第 12 章、作品 J の予習 事後 第 12 章、作品 J の復習	45 分 45 分
第 12 回	第 12 章 IV ⁽¹⁾ (D ₂) の和音 (D ₂ の連用)	(作品 K)	事前 第 12 章、作品 K の予習 事後 第 12 章、作品 K の復習	45 分 45 分
第 13 回	試験の概要		事前 第 8～12 章の復習 事後 試験の概要の復習	45 分 45 分
第 14 回	まとめ		事前 まどめの予習 事後 まどめの復習	45 分 45 分
第 15 回	試験の解説		事前 試験の復習 事後 試験の解説の復習	45 分 45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組（授業中の発言及び与えられた課題の実施状況） 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）を使用する他、進度に応じて課題や資料を配布する。配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意することを推奨する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐		☐	☐	☐	☐	

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF101

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習

单位数：1 单位

概要	和声法とは、ある和音と後続の和音との連結の方法のことである。 決められた規則に従いつつ、与えられた旋律から美しい響きを紡ぎだす方法を、4声体の実施によって身につける。
----	--

到達目標	和声法の基本的な知識を身につけ、簡単なバス課題、ソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。
------	--

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【和声】	【楽典／和声分析】			
第1回	ガイダンス 和声法とは	(楽典の発展 a) 音程	事前	ガイダンス、楽典の発展 a の予習	「和声」の項目を音楽事典で読む 45 分
			事後	ガイダンス、楽典の発展 a の復習	45 分
第2回	第1章 和音（基礎）	(楽典の発展 b) ドイツ音名	事前	第1章、楽典の発展 b の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第1章、楽典の発展 b の復習	誤答を解き直す 45 分
第3回	第1章 和音（発展）	(楽典の発展 c) 調号	事前	第1章、楽典の発展 c の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第1章、楽典の発展 c の復習	誤答を解き直す 45 分
第4回	第2章 4 声体の配置（基礎）	(楽典の発展 d) 音階	事前	第2章、楽典の発展 d の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第2章、楽典の発展 d の復習	誤答を解き直す 45 分
第5回	第2章 4 声体の配置（発展）	(楽典の発展 e) 近親調	事前	第2章、楽典の発展 e の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第2章、楽典の発展 e の復習	誤答を解き直す 45 分
第6回	第3章 和音機能	(楽典の発展 f) 和音	事前	第3章、楽典の発展 f の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第3章、楽典の発展 f の復習	誤答を解き直す 45 分
第7回	第4章 D-T の連結（基礎）	(楽典の発展 g) 移調	事前	第4章、楽典の発展 g の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第4章、楽典の発展 g の復習	誤答を解き直す 45 分
第8回	第4章 D-T の連結（発展）	(楽典の発展 h) 調性判断	事前	第4章、楽典の発展 h の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第4章、楽典の発展 h の復習	誤答を解き直す 45 分
第9回	第5章 T-D-T の連結（基礎）	(和声分析 A) 4 声体の和声分析	事前	第5章、和声分析 A の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第5章、和声分析 A の復習	誤答を解き直す 45 分
第10回	第5章 T-D-T の連結（発展）	(和声分析 B) 4 声体の和声分析	事前	第5章、和声分析 B の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第5章、和声分析 B の復習	誤答を解き直す 45 分
第11回	第6章 T-T の連結	(和声分析 C) 4 声体の和声分析	事前	第6章、和声分析 C の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第6章、和声分析 C の復習	誤答を解き直す 45 分
第12回	第7章 T と D 諸和音との連結（基礎）	(和声分析 D) 4 声体の和声分析	事前	第7章、和声分析 D の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第7章、和声分析 D の復習	誤答を解き直す 45 分
第13回	第7章 T と D 諸和音との連結（発展）	(和声分析 E) 4 声体の和声分析	事前	第7章、和声分析 E の予習	テキストを読む 45 分
			事後	第7章、和声分析 E の復習	誤答を解き直す 45 分
第14回	試験の概要		事前	試験の概要の予習	45 分
			事後	試験の概要の復習	45 分
第15回	まとめ		事前	まとめの予習	45 分
			事後	まとめの復習	45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐		☐	☐	☐	☐

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 川上啓太郎

科目コード：SLF201

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：演習 単位数：1 単位

概要	和声法Ⅰの内容に加え、より高度で複雑化した和音を用いた4声体による和声課題の実施方法を学ぶ。 また、借用和音や転位音を多角的な視点から理解できるよう、実作品の和声分析も行う。
----	--

到達目標	和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。 さらに、旋律から和音を決定づける骨組みとなる音を見分けることにより、演奏を仕上げる過程で必要な分析する力を伸ばしていく。
------	---

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。なお和声分析の対象となる作品とその数は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適時決定する。
------	--

【AL】	【和声】	【和声分析】		
第1回	和声法Ⅰ（第1～12章）の復習	（作品A）	事前 和声法Ⅰ（第1～12章）の復習 事後 第1～12章、作品Aの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第2回	第13章Ⅳ（S）の和音（基礎）	（作品B）	事前 第13章、作品Bの予習 事後 第13章、作品Bの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第3回	第13章Ⅳ（S）の和音（発展）	（作品C）	事前 第13章、作品Cの予習 事後 第13章、作品Cの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第4回	第14章 借用和音 - $\bar{V}_{(7)}$ の和音（基礎）	（作品D）	事前 第14章、作品Dの予習 事後 第14章、作品Dの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第5回	第14章 借用和音 - $\bar{V}_{(7)}$ の和音（発展）	（作品E）	事前 第14章、作品Eの予習 事後 第14章、作品Eの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第6回	第14章 借用和音 - その他の副Vの和音（基礎）	（作品F）	事前 第14章、作品Fの予習 事後 第14章、作品Fの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第7回	第14章 借用和音 - その他の副Vの和音（発展）	（作品G）	事前 第14章、作品Gの予習 事後 第14章、作品Gの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第8回	第14章 借用和音 - 準固有和音	（作品H）	事前 第14章、作品Hの予習 事後 第14章、作品Hの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第9回	第14章 借用和音 - まとめ	（作品I）	事前 第14章、作品Iの予習 事後 第14章、作品Iの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第10回	第15章 根音省略形 ($\bar{V}_7$ の和音)	（作品J）	事前 第15章、作品Jの予習 事後 第15章、作品Jの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第11回	第15章 根音省略形 ($\bar{V}_7$ の和音)	（作品K）	事前 第15章、作品Kの予習 事後 第15章、作品Kの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第12回	第17章Ⅱ $_7$ の和音（発展）	（作品L）	事前 第17章、作品Lの予習 事後 第17章、作品Lの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第13回	第17章Ⅱ $_7$ の和音（発展）	（作品M）	事前 第17章、作品Mの予習 事後 第17章、作品Mの復習	テキストを読む 45分 課題の実施と見直し 45分
第14回	試験の概要		事前 第1～15及び17章の復習 事後 試験の概要の復習	45分 45分
第15回	まとめ		事前 まよめの予習 事後 まよめの復習	45分 45分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組（授業中の発言及び与えられた課題の実施状況） 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サール社出版）を使用する他、進度に応じて課題や資料を配布する。配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意することを推奨する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐		☒	☐	☐	☐		☐	☐

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF202

形態：演習 単位数：1 単位

到達目標	和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。 さらに、旋律から和音を決定づける骨組みとなる音を見分けることにより、演奏を仕上げる過程で必要な分析する力を伸ばしていく。
------	---

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。なお和声分析の対象となる作品とその数は、受講者の専攻や人数等を考慮した上で適時決定する。

【AL】	【和声】	【和声分析】		
第1回	和声法Ⅱ－1の試験の解説	事前 第1～15及び17章の復習 事後 和声法Ⅱ－1の試験の解説の復習	45分 45分	分
第2回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 － V ₉ の和音 (作品A)	事前 第16章、作品Aの予習 事後 第16章、作品Aの復習	45分 45分	分
第3回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 － $\bar{V}_9$ の和音 (作品B)	事前 第16章、作品Bの予習 事後 第16章、作品Bの復習	45分 45分	分
第4回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 － $\bar{V}_9$ の和音 (作品C)	事前 第16章、作品Cの予習 事後 第16章、作品Cの復習	45分 45分	分
第5回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 － $\bar{V}_9$ の準固有和音 (作品D)	事前 第16章、作品Dの予習 事後 第16章、作品Dの復習	45分 45分	分
第6回	第16章 V ₉ ・副V ₉ の和音 － 増6の和音 (作品E)	事前 第16章、作品Eの予習 事後 第16章、作品Eの復習	45分 45分	分
第7回	第18章 転位音(掛留音) (作品F)	事前 第18章、作品Fの予習 事後 第18章、作品Fの復習	45分 45分	分
第8回	第18章 転位音(倚音) (作品G)	事前 第18章、作品Gの予習 事後 第18章、作品Gの復習	45分 45分	分
第9回	第18章 転位音(刺しゅう音) (作品H)	事前 第18章、作品Hの予習 事後 第18章、作品Hの復習	45分 45分	分
第10回	第18章 転位音(経過音) (作品I)	事前 第18章、作品Iの予習 事後 第18章、作品Iの復習	45分 45分	分
第11回	第18章 転位音(先取音と逸音) (作品J)	事前 第18章、作品Jの予習 事後 第18章、作品Jの復習	45分 45分	分
第12回	第18章 転位音(定位音による修飾音) (作品K)	事前 第18章、作品Kの予習 事後 第18章、作品Kの復習	45分 45分	分
第13回	第18章 転位音(発展) (作品L)	事前 第18章、作品Lの予習 事後 第18章、作品Lの復習	45分 45分	分
第14回	試験の概要	事前 第1～18章の復習 事後 試験の概要の復習	45分 45分	分
第15回	まとめ	事前 まとめの予習 事後 まとめの復習	45分 45分	分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組（授業中の発言及び与えられた課題の実施状況） 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サール社出版）を使用する他、進度に応じて課題や資料を配布する。配布されたプリントはその後の授業においても度々取り上げるため、原則として常にすべて持参すること。また五線ノートを用意することを推奨する。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐		☐	☐	☐	☐

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

専門／学年：全専門／2年次

概要	和声法Ⅰで学んだことをふまえ、さらに高度な学習へと発展する。 また、和声法で学んだ知識を実際の音楽に応用できるよう、実作品の和声分析も行う。
----	---

到達目標	和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。
------	---

	【和声】	【和声分析】			
第1回	(和声法Ⅰの復習 a) 第1章 和音	和声分析とは	事前	和声法Ⅰの復習 a の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 a の復習	誤答を解き直す
第2回	(和声法Ⅰの復習 b) 第2章 4声体の配置	(作品 A) ブルクミュラー：第1番	事前	和声法Ⅰの復習 b、作品 A の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 b、作品 A の復習	誤答を解き直す
第3回	(和声法Ⅰの復習 c) 第3章 和音機能	(作品 B) ブルクミュラー：第2番	事前	和声法Ⅰの復習 c、作品 B の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 c、作品 B の復習	誤答を解き直す
第4回	(和声法Ⅰの復習 d) 第4章 D-T の連結	(作品 C) ブルクミュラー：第3番	事前	和声法Ⅰの復習 d、作品 C の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 d、作品 C の復習	誤答を解き直す
第5回	(和声法Ⅰの復習 e) 第5章 T-D-T の連結	借用和音(副Vの和音)	事前	和声法Ⅰの復習 e、副Vの和音の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 e、副Vの和音の復習	誤答を解き直す
第6回	(和声法Ⅰの復習 f) 第6章 T-T の連結	借用和音(準固有和音)	事前	和声法Ⅰの復習 f、準固有和音の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 f、準固有和音の復習	誤答を解き直す
第7回	(和声法Ⅰの復習 g) 第7章 TとD諸和音との連結	根音省略形	事前	和声法Ⅰの復習 g、根音省略形の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 g、根音省略形の復習	誤答を解き直す
第8回	(和声法Ⅰの復習 h) 第8章 II ^ⅰ の和音	V ₉ の和音	事前	和声法Ⅰの復習 h、V ₉ の和音の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 h、V ₉ の和音の復習	誤答を解き直す
第9回	(和声法Ⅰの復習 i) 第9章 I ²⁻ - V ₇ ^ⅰ	(作品 D) ブルクミュラー：第4番	事前	和声法Ⅰの復習 i、作品 D の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 i、作品 D の復習	誤答を解き直す
第10回	(和声法Ⅰの復習 j) 第10章 V ₇ ^ⅰ - I ^ⅰ の連結	(作品 E) ブルクミュラー：第5番	事前	和声法Ⅰの復習 j、作品 E の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 j、作品 E の復習	誤答を解き直す
第11回	(和声法Ⅰの復習 k) 第11章 VIの和音	(作品 F) ブルクミュラー：第6番	事前	和声法Ⅰの復習 k、作品 F の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 k、作品 F の復習	誤答を解き直す
第12回	(和声法Ⅰの復習 l) 第12章 IV ^ⅰ の和音(II ^ⅰ の代用)	(作品 G) ブルクミュラー：第7番	事前	和声法Ⅰの復習 l、作品 G の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 l、作品 G の復習	誤答を解き直す
第13回	(和声法Ⅰの復習 m) 第12章 IV ^ⅰ の和音(D ₂ の連用)	(作品 H) ブルクミュラー：第8番	事前	和声法Ⅰの復習 m、作品 H の予習	テキストを読む
			事後	和声法Ⅰの復習 m、作品 H の復習	誤答を解き直す
第14回	試験の概要		事前	試験の概要の予習	45 分
			事後	試験の概要の復習	45 分
第15回	まとめ		事前	まとめの予習	45 分
			事後	まとめの復習	45 分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF202

形態：演習

到達目標 和声法の基本的な知識を身につけ、借用和音を含むバス課題や、転位音を含むソプラノ課題を実施できるようになることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【和声】		【和声分析】			
第1回	和声法Ⅱ－1の試験の解説	事前	和声法Ⅱ－1の試験の解説の予習	45	分
		事後	和声法Ⅱ－1の試験の解説の復習	45	分
第2回	第13章 IV(S)の和音（基礎） ブルクミュラー：第9番	事前	第13章、作品Aの予習	45	分
		事後	第13章、作品Aの復習	45	分
第3回	第13章 IV(S)の和音（発展） ブルクミュラー：第10番	事前	第13章、作品Bの予習	45	分
		事後	第13章、作品Bの復習	45	分
第4回	第13章 IV(S)の和音（応用） ブルクミュラー：第11番	事前	第13章、作品Cの予習	45	分
		事後	第13章、作品Cの復習	45	分
第5回	第14章 借用和音（副Vの和音 基礎） ブルクミュラー：第12番	事前	第14章、作品Dの予習	45	分
		事後	第14章、作品Dの復習	45	分
第6回	第14章 借用和音（副Vの和音 発展） ブルクミュラー：第13番	事前	第14章、作品Eの予習	45	分
		事後	第14章、作品Eの復習	45	分
第7回	第14章 借用和音（準固有和音 基礎） ブルクミュラー：第14番	事前	第14章、作品Fの予習	45	分
		事後	第14章、作品Fの復習	45	分
第8回	第14章 借用和音（準固有和音 発展） ブルクミュラー：第15番	事前	第14章、作品Gの予習	45	分
		事後	第14章、作品Gの復習	45	分
第9回	第18章 転位音（刺繍音） ブルクミュラー：第16番	事前	第18章、作品Hの予習	45	分
		事後	第18章、作品Hの復習	45	分
第10回	第18章 転位音（経過音） ブルクミュラー：第17番	事前	第18章、作品Iの予習	45	分
		事後	第18章、作品Iの復習	45	分
第11回	第18章 転位音（倚音） ブルクミュラー：第18番	事前	第18章、作品Jの予習	45	分
		事後	第18章、作品Jの復習	45	分
第12回	第18章 転位音（掛留音） ブルクミュラー：第19番	事前	第18章、作品Kの予習	45	分
		事後	第18章、作品Kの復習	45	分
第13回	第18章 転位音（修飾音） ブルクミュラー：第20番	事前	第18章、作品Lの予習	45	分
		事後	第18章、作品Lの復習	45	分
第14回	試験の概要	事前	試験の概要の予習	45	分
		事後	試験の概要の復習	45	分
第15回	まとめ	事前	まとめの予習	45	分
		事後	まとめの復習	45	分

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 伊藤謙一郎、柳田憲一著『学生のための和声の要点』（サーベル社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード：SLF105

形態：講義

到達目標 簡単な形式の楽曲を分析できるようになることを目標とする。

授業計画	「学生による分析」は、受講生の状況によって曲目を決定する。各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	---

フィードバック	作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------------

テキスト “参照資料”
ブルクミュラー『25の練習曲』※出版社自由

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性、自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐		☐		☐

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード：SLF106

形態：講義

到達目標 ソナタ形式の楽曲を分析できるようになることを目標とする。

授業計画 「学生による分析」は、受講生の状況によって曲目を決定する。各回の授業内容は、進度により変更することがある。

フィードバック 作品の返却および作品発表時のコメントにより、学修成果をフィードバックする。

テキスト “ 参照資料 ”
『ソナチネアルバム 1』※出版社自由

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐					☐

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF107

形態：演習

到達目標	多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。
------	--

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【聴音】		【視唱】		【クレ読み】					
第1回	(聴音 a) 単旋律 和音	高音部譜表 二和音	(視唱 A) 発声スケール 発声	(クレ A) 高音部譜表	事前 視唱 A、クレ A の予習 事後 聴音 a の復習	「ソルフェージュ」の項目を音楽事典で読む 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第2回	(聴音 b) 単旋律 和音	低音部譜表 三和音	(視唱 B) 発声スケール ピアノ伴奏	(クレ B) 高音部譜表	事前 視唱 B、クレ B の予習 事後 聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第3回	(聴音 c) 単旋律 2 声体	臨時記号(基礎) C dur	(視唱 C) ダンノーゼル C dur(基礎)	(クレ C) 高音部譜表	事前 視唱 C、クレ C の予習 事後 聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第4回	(聴音 d) 単旋律 2 声体	リズム(基礎) a moll	(視唱 D) ダンノーゼル a moll(基礎)	(クレ D) 高音部譜表	事前 視唱 D、クレ D の予習 事後 聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第5回	(聴音 e) 単旋律 2 声体	休符(基礎) G dur	(視唱 E) ダンノーゼル G dur(基礎)	(クレ E) 高音部譜表	事前 視唱 E、クレ E の予習 事後 聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第6回	(聴音 f) 単旋律 2 声体	タイ(基礎) e moll	(視唱 F) ダンノーゼル e moll(基礎)	(クレ F) 低音部譜表	事前 視唱 F、クレ F の予習 事後 聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第7回	(聴音 g) 単旋律 3 声体	拍子(基礎) 密集 C dur	(視唱 G) ダンノーゼル F dur(基礎)	(クレ G) 低音部譜表	事前 視唱 G、クレ G の予習 事後 聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第8回	(聴音 h) 単旋律 3 声体	調(基礎) 開離 C dur	(視唱 H) ダンノーゼル d moll(基礎)	(クレ H) 低音部譜表	事前 視唱 H、クレ H の予習 事後 聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第9回	(聴音 i) 複旋律 3 声体	C dur 密集 a moll	(視唱 I) ダンノーゼル D dur(基礎)	(クレ I) 低音部譜表	事前 視唱 I、クレ I の予習 事後 聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第10回	(聴音 j) 複旋律 3 声体	a moll 開離 a moll	(視唱 J) ダンノーゼル h moll(基礎)	(クレ J) 低音部譜表	事前 視唱 J、クレ J の予習 事後 聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第11回	(聴音 k) 複旋律 3 声体	G dur 密集 G dur	(視唱 K) ダンノーゼル B dur(基礎)	(クレ K) 低音部譜表	事前 視唱 K、クレ K の予習 事後 聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第12回	(聴音 l) 複旋律 3 声体	e moll 開離 G dur	(視唱 L) ダンノーゼル g moll(基礎)	(クレ L) アルト譜表	事前 視唱 L、クレ L の予習 事後 聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第13回	(聴音 m) 複旋律 3 声体	F dur 密集 e moll	(視唱 M) ダンノーゼル へ音記号(基礎)	(クレ M) アルト譜表	事前 視唱 M、クレ M の予習 事後 聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第14回	(聴音 n) 複旋律 3 声体	d moll 開離 e moll	(視唱 N) ダンノーゼル へ音記号(発展)	(クレ N) アルト譜表	事前 視唱 N、クレ N の予習 事後 聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分			
第15回	まとめ				事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		45 分 45 分			

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業態度 50%

テキスト 城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐			☐	☐	☐	

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐			☐	☐	☐	

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐			☐	☐	☐	

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF108

形態：演習

到達目標	多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な音楽能力が向上することを目標とする。
------	--

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】		
第1回	ソルフエージュ1の試験の解説			事前 事後	ソルフエージュ1の試験の解説の予習 ソルフエージュ1の試験の解説の復習
第2回	(聴音 a) 単旋律 3声体 密集 F dur	(視唱 A) 発声スケール (ジグザグ型) 発声	(クレ A) テノール譜表	事前 事後	視唱 A、クレ A の予習 聴音 a の復習
第3回	(聴音 b) 単旋律 3声体 開離 F dur	(視唱 B) 発声スケール (ジグザグ型) ピアノ伴奏	(クレ B) テノール譜表	事前 事後	視唱 B、クレ B の予習 聴音 b の復習
第4回	(聴音 c) 単旋律 3声体 密集 d moll	(視唱 C) ダンノーゼル C dur	(クレ C) テノール譜表	事前 事後	視唱 C、クレ C の予習 聴音 c の復習
第5回	(聴音 d) 単旋律 3声体 開離 d moll	(視唱 D) ダンノーゼル a moll	(クレ D) テノール譜表	事前 事後	視唱 D、クレ D の予習 聴音 d の復習
第6回	(聴音 e) 単旋律 4声体 密集 C dur	(視唱 E) ダンノーゼル G dur	(クレ E) テノール譜表	事前 事後	視唱 E、クレ E の予習 聴音 e の復習
第7回	(聴音 f) 単旋律 4声体 開離 C dur	(視唱 F) ダンノーゼル e moll	(クレ F) テノール譜表	事前 事後	視唱 F、クレ F の予習 聴音 f の復習
第8回	(聴音 g) 単旋律 4声体 密集 a moll	(視唱 G) ダンノーゼル F dur	(クレ G) ソプラノ譜表	事前 事後	視唱 G、クレ G の予習 聴音 g の復習
第9回	(聴音 h) 複旋律 4声体 開離 a moll	(視唱 H) ダンノーゼル d moll	(クレ H) ソプラノ譜表	事前 事後	視唱 H、クレ H の予習 聴音 h の復習
第10回	(聴音 i) 複旋律 4声体 密集 G dur	(視唱 I) ダンノーゼル D dur	(クレ I) ソプラノ譜表	事前 事後	視唱 I、クレ I の予習 聴音 i の復習
第11回	(聴音 j) 複旋律 4声体 開離 G dur	(視唱 J) ダンノーゼル h moll	(クレ J) ソプラノ譜表	事前 事後	視唱 J、クレ J の予習 聴音 j の復習
第12回	(聴音 k) 複旋律 5声体 C dur	(視唱 K) ダンノーゼル B dur	(クレ K) ソプラノ譜表	事前 事後	視唱 K、クレ K の予習 聴音 k の復習
第13回	(聴音 l) 複旋律 5声体 a moll	(視唱 L) ダンノーゼル g moll	(クレ L) ソプラノ譜表	事前 事後	視唱 L、クレ L の予習 聴音 l の復習
第14回	まとめ			事前 事後	まとめの予習 まとめの復習
第15回	試験の解説			事前 事後	試験の解説の予習 試験の解説の復習

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 城多又兵衛解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社出版）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐			☐	☐	☐	

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF107

形態：演習

单位数：1 单位

概要	ソルフェージュとは「音楽能力の総合的な基礎訓練」である。そのために、聴音（単旋律、複旋律、和声、リズム、記憶）、視唱、クレ読みなどを行う。また「ダンノーゼル」「管楽器による聴音」も扱う。
----	---

到達目標	多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な力を養い、声楽や器楽の演奏能力の向上に役立たせることを目標とする。
------	---

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【AL】	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】				
第1回	(聴音 a)単旋律 高音部譜表	(視唱 A)発声スケール 発声	(クレ A) 高音部譜表	事前	視唱 A、クレ A の予習	「ソルフェージュ」の項目を事典で読む	45 分
				事後	聴音 a の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第2回	(聴音 b)単旋律 低音部譜表	(視唱 B)発声スケール ピアノ伴奏	(クレ B) 高音部譜表	事前	視唱 B、クレ B の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 b の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第3回	(聴音 c)単旋律 臨時記号	(視唱 C) ダンノーゼ ル 2 度音程(基礎)	(クレ C) 高音部譜表	事前	視唱 C、クレ C の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 c の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第4回	(聴音 d)単旋律 リズム	(視唱 D) ダンノーゼ ル 2 度音程(発展)	(クレ D) 高音部譜表	事前	視唱 D、クレ D の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 d の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第5回	(聴音 e)複旋律 調号なしの長調	(視唱 E) ダンノーゼ ル 3 度音程(基礎)	(クレ E) 高音部譜表	事前	視唱 E、クレ E の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 e の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第6回	(聴音 f)複旋律 調号なしの短調	(視唱 F) ダンノーゼ ル 3 度音程(発展)	(クレ F) 高音部譜表	事前	視唱 F、クレ F の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 f の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第7回	(聴音 g)複旋律 調号 1 つまでの長調	(視唱 G) ダンノーゼ ル 4 度音程(基礎)	(クレ G) 高音部譜表	事前	視唱 G、クレ G の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 g の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第8回	(聴音 h)複旋律 調号 1 つまでの短調	(視唱 H) ダンノーゼ ル 4 度音程(発展)	(クレ H) 低音部譜表	事前	視唱 H、クレ H の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 h の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第9回	(聴音 i)和音 二和音	(視唱 I) ダンノーゼ ル 5 度音程(基礎)	(クレ I) 低音部譜表	事前	視唱 I、クレ I の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 i の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第10回	(聴音 j)和音 三和音	(視唱 J) ダンノーゼ ル 5 度音程(発展)	(クレ J) 低音部譜表	事前	視唱 J、クレ J の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 j の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第11回	(聴音 k)2 声体 調号なしの長調	(視唱 K) ダンノーゼ ル 6 度音程(基礎)	(クレ K) 低音部譜表	事前	視唱 K、クレ K の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 k の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第12回	(聴音 l)2 声体 調号なしの短調	(視唱 L) ダンノーゼ ル 6 度音程(発展)	(クレ L) 低音部譜表	事前	視唱 L、クレ L の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 l の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第13回	(聴音 m)3 声体 調号 1 つまでの長調	(視唱 M) ダンノーゼ ル 7 度音程(基礎)	(クレ M) 低音部譜表	事前	視唱 M、クレ M の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 m の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第14回	(聴音 n)3 声体 調号 1 つまでの短調	(視唱 N) ダンノーゼ ル 7 度音程(発展)	(クレ N) 低音部譜表	事前	視唱 N、クレ N の予習	課題を読む、歌う	45 分
				事後	聴音 n の復習	誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分
第15回	まとめ			事前	まとめの予習		45 分
				事後	まとめの復習		45 分

フィードバック 答案の返却及びその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業態度 50%

テキスト 城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐			☐	☐	☐	

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：SLF108

形態：演習

到達目標	多様な活動を通して、「音楽を聴いて楽譜に書く」「楽譜を読んで音楽として表現する」といった基礎的な力を養い、声楽や器楽の演奏能力の向上に役立たせることを目標とする。
------	---

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

【AL】	【聴音】	【視唱】	【クレ読み】			
第1回	(聴音 a)単旋律 休符	(視唱 A) ダンノーゼル C dur, G dur, D dur	(クレ A) アルト譜表	事前 視唱 A、クレ A の予習 事後 聴音 a の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 b)単旋律 タイ	(視唱 B) ダンノーゼル A dur, E dur	(クレ B) アルト譜表	事前 視唱 B、クレ B の予習 事後 聴音 b の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第3回	(聴音 c)単旋律 拍子	(視唱 C) ダンノーゼル H dur, Fis dur	(クレ C) アルト譜表	事前 視唱 C、クレ C の予習 事後 聴音 c の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 d)単旋律 調	(視唱 D) ダンノーゼル Ges dur, Des dur	(クレ D) アルト譜表	事前 視唱 D、クレ D の予習 事後 聴音 d の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第5回	(聴音 e)複旋律 調号 2 つまでの長調	(視唱 E) ダンノーゼル As dur, Es dur	(クレ E) アルト譜表	事前 視唱 E、クレ E の予習 事後 聴音 e の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 f)複旋律 調号 2 つまでの短調	(視唱 F) ダンノーゼル B dur, F dur	(クレ F) アルト譜表	事前 視唱 F、クレ F の予習 事後 聴音 f の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第7回	(聴音 g)複旋律 調号 3 つまでの長調	(視唱 G) ダンノーゼル 転調	(クレ G) アルト譜表	事前 視唱 G、クレ G の予習 事後 聴音 g の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 h) 複旋律 調号 3 つまでの短調	(視唱 H) ダンノーゼル c moll, g moll, d moll	(クレ H) テノール譜表	事前 視唱 H、クレ H の予習 事後 聴音 h の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第9回	(聴音 i) 4 声体 調号なしの長調	(視唱 I) ダンノーゼル a moll, e moll	(クレ I) テノール譜表	事前 視唱 I、クレ I の予習 事後 聴音 i の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 j) 4 声体 調号なしの短調	(視唱 J) ダンノーゼル h moll, fis moll	(クレ J) テノール譜表	事前 視唱 J、クレ J の予習 事後 聴音 j の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第11回	(聴音 k) 4 声体 調号 1 つまでの長調	(視唱 K) ダンノーゼル cis moll, gis moll	(クレ K) テノール譜表	事前 視唱 K、クレ K の予習 事後 聴音 k の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 l) 4 声体 調号 1 つまでの短調	(視唱 L) ダンノーゼル as moll, es moll	(クレ L) テノール譜表	事前 視唱 L、クレ L の予習 事後 聴音 l の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第13回	(聴音 m) 5 声体 調号なしの長調	(視唱 M) ダンノーゼル b moll, f moll	(クレ M) テノール譜表	事前 視唱 M、クレ M の予習 事後 聴音 m の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
	(聴音 n) 5 声体 調号なしの短調	(視唱 N) ダンノーゼル 半音階	(クレ N) テノール譜表	事前 視唱 N、クレ N の予習 事後 聴音 n の復習	課題を読む、歌う 誤答と正答をピアノで弾き比べる	45 分 45 分
第15回	まとめ			事前 まとめの予習 事後 まとめの復習		45 分 45 分

フィードバック 答案の返却及びその解説により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業態度 50%

テキスト 城多又兵衛 解説『ダンノーゼルのソルフェージュ 上』（音楽之友社）

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 単位を既に取得した短大2年生のうち本授業の聴講希望者は、音楽基礎科目主任まで申し出ること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐		☐	☐	☐	☐	

合唱Ⅰ-1・Ⅱ-1

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

教授 細谷美直 科目コード：VEN101／VEN201

専門／学年：全専門／1～2 年次、専攻科

形態：実技 単位数：1 単位

概要 合唱における基本的な歌唱法、すなわち姿勢・ストレッチ・呼吸法・発声法を学ぶ授業である。
テキストへの理解を深めつつ、表現力を育む。

到達目標 ハーモニーを作りあげるプロセスを体得し様々な合唱様式や表現方法を学ぶことを目標とする。
基本的な歌唱法すなわち、姿勢・ストレッチ・呼吸法・発声法を習得しながら合唱することの喜びを体得していく。定期演奏会に向け様々な合唱様式や表現方法を学び、和声感・調性感も高めていきたい。

第 1 回			ガイダンス 声種分け P1 - A～P3 20 小節	事前 曲のテキストを読む 事後 合唱曲①P1～P3 20 小節まで音取り練習をする	40 分 50 分
第 2 回			合唱の基礎トレーニング 1 姿勢、ストレッチ、呼吸法を中心に	事前 合唱曲①P3～P5 59 小節まで譜読みをする 事後 合唱曲①P3～P5 59 小節まで音、リズム等確認する	40 分 50 分
第 3 回			合唱の基礎トレーニング 2 ストレッチ、呼吸法、発声法を中心に	事前 合唱曲①P5～P7 77 小節まで音取り練習をする 事後 合唱曲①P5～P7 77 小節まで音、リズム等確認する	40 分 50 分
第 4 回			合唱の基礎トレーニング 3 ハーモニー感覚を身につけていく	事前 合唱曲①P7～P9 34 小節まで音取り練習をする 事後 合唱曲①P7～P9 34 小節まで音、リズム等確認する	40 分 50 分
第 5 回			合唱曲①を学ぶ 1 パート別練習と全体練習	事前 合唱曲①P9～P11 61 小節まで音取り練習をする 事後 合唱曲①P9～P11 61 小節まで音、リズム等確認する	40 分 50 分
第 6 回			合唱曲①を学ぶ 2 パート別練習と全体練習、強弱を意識する	事前 合唱曲①P1～P5 59 小節まで各パートを意識して練習する 事後 合唱曲①P1～P5 59 小節まで各パートを意識して練習する	40 分 50 分
第 7 回			合唱曲①を学ぶ 3 パート別練習と全体練習、テンポの変化を意識する	事前 合唱曲①P5～P9 34 小節まで譜読みの確認をする 事後 合唱曲①P5～P9 34 小節まで各パートを意識して練習する	40 分 50 分
第 8 回			合唱曲①を学ぶ 4 パート別練習と全体練習、詩の内容を考える	事前 合唱曲①P9～P12 39 小節まで譜読みの確認をする 事後 合唱曲①P9～P12 39 小節までパートを意識して練習する	40 分 50 分
第 9 回			合唱曲②を学ぶ 1 パート別練習と全体練習 P9～P11・61 小節	事前 合唱曲②P9～P11 61 小節まで譜読みの確認をする 事後 合唱曲②P9～P11 61 小節までパートを意識して練習する	40 分 50 分
第 10 回			合唱曲②を学ぶ 2 パート別練習と全体練習 P11～P13・46 小節	事前 合唱曲②P11～P13 46 小節まで譜読みの確認をする 事後 合唱曲②P11～P13 46 小節までパートを意識して練習する	40 分 50 分
第 11 回			合唱曲②を学ぶ 3 パート別練習と全体練習 P13～P15・22 小節	事前 合唱曲②P13～P15 22 小節まで譜読みの確認をする 事後 合唱曲②P13～P15 22 小節までパートを意識して練習する	40 分 50 分
第 12 回			合唱曲②を学ぶ 4 パート別練習と全体練習 P16～P18・52 小節	事前 合唱曲②P16～P18 52 小節まで譜読みの確認をする 事後 合唱曲②P16～P18 52 小節までパートを意識して練習する	40 分 50 分
第 13 回			合唱曲②を学ぶ 5 パート別練習と全体練習 P18～P19・35 小節	事前 合唱曲②P18～P19 35 小節まで譜読みの確認をする 事後 合唱曲②P18～P19 35 小節までパートを意識して練習する	40 分 50 分
第 14 回			合唱曲①を暗譜する 1 P1～P5・60 小節	事前 合唱曲①P1～P5 60 小節まで暗譜をする 事後 合唱曲①P1～P5 60 小節まで暗譜の定着	40 分 50 分
第 15 回			まとめ	事前 合唱曲①P5～P9 34 小節まで暗譜をする 事後 合唱曲①P5～P9 34 小節まで暗譜の定着	40 分 50 分

フィードバック 試演会、リハーサルについて、コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 50%、授業への取り組み 30%、リハーサルの成果 20%

テキスト 授業内に指示する

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 定期演奏会に向け生き生きとした演奏、美しいハーモニーを追求する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

合唱Ⅰ-2・Ⅱ-2

※教育職員免許状取得に関わる科目※音楽療法士養成に関する科目

教授 細谷美直 科目コード：VEN102／VEN202

専門／学年：全専門／1～2 年次、専攻科

形態：実技 単位数：1 単位

概要 ハーモニーとは何か？を感じながら音楽づくりをし、演奏会に向け、リハーサルを重ねていく。

到達目標 演奏会に向けリハーサルを重ねていく中で、合唱することの喜びとともに演奏の完成度を上げる。
邦人の合唱曲も取り入れ、日本の伝統的歌唱を学ぶ。発声・発音技術（言葉と音楽の関わり）を身につけ繊細な感性・感覚を養っていく。

授業計画			
第 1 回	合唱曲②を暗譜する 3 P9～P11・61 小節	事前	合唱曲②P9～P11 61 小節まで暗譜をする 40 分
		事後	合唱曲②P9～P11 61 小節まで暗譜の定着 50 分
第 2 回	合唱曲②を暗譜する 4 P11～P13・49 小節	事前	合唱曲②P11～P13 49 小節まで暗譜をする 40 分
		事後	合唱曲②P11～P13 49 小節まで暗譜の定着 50 分
第 3 回	曲を仕上げていく 1 強弱、テンポの変化、休符等を正確にしてい	事前	合唱曲②P13～P16 22 小節まで譜読みをする 40 分
		事後	合唱曲②P13～P16 22 小節まで暗譜をする 50 分
第 4 回	曲を仕上げていく 2 ハーモニーを意識しアンサンブル力を高める	事前	合唱曲②P16～P18 9 小節まで譜読みをする 40 分
		事後	合唱曲②P16～P18 9 小節まで楽譜をしっかりと読み込む 50 分
第 5 回	曲を仕上げていく 3 表現力を身につけ、音楽性を高めていく	事前	合唱曲②P18～P21 47 小節まで譜読みをする 40 分
		事後	合唱曲②P18～P21 47 小節まで楽譜を正確に読み込む 50 分
第 6 回	合唱曲② 暗譜を確実にしてい	事前	合唱曲②P21～P23 72 小節まで譜読みの確認 40 分
		事後	合唱曲②P21～P23 72 小節まで暗譜練習をする 50 分
第 7 回	合唱曲①、② 総合練習 ホールリハーサル 1	事前	合唱曲①及び②の楽譜を確認する 40 分
		事後	合唱曲①及び②の読譜を定着させていく 50 分
第 8 回	立ち並びとインフォメーションづくり ホールリハーサル 2	事前	合唱曲①及び②を暗譜する 40 分
		事後	合唱曲①及び②の暗譜を確認する 50 分
第 9 回	定期演奏会の G P および本番 ホールリハーサル 3	事前	ハンドサインを確認しておく 40 分
		事後	全体的に楽譜を見直す 50 分
第 10 回	定期演奏会の反省	事前	演奏会を振り返る 40 分
		事後	新曲の楽譜を読む 50 分
第 11 回	アンサンブル感覚を養う 1 アカペラ曲 パート練習と全体練習	事前	合唱曲③P1～P2 の音取りをする 40 分
		事後	合唱曲③P3～P4 の音程、リズムの確認をする 50 分
第 12 回	アンサンブル感覚を養う 2 アカペラ曲によるアンサンブル演習	事前	合唱曲③P4～P5 の音取りをする 40 分
		事後	合唱曲③P5～P6 の音程、リズムの確認をする 50 分
第 13 回	アンサンブル感覚を養う 3 暗譜を定着させていく	事前	合唱曲③P1～P3 の暗譜をする 40 分
		事後	合唱曲③P1～P3 の暗譜を定着させる 50 分
第 14 回	総合演習	事前	合唱曲③P4～P6 の暗譜をする 40 分
		事後	合唱曲③P4～P6 の暗譜を定着させる 50 分
第 15 回	まとめ	事前	合唱曲③の楽譜の確認をする 40 分
		事後	合唱曲③の反省 50 分

フィードバック 演奏会、レポート提出により、コメントで学修成果をフィードバックし、その後の授業に反映させる。

成績評価 試験 50%、授業への取り組み 30%、定期演奏会の成果 20%

テキスト 授業内に指示する

オフィスアワー 授業終了後、教室にて

備考 定期演奏会に向け生き生きとした演奏、美しいハーモニーを追求する。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	机上の理論によってではなく、鍵盤上での実習を通して和声進行を身につける。

到達目標	さまざまな調の音階とカデンツを反復練習し、Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ7の基本形から転回形の活用を学ぶ。メロディに合わせた伴奏形を考える。
------	--

授業計画	各調の主要三和音の基本形から転回形を確認し、自由に往来できるように訓練する。和音記号を用いて、メロディーに伴奏付けをする。メロディー奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。さらに、初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学び実践する。弾き歌いやコードネームなども学習し、実習現場で必要と思われる課題を取り上げてみる。
------	--

第 1 回	授業内容についてのガイダンス 鍵盤和声とは何か	事前 授業計画を確認する 事後 授業内容を理解する	30 分 60 分
第 2 回	長音階 長調の主要三和音	事前 長音階の練習 事後 主要三和音の復習	30 分 60 分
第 3 回	長調 終止形	事前 属七の和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 4 回	長調 メロディ奏	事前 メロディの弾き方について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 5 回	長調 メロディに和音をつける	事前 テンボ感、フレーズ感について考える 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 6 回	長調 和音記号による和音付	事前 和音記号の理解 事後 和音記号の復習	30 分 60 分
第 7 回	長調 リズム伴奏を考える	事前 和音付の復習 事後 コード型とアルペジオ型の反復練習	30 分 60 分
第 8 回	長調 メロディ奏→和音付→リズム伴奏	事前 伴奏型の復習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 9 回	短音階 短調の主要三和音	事前 短音階の練習 事後 短音階と主要三和音の復習	30 分 60 分
第 10 回	短調 終止形・メロディ奏	事前 短音階の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 11 回	短調 和音付	事前 短調の主要三和音の理解 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 12 回	長調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 長調の課題の復習 事後 長調のメロディを作る	30 分 60 分
第 13 回	短調の和音にメロディを作る 伴奏形を考える	事前 短調の課題の復習 事後 短調のメロディを作る	30 分 60 分
第 14 回	和音型とリズム型の伴奏 課題に取り組む	事前 課題の反復練習 事後 課題の反復練習	30 分 60 分
第 15 回	和音型とリズム型の伴奏を発表する 前期総括	事前 課題の反復練習 事後 指摘のあった箇所の復習	60 分 30 分

フィードバック	授業での課題や提出物について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
------	---------------------------

テキスト	授業時にプリントを配布する。
------	----------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて
---------	-----------

アクティブ・ラーニング	・2, 3 人ずつに分かれ、メロディーと和音符を連弾曲に仕上げる ・歌うことに伴奏をつけ発表する
-------------	---

備考	欠席時に配布した課題プリントは翌週に再度配布しないので、各自で対応すること。
----	--

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐

非常勤講師 石井み予乃		科目コード：SLF104
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：演習	単位数：1 単位	
概要	初見演奏、弾き歌い、移調奏、コードネームなどを体験し、実習現場で必要と思われる力を身につける。	

到達目標	旋律の演奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学ぶ。そして、実践を重ねることにより、現場に対応できる力を養う。
------	--

授業計画	各調の主要三和音の基本形から転回形を確認し、自由に往来できるように訓練する。和音記号を用いて、メロディーに伴奏付けをする。メロディー奏にも重点をおき、フレーズ感を養う。さらに、初見演奏に欠かせない読譜の仕方を学び実践する。弾き歌いやコードネームなども学習し、実習現場で必要と思われる課題を取り上げてみる。
------	--

第 1 回	初見演奏 予見について	事前	前期の復習	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 2 回	初見演奏 予見から演奏時の注意	事前	授業内課題以外の自己練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 3 回	初見演奏 課題に取り組む	事前	授業内課題以外の自己練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 4 回	弾き歌い 「弾く」と「歌う」について	事前	初見演奏の自己練習	60 分
		事後	歌う	30 分
第 5 回	弾き歌い 演奏時の注意	事前	課題の反復練習	60 分
		事後	注意の確認	40 分
第 6 回	弾き歌い 課題に取り組む	事前	バランスを考えての弾き歌い練習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 7 回	移調奏 楽譜の捉え方	事前	移調とは何かを考える	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 8 回	移調奏 様々な調整に移調してみる	事前	様々な調整の確認	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 9 回	コードネーム 仕組みについて	事前	コードネームと和音記号比べる	40 分
		事後	コードネームと和音記号の理解	50 分
第 10 回	コードネーム 仕組みを理解し和音付	事前	コードネームの仕組みの復習	40 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 11 回	コードネーム 唱歌や童謡に伴奏をつける	事前	コードネームの仕組みの復習	30 分
		事後	課題の反復練習	60 分
第 12 回	カウンターライン メロディとコードネームから対旋律をみつける	事前	コードネーム仕組みの復習	40 分
		事後	カウンターラインを考える	50 分
第 13 回	カウンターライン 対旋律を作る	事前	カウンターラインのルールの復習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 14 回	カウンターラインのまとめ 後期総括	事前	後期の復習	40 分
		事後	課題の反復練習	50 分
第 15 回	一年間のまとめ	事前	試験課題の自己練習	60 分
		事後	一年間のまとめ	30 分

フィードバック	授業での課題や提出物について、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	--

成績評価	授業への積極的な取組 50%、試験・提出物 50%
------	---------------------------

テキスト	授業時にプリントを配布する。
------	----------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて
---------	-----------

アクティブ・ラーニング	・2, 3 人ずつに分かれ、メロディーと和音符を連弾曲に仕上げる ・歌うことに伴奏をつけ発表する
-------------	---

備考	欠席時に配布した課題プリントは翌週に再度配布しないので、各自で対応すること。
----	--

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

非常勤講師 中島範子		科目コード：SLF103
専門／学年： 全専門／1年次		
形態：演習	単位数：1単位	
概要	基本的な和声感、また、和声進行と旋律との関連性を理解して、鍵盤楽器でメロディに伴奏を付けるための実用的な演奏技法を学習する。	
到達目標	基本的な和声を用いてメロディに伴奏を付けられるようにする。拍子感、テンポに合わせての伴奏形態を理解する。	

授業計画		
【AL】		
第1回	授業内容についてのガイダンス 主要三和音の進行と和声感	事前 楽典のテキストで和音の項目の内容を確認する。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第2回	基本的な和音の配置のカデンツ奏	事前 プリント課題の和声感と和音記号を確認する。 事後 カデンツ奏の反復練習をする。 30分 60分
第3回	基本的な和音の配置のカデンツ奏と移調	事前 楽典のテキストで音階・調号の項目の内容を確認する。 事後 いろいろな調性でのカデンツ奏の反復練習をする。 20分 70分
第4回	基本的な和音の配置とコードネームの連結・理解	事前 カデンツ奏の和音の構成音を確認する。 事後 いろいろな調性でのカデンツ奏の反復練習をする。 30分 60分
第5回	メロディー奏と和音付け（長調）	事前 コードネームを確認しておく。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第6回	メロディー奏と伴奏付け（短調）	事前 前回の課題の左手の和音の構成音を確認する。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第7回	メロディー奏と拍子・リズムに合わせた伴奏付け	事前 カデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題のいろいろな伴奏形態を意識して反復練習をする。 30分 60分
第8回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第9回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調 属七を含む	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第10回	長調の課題による伴奏付け	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第11回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第12回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調 属七を含む	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第13回	短調の課題による伴奏付け	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。 30分 60分
第14回	これまでの課題の発展した左手の伴奏形態の演習	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。 30分 60分
第15回	伴奏付け課題 発表・試験	事前 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。 事後 発表時に気付いた改善点を修正する。 70分 20分

フィードバック 授業での実習時の解説、提出課題の添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 40%、課題提出、授業への積極的な取り組み 60%
試験時の課題の演奏により理解度を測る。授業時の実習に取り組む姿勢を重視する。

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

備考 欠席時も含め、課題プリントは各自できちんと管理すること。

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

鍵盤和声Ⅰ-2b

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 中島範子	科目コード：SLF104
専門／学年：全専門／1 年次	

形態：演習	単位数：1 単位
概要	前期で習得した技法を基に、移調、転調を含めた課題を実習する。初見奏、弾きうたいを体験し、実習の場で応用できるよう実践する。

到達目標	コードネームの理解を深め、移調奏、転調を含めた伴奏付けが出来るようにする。
------	---------------------------------------

授業計画		
【AL】		
第 1 回	前期の復習 ① 左手コードの確認	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。30 分 60 分
第 2 回	前期の復習 ② 移調奏	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。 事後 プリント課題の反復練習をする。30 分 60 分
第 3 回	初見奏 ① 予見	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。30 分 事後 プリント課題の他、手近な楽譜で初見奏する。60 分
第 4 回	初見奏 ② 演奏時の注意	事前 手近な楽譜で読譜する。30 分 事後 プリント課題の他、手近な楽譜で初見奏する。60 分
第 5 回	様々な教材（童謡）による伴奏付け	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 6 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 長調 副七を含む	事前 長調のカデンツ奏の練習をする。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 7 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 短調 副七を含む	事前 短調のカデンツ奏の練習をする。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 8 回	弾き歌い ① 伴奏形を考える	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 9 回	弾き歌い ② 歌いながらの伴奏付け	事前 ソルフェージュの教材などで視唱する。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 10 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音について	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 11 回	様々な教材（唱歌）による伴奏付け	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 12 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音を含む	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 13 回	和音記号・コードネームと伴奏付け 借用和音の転回形を含む	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。30 分 事後 プリント課題の反復練習をする。60 分
第 14 回	総合演習	事前 いろいろな調性のカデンツ奏の練習をする。30 分 事後 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。60 分
第 15 回	伴奏付け課題 発表・試験	事前 これまでの課題で左手の伴奏形態を変えて反復練習をする。70 分 事後 反省点を振り返る。20 分

フィードバック	授業での実習時の解説、提出課題の添削やコメントで学修成果をフィードバックする。
---------	---

成績評価	試験 40%、課題提出、授業への積極的な取り組み 60% 試験時の課題の演奏により理解度を測る。授業時の実習に取り組む姿勢を重視する。
------	--

テキスト	授業時にプリントを配布する。
------	----------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて。
---------	------------

備考	欠席時も含め、課題プリントは各自できちんと管理すること。
----	------------------------------

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	☒	□	☒	□	☒	□	□	☒	□	□	□

ピアノ伴奏法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

非常勤講師 長瀬賢弘

科目コード：PLE201

専門／学年：全専門／2 年次、専攻科

形態：講義	単位数：2 単位
概要	演奏においてピアノ伴奏の担う役割は多岐にわたる。この授業では、主に声楽作品（歌曲、合唱曲）を取り上げ、次の観点からアプローチをおこなう。 ①詩、言葉の内容がピアノ伴奏パートにどのように反映されているかを把握する。 ②歌い手の呼吸、表現に相応しい伴奏法を考える。
到達目標	実際のピアノ伴奏の現場で役立つ数々の事柄の習得を目指す

授業計画 第 1 回から第 6 回までは、これまでの演奏経験を思い出しながら、「伴奏とはそもそもどんなものであったか」を起点に、伴奏の普遍的な価値について再考察する。第 7 回以降は、『ピアノ共演法』の本を読みながら歌曲、合唱曲、オーケストラ伴奏についての概論を講義する。様々な作品の曲の解釈、演奏法などに踏み込んでいく。

第 1 回	全 15 回の講義内容計画の説明。 伴奏者の役目についての考察。	事前 自身の伴奏体験談をまとめる。 事後 授業内容の復習。	135 分 135 分
第 2 回	伴奏法概論(1) 伴奏とはなにか、伴奏はなんのためにあるのか。	事前 これまでの音楽活動の中で抱いた伴奏に関する疑問、悩みを総括し、まとめてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135 分 135 分
第 3 回	伴奏法概論(2) 伴奏と室内楽の違いは何か。	事前 これまで当たり前に使ってきたアンサンブル用語を書き出し、その意味を再考してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135 分 135 分
第 4 回	伴奏法概論(3) ブランデンブルク協奏曲からみる様々な「伴奏」の形。	事前 バッハの「ブランデンブルク協奏曲第 5 番」を聞いてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135 分 135 分
第 5 回	伴奏法概論(4) なぜ歌は伴奏に回ることが少ないのか	事前 「人の声」の音楽全般におけるポジションと、その変遷について調べ、考察してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135 分 135 分
第 6 回	伴奏法概論(5) 歌が伴奏に回る例、西洋音楽以外での歌と伴奏の形。	事前 作品の中の一部でも歌が伴奏に回る例がある作品はどんなものがあるかを調べてくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135 分 135 分
第 7 回	ピアノ伴奏・実践編(1) 基本の確認 咄嗟の時に優先する手は？目で見て合わせる？自由に移調できるようになるには？	事前 伴奏では何が求められ、それを実現するためにはどうすれば良いかを考えてくる。 事後 実際に例で取り上げたコツやトレーニングを毎日の楽器練習の中で実践してみる。	135 分 135 分
第 8 回	ピアノ伴奏・実践編(2) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第 1 章～第 2 章 共演ピアニストの役割、呼吸するとはどういうことか。	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第 1 章～第 2 章を読んでくる 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135 分 135 分
第 9 回	ピアノ伴奏・実践編(3) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第 3 章 歌曲伴奏における 3 大要素「ブレス」「発音」「抑揚」	事前 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第 3 章を読んでくる 事後 授業で触れた曲について、「ブレス」「発音」「抑揚」の観点からそれぞれの特徴を掴む。	135 分 135 分
第 10 回	ピアノ伴奏・実践編(4) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第 3 章 狂気のベスから考察する抑揚の意味と 3 つの方針。	事前 もし歌や伴奏から抑揚を一切排したらどうなるかを考え、そのような作品があるか探す。 事後 授業で取り上げた曲を聴き、歌詞の意味と表現の関連性を再確認する。	135 分 135 分
第 11 回	ピアノ伴奏・実践編(5) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第 4 章 テキストの構造と音楽における「接続」	事前 音楽の「接続」とは何かを考えてくる。 事後 「接続」を意識して、毎日の楽器練習を行ってみる。	135 分 135 分
第 12 回	ピアノ伴奏・実践編(6) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第 4 章 音で複数の登場人物を表現するには。	事前 音楽で複数の登場人物を弾き分けるにはどうすればよいかを考え、まとめてくる。 事後 授業で取り上げた弾き分けのテクニックを、毎日の楽器練習の中で実践してみる。	135 分 135 分
第 13 回	ピアノ伴奏・実践編(7) 『ピアノ共演法』マーティン・カツ著 第 5 章 前奏、間奏、後奏を制する。	事前 前奏、間奏、後奏を弾くときの大切なポイントとは何かを考察してくる。 事後 プリントの穴埋めの確認。取り上げた曲を弾いてみる。	135 分 135 分
第 14 回	ピアノ伴奏・実践編(8) 総集編 合唱幻想曲を伴奏の観点から分析してみよう。	事前 これまで授業の中で取り上げた作品を復習し、専門用語を自由に使えるよう再確認する。 事後 プリントの穴埋めの確認。ベートーヴェンの「合唱幻想曲」を聴き返し、弾いてみる。	135 分 135 分
第 15 回	まとめと感想レポート作成	事前 講義全般の感想レポートの内容を考えてくる。 事後	270 分 分

フィードバック 感想レポートについてはコメントをつけて返却を行う。

成績評価 授業への取り組み方、授業態度、感想レポートによる。

テキスト "参考資料"マーティン・カツ著『ピアノ共演法』
他は授業内に指示する。
必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業後教室にて または E メールにて対応 yoshihiro@obligato.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐

ピアノ特殊講義

非常勤講師 長瀬賢弘

科目コード：PLE202

専門／学年：ピアノ専門／2 年次、専攻科

形態：講義	単位数：2 単位
概要	よく知られたピアノ名曲の演奏法をとりあげる。その作曲家、作品の背景について学び、音楽的理解を深める。また、楽譜の読み方や演奏時の具体的な運指、手の使い方など、技術的問題を考察する。

到達目標 名曲の演奏や指導を求められる機会に、対応できるようにする。

授業計画 前半は名曲の演奏法が中心。後半はこどもへの教育法を講義する。並行して最後の発表での準備を進めていく。

第 1 回	全 15 回の講義内容計画の説明。 演奏者と指導者の役割についての考察。	事前 これまでの指導体験をまとめる。 事後 授業内容の復習。	135 分 135 分
第 2 回	バッハ 平均律クラヴィーア曲集 第 1 巻 第 1 番 プレリュード 和声について	事前 バッハ 平均律クラヴィーア曲集 第 1 巻 第 1 番 プレリュードの譜読みをしてく 事後 和声の表を完成させる。	135 分 135 分
第 3 回	モーツアルト ソナタ ハ長調 K.545 第 1 楽章 終止形について	事前 モーツアルト ソナタ ハ長調 K.545 第 1 楽章の譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分 135 分
第 4 回	モーツアルト トルコ行進曲 スタイルについて	事前 モーツアルト トルコ行進曲の譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分 135 分
第 5 回	ベートーヴェン エリーゼのために 名曲の背景について	事前 ベートーヴェン エリーゼのためにの譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分 135 分
第 6 回	ベートーヴェン ソナタ 第 14 番 月光より 第 1 楽章 レガート奏法について	事前 ベートーヴェン ソナタ 第 14 番 月光より 第 1 楽章の譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分 135 分
第 7 回	ショパン 小犬のワルツ 作品 64-1 指使いについて	事前 ショパン 小犬のワルツ 作品 64-1 の譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分 135 分
第 8 回	シューマン こどもの情景より 第 7 曲 トロイメライ フレーズについて	事前 シューマン こどもの情景より 第 7 曲 トロイメライの譜読みをしてくる。 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分 135 分
第 9 回	ドビュッシー 前奏曲集 第 1 巻より 第 8 曲 亜麻色の髪乙女 ペダリングについて	事前 ドビュッシー 前奏曲集 第 1 巻より 第 8 曲 亜麻色の髪乙女の譜読みをしてく 事後 講義の内容を踏まえた上で弾いてみる。	135 分 135 分
第 10 回	子どもの教育 教材について 連弾 楽しむことと鑑賞すること	事前 様々な子ども用教材を調べる。 事後 講義で扱った連弾の曲の先生用パートを弾いてみる。	135 分 135 分
第 11 回	子どもの教育 ブルグミュラー 25 の練習曲	事前 ブルグミュラー 25 の練習曲より数曲、弾いてくる。 事後 子どもに手本をみせるべく実際に弾いてみる。	135 分 135 分
第 12 回	子どもの教育 ソナチネアルバム(1)	事前 ソナチネにはどのようなものがあるのかを調べてくる。 事後 ソナチネの成立と発展について復習してくる。	135 分 135 分
第 13 回	子どもの教育 ソナチネアルバム(2)	事前 ソナチネアルバムから 1 曲を弾いてくる。 事後 指導時の注意点をまとめる。	135 分 135 分
第 14 回	子どもの教育 ソナタアルバム	事前 ソナタアルバムから 1 曲を弾いてくる。 事後 指導時の注意点をまとめる。	135 分 135 分
第 15 回	まとめと発表	事前 発表の準備。 事後	270 分

フィードバック レポートについてはコメントをつけて返却を行う。

成績評価 授業への取り組み方、授業態度、最終授業での発表、レポートで評価する。

テキスト ”参考資料”各自で上記の楽譜を用意すること。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 最終授業の発表とは、授業の中での模擬レッスンで担当した曲を一人一曲演奏する。演奏の番でない学生は全員、一人一人の演奏について「良い点」「悪い点」を具体的に上げながら、アドバイスレポートを書いていく（演奏している当人への開示は行わない）。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐

ピアノアンサンブルⅠ-1

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子

科目コード：PEN101

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	ピアノソロ曲で音の響きを聴く力とハーモニー・フレーズ・音のバランスを感じとる力を身につける。

到達目標 アンサンブルに必要である敏感な耳を養うことを目標とする。

授業計画	実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。 前期 15 回、各人 15 分の個人指導
------	---

第 1 回	音の響きを聴く練習(1) 単音の響きを聴く	事前	ピアノの前身の楽器を調べる	80 分
		事後	ピアノの歴史を調べ音色の変遷を意識する	80 分
第 2 回	音の響きを聴く練習(2) 和音の響きを聴く	事前	ピアノの構造を調べる	80 分
		事後	打鍵のしくみを調べる	80 分
第 3 回	音の響きを聴く練習(3) ハーモニー感について	事前	ペダルの構造を調べる	80 分
		事後	ペダル装置の進化を考える	80 分
第 4 回	音の響きを聴く練習(4) 全体の響きを聴く	事前	ペダルの使い方を考える	80 分
		事後	ペダルの踏み方を考える	80 分
第 5 回	ハーモニー感を養う(1) 音色について	事前	バロック・古典派の作品を聴き、音色について考える	80 分
		事後	ロマン派の作品を聴き、音色について考える	80 分
第 6 回	ハーモニー感を養う(2) 強弱について	事前	バロック・古典派の作品を聴き、強弱について考える	80 分
		事後	ロマン派の作品を聴き、強弱について考える	80 分
第 7 回	ハーモニー感を養う(3) 和声について	事前	バロック・古典派の作品を聴き、和声について考える	80 分
		事後	ロマン派の作品を聴き、和声について考える	80 分
第 8 回	ハーモニー感を養う(4) 全体のハーモニー感について	事前	印象派・近現代の作品の技法を調べる	80 分
		事後	近現代の作品の特性を考える	80 分
第 9 回	フレーズ感を養う(1) 旋律の歌い方	事前	旋律を声を出して歌ってみる	80 分
		事後	右手と左手で同じように旋律を歌うことができるか確認する	80 分
第 10 回	フレーズ感を養う(2) 音色について	事前	様々な楽器の音色を聴く	80 分
		事後	様々な楽器の音色に近づけた音が出せる様に、タッチの研究をする	80 分
第 11 回	フレーズ感を養う(3) 強弱について	事前	オーケストラの音色を聴く	80 分
		事後	オーケストラの響きが出せる様にタッチの研究をする	80 分
第 12 回	フレーズ感を養う(4) 表現について	事前	オーケストラの表現方法を感じとる	80 分
		事後	オーケストラのそれぞれの楽器が表現しているようにピアノで演奏できる様に練習をする	80 分
第 13 回	呼吸をあわせる練習(1) 響きを感じる	事前	呼吸について考える	80 分
		事後	呼吸法を研究する	80 分
第 14 回	呼吸をあわせる練習(2) 旋律を感じる	事前	腹式呼吸について考える	80 分
		事後	胸式呼吸について考える	80 分
第 15 回	呼吸をあわせる練習(3) フレーズ感をあわせる	事前	右手と左手で同じ旋律のはし渡しをする練習をする	80 分
		事後	担当教員と同じようにフレーズをおさめる練習をする	80 分

フィードバック 授業内での課題に対して、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。（各担当教員レッスン日）

アクティブ・ラーニング ・アンサンブルを通して、相手の音色、音楽性を感じ取る
・2 人でディスカッションを重ねながら、曲の音楽表現を探る

備考

学位授与の方針との関連														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
□	☒	☒	□	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	□	□	☒

ピアノアンサンブルⅠ-2

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子

科目コード：PEN102

専門／学年：ピアノ専門／1 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	担当教員とモーツァルトとシューベルトの連弾作品を演奏し、担当教員の奏でる音や呼吸を感じとる力を身につける。

到達目標 バランス・ハーモニー・リズム・フレーズを感じる能力を醸成することを目標とする。

授業計画	実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。 後期 15 回、各人 15 分の個人指導
------	---

第 1 回	呼吸をあわせる練習(4) ハーモニーを感じる	事前 自分が演奏したハーモニーを瞬間的に感じる練習をする 事後 担当教員が演奏したハーモニーを瞬間的に感じとる練習をする	80 分 80 分
第 2 回	音のバランスをとる練習(1) 音色に関して	事前 ソロの曲で右手と左手のバランスをとる練習をする 事後 様々な音色を出すためのタッチを考え、様々な音を出せる様に練習をする	80 分 80 分
第 3 回	音のバランスをとる練習(2) 強弱に関して	事前 p で細かいパッセージをレガートで演奏できる様に練習をする 事後 f で細かいパッセージをレガートで演奏できる様に練習をする	80 分 80 分
第 4 回	音のバランスをとる練習(3) 和声に関して	事前 p でバランスのとれた和音の響きで演奏できる様に練習をする 事後 f でバランスのとれた和音の響きで演奏できる様に練習をする	80 分 80 分
第 5 回	音のバランスをとる練習(4) 全体のバランス	事前 ペダルを使用せずに練習をする 事後 ペダルが効果的に使用できているかを確認する	80 分 80 分
第 6 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(1) 音色について	事前 モーツァルトの連弾曲を調べ、1 曲を選び読譜をする 事後 モーツァルトの連弾曲の音色を考えながら練習をする	80 分 80 分
第 7 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(2) 和音について	事前 モーツァルトの連弾曲の時代背景を調べる 事後 作曲家に与えた影響を考える	80 分 80 分
第 8 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(3) 様式について	事前 形式を考え、練習をする 事後 奏法を考え、練習する	80 分 80 分
第 9 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(4) 表現について	事前 曲のキャラクターを考える 事後 コントラストのつけ方の研究をする	80 分 80 分
第 10 回	担当教員とモーツァルトの連弾曲(5) 仕上げ	事前 立体感のある演奏が確認をして、練習をする 事後 バランスを確認して、練習をする	80 分 80 分
第 11 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(1) 音色について	事前 シューベルトの連弾曲を調べ、1 曲選び読譜をする 事後 シューベルトの連弾曲の音色を考え、練習をする	80 分 80 分
第 12 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(2) ハーモニーについて	事前 シューベルトの連弾曲の和声機能を調べる 事後 シューベルトの連弾曲の和声機能を感じる	80 分 80 分
第 13 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(3) フレーズ感について	事前 形式を考えて、練習をする 事後 フレーズ感をもって演奏できる様に練習をする	80 分 80 分
第 14 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(4) バランスについて	事前 立体感のある演奏ができるように練習をする 事後 バランスを確認しながら、練習をする	80 分 80 分
第 15 回	担当教員とシューベルトの連弾曲(5) 仕上げ	事前 曲のキャラクターを考えて、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究する	80 分 80 分

フィードバック 授業内での課題に対してコメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。（各担当教員レッスン日）

アクティブ・ラーニング ・アンサンブルを通して、相手の音色、音楽性を感じ取る
・2 人でディスカッションを重ねながら、曲の音楽表現を探索

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意欲
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

ピアノアンサンブルⅡ-1

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子

科目コード：PEN201

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	石橋メモリアルホールでの 2 台ピアノによる学内演奏会において、2 台ピアノならではの音の響きを感じとり、表現力が溢れる演奏を目指す。

到達目標 2 台ピアノという離れた状態の中、互いの息づかいや音楽を感じとる力を身につける。

授業計画	前期 15 回、各人 15 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	--

第 1 回	2 台ピアノと連弾の違いを感じとる	事前 独奏から連弾へ編曲された曲を探し、聴く 事後 連弾から二台ピアノへ編曲された曲を探し、聴く	80 分 80 分
第 2 回	2 台ピアノの響きを聴く練習(1) 単音の響きを聴く	事前 連弾で単音の響きを聴く 事後 二台ピアノで単音の響きを聴く	80 分 80 分
第 3 回	2 台ピアノの響きを聴く練習(2) 和音の響きを聴く	事前 連弾で様々な和音の響きを聴く 事後 二台ピアノで様々な和音の響きを聴く	80 分 80 分
第 4 回	2 台ピアノの響きを聴く練習(3) 全体の響きを聴く	事前 連弾でカデンツの響きを聴く 事後 二台ピアノでカデンツの響きを聴く	80 分 80 分
第 5 回	息づかいを感じる練習(1) 曲の開始部	事前 2 人の呼吸をあわせる練習をする 事後 2 人の打鍵のスピードをあわせる練習をする	80 分 80 分
第 6 回	息づかいを感じる練習(2) フレーズ感	事前 フレーズ感をもって旋律を演奏できる様に練習をする 事後 相手のフレーズ感と同じように演奏できる様に練習をする	80 分 80 分
第 7 回	息づかいを感じる練習(3) テンポ感	事前 様々なテンポで練習をする 事後 相手のテンポを感じ、相手のテンポ感にあわせる練習をする	80 分 80 分
第 8 回	学内演奏会の曲―響きを聴く(1) 和音―	事前 楽譜を調べ、意識をして読譜をする 事後 読譜の確認をする	50 分 80 分
第 9 回	学内演奏会の曲―響きを聴く(2) 全体―	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探り練習をする 事後 和音の響きを聴き、立体感のある演奏か確認をする	80 分 80 分
第 10 回	学内演奏会の曲―バランスを聴く(1) 和音―	事前 自分のパートの和声機能の確認をして、練習をする 事後 相手のパートの和声機能の確認をして、練習をする	80 分 80 分
第 11 回	学内演奏会の曲―バランスを聴く(2) 全体―	事前 相手のパートの読譜をする 事後 第 1、第 2 ピアノの楽譜を縦に読譜をして、響きの確認をする	80 分 80 分
第 12 回	学内演奏会の曲―息づかいを感じる(1) フレーズ感―	事前 アーティキュレーション・スラーの確認をして、練習をする 事後 相手と同じフレーズ感をもって演奏しているか確認をする	80 分 80 分
第 13 回	学内演奏会の曲―息づかいを感じる(2) テンポ感―	事前 自分が演奏したいテンポを探す 事後 相手のテンポ感を確認し、演奏するテンポを決定する	80 分 80 分
第 14 回	学内演奏会の曲―呼吸をあわせる 旋律の歌い方―	事前 相手のパートの旋律の練習をする 事後 第 1、第 2 ピアノの楽譜を縦に読譜して、旋律の練習をする	80 分 80 分
第 15 回	学内演奏会の曲―仕上げ―	事前 2 人で曲のイメージをしっかり捉えて、演奏をする 事後 ホールの響きを意識して、演奏をする	80 分 80 分

フィードバック 学内演奏会での演奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	メディア・テクノロジー	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☑	□	□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	□

ピアノアンサンブルⅡ-2

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子

科目コード：PEN202

専門／学年：ピアノ専門／2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	担当教員との 2 台ピアノの作品を演奏することで、表現力を養う。

到達目標 2 台ピアノの作品で音楽の豊かな拡がりを体感し、アンサンブルの能力を養うことを目標とする。

授業計画	後期 15 回、各人 15 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。		
第 1 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(1) 旋律の歌い方	事前 読譜をし楽語を調べる 事後 担当教員の旋律の歌い方を想い出し、同様に演奏できるようにする	80 分 80 分
第 2 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(2) ハーモニー感	事前 和声機能の確認をして練習をする 事後 作曲の背景を調べる	80 分 80 分
第 3 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(3) リズム感	事前 舞踏音楽の歴史・リズムを調べ、練習をする 事後 民族音楽の歴史・リズムを調べ、練習に活かす	80 分 80 分
第 4 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(4) 形式・様式に関して	事前 形式を考えて、練習をする 事後 作曲家に及ぼした影響を考える	80 分 80 分
第 5 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(5) 細かいタッチに関して	事前 演奏方法、タッチを考えて、練習をする 事後 担当教員のタッチにあわせる練習をする	80 分 80 分
第 6 回	担当教員と 2 台ピアノの曲(6) ニュアンスに関して	事前 曲のキャラクターを考えて、練習をする 事後 作曲家の要求しているニュアンスと担当教員のニュアンスを考え、練習をする	80 分 80 分
第 7 回	2 台ピアノの表現力を養う(1) 解釈について	事前 掘り下げた読譜をする 事後 相手の表現している音楽、解釈を感じとる練習をする	80 分 80 分
第 8 回	2 台ピアノの表現力を養う(2) 和音感	事前 和音の色彩感を感じとる練習をする 事後 和音のひろがりを感じとる練習をする	50 分 80 分
第 9 回	2 台ピアノの表現力を養う(3) 強弱法	事前 コントラストのつけ方を考え練習をする 事後 バランスを考える	80 分 80 分
第 10 回	2 台ピアノの表現力を養う(4) 音色について	事前 細かい音色を考え、練習をする 事後 相手の細かい音色にあわせる練習をする	80 分 80 分
第 11 回	2 台ピアノの表現力を養う(5) より深い音楽表現	事前 独自の音楽表現を研究する 事後 作曲家の要求している音楽を考えて、練習をする	80 分 80 分
第 12 回	2 台ピアノの音色の豊かな拡がりを感じとる(1) ピアノのふたを半開状態で	事前 ピアノのふたを半開状態で和音を弾き音の拡がりを感じとる練習をする 事後 ピアノのふたを半開状態で細かいパッセージを演奏し、音の拡がりを感じとる練習をする	80 分 80 分
第 13 回	2 台ピアノの音色の豊かな拡がりを感じとる(2) ピアノのふたを全開状態で	事前 ピアノのふたを全開状態で和音を弾き、音の拡がりを感じとる練習をする 事後 ピアノのふたを全開状態で細かいパッセージを演奏し、音の拡がりを感じとる練習をする	80 分 80 分
第 14 回	2 台ピアノの音色の豊かな拡がりを感じとる(3) ピアノの位置を変える	事前 相手のパートの練習をする 事後 第 1 ピアノの右手と第 2 ピアノの左手の練習をする	80 分 80 分
第 15 回	2 台ピアノの音色の豊かな拡がりを感じとる(4) 仕上げ	事前 全体の曲の流れを楽譜から感じとる練習をする 事後 楽譜を見て音楽が頭の中に流れているか確認をする	80 分 80 分
フィードバック	授業内での課題に対してコメントを付け、学修成果をフィードバックする。		

成績評価 授業態度により、評価する。

テキスト 適宜、授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。（各担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	メディア・リテラシー	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐

器楽合奏Ⅰ -1a・Ⅱ -1a

非常勤講師 青木三木栄

科目コード：IEN101／IEN201

専門／学年：器楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	アンサンブルをする場合においての技術的な事（和音におけるピッチの取り方、同種楽器・他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学ぶ。
到達目標	初対面同士でコミュニケーションも図りながら共に音楽をまとめ上げていけるようにする。

授業計画			・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。 ・大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。
第 1 回	自己紹介、グループ分け	事前 自己紹介の仕方を練習する 事後 グループメンバー内の連絡方法を決める	50 分 50 分
第 2 回	和音を重視した易しい楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 5 回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60 分 40 分
第 6 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 7 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60 分 40 分
第 10 回	小発表会	事前 《グループ練習》ゲネプロ 事後 個人練習・反省点を振り返る	80 分 20 分
第 11 回	小発表会反省会、櫻樹祭演奏会用グループ分け	事前 グループ毎に集まり反省点を振り返る 事後 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 12 回	櫻樹祭演奏会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 15 回	前期のまとめ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60 分 40 分

フィードバック レッスン形式で行い、アドバイスを模範演奏によりフィードバックする。

成績評価 授業態度 50％
発表会等の演奏内容 50％

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

器楽合奏Ⅰ -2a・Ⅱ -2a

非常勤講師 青木三木栄

科目コード：IEN102／IEN202

専門／学年：器楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	前期よりも難易度の高い楽曲を取り上げ、よりアンサンブル力を高める。

到達目標	自分達の力である程度のレベルまで仕上げられるようにする。 共に音楽を作る楽しみを味わえるようにする。
------	---

授業計画	・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。 ・大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部 の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。		
第 1 回	上記楽曲より難易度の高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 2 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 3 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 4 回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60 分 40 分
第 5 回	櫻樹祭演奏会本番	事前 《グループ練習》ゲネプロ 事後 個人練習・反省点を振り返る	80 分 20 分
第 6 回	櫻樹祭演奏会反省会、発表会用グループ分け	事前 グループ毎に集まり反省点を振り返る 事後 新しいグループの連絡方法を決める	50 分 50 分
第 7 回	発表会用楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 8 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 9 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 10 回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60 分 40 分
第 11 回	上記楽曲とは時代が異なり、 難易度も高い楽曲を学ぶ（概要）	事前 《個人練習》譜読み 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 12 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 《個人練習》部分練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 13 回	上記楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 《個人練習》全体練習 事後 《個人練習》復習し理解を深める	50 分 50 分
第 14 回	上記楽曲の仕上げ	事前 《グループ練習》全体練習（仕上げ） 事後 《グループ練習》復習し理解を深める	60 分 40 分
第 15 回	発表会本番	事前 《グループ練習》ゲネプロ 事後 一年で学んだことを振り返る	80 分 20 分

フィードバック レッスン形式で行い、アドバイスを模範演奏によりフィードバックする。

成績評価 授業態度 50％
発表会等の演奏内容 50％

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐

器楽合奏Ⅰ-1b・Ⅱ-1b

非常勤講師 兼氏規雄

科目コード：IEN101／IEN201

専門／学年：器楽専門／1年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	指定した曲や学生が希望した曲により、室内楽・アンサンブルに必要な基礎的合奏技術の習得、及びその訓練を行うとともに、多人数での音楽の喜びを体験する。

到達目標	合奏曲を演奏する場合においての技術的なこと（和音における音程の取り方、同種楽器、他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学んだ上、共に音楽を作ってゆく楽しみを味わえるようにする。
------	---

授業計画		・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。 ・大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。	
第 1 回	オリエンテーション、第一回発表会のグループ分けとパート調整	事前 希望のパートがあれば考えておく 事後 次回楽曲の譜読みをしておく	20 分 80 分
第 2 回	和音を重視した易しい楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 4 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 5 回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習と次回楽曲の譜読みをしておく	50 分 50 分
第 6 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 7 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 8 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 9 回	上記楽曲の仕上げ	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習と発表会での演奏曲全曲の復習をしておく	50 分 50 分
第 10 回	第一回発表会	事前 発表会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 11 回	発表会の反省、櫻樹祭演奏会のグループ分けとパート調整	事前 発表会の反省点をまとめておく 事後 次回楽曲の譜読みをしておく	20 分 80 分
第 12 回	櫻樹祭演奏会用の楽曲を学ぶ（概要）	事前 時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 他のパートとの調和を考えながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 14 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 事後 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 15 回	上記楽曲の仕上げ・後期の予告	事前 テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 事後 指摘のあった個所の反復練習と器楽合奏-2b で研究する楽曲の譜読みをしておく	50 分 50 分

フィードバック 発表等を録音し、それを聴くことにより演奏成果をフィードバックする。

成績評価	授業態度 50％ 発表会等の演奏内容 50％
------	---------------------------

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 特になし。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

器楽合奏Ⅰ -2b・Ⅱ -2b

非常勤講師 兼氏規雄

科目コード：IEN102／IEN202

専門／学年：器楽専門／1年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	指定した曲や学生が希望した曲により、室内楽・アンサンブルに必要な基礎的合奏技術の習得、及びその訓練を行うとともに、多人数での音楽の喜びを体験する。

到達目標	合奏曲を演奏する場合においての技術的なこと（和音における音程の取り方、同種楽器、他楽器とのバランス、主旋律と副旋律あるいは伴奏形の演奏法）を学んだ上、共に音楽を作ってゆく楽しみを味わえるようにする。
------	---

授業計画		・履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とする。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組む事。 ・大学音楽学部から指名のあった学生は大学音楽学部の合奏授業に参加し、この授業には参加しなくて良い。		
第 1 回	第 1 回演奏会の反省、及び器楽合奏-1bで研究した楽曲より高難度の楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 2 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	他のパートとの調和を考えながら練習しておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 3 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 4 回	上記楽曲の仕上げ	事前 事後	テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 5 回	櫻樹祭演奏会用の楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 指摘のあった個所の反復練習と次回曲の楽曲の譜読みをしておく	50 分 50 分
第 6 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	他のパートとの調和を考えながら練習しておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 7 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 8 回	上記楽曲の仕上げ	事前 事後	テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 9 回	櫻樹祭演奏会	事前 事後	櫻樹祭演奏会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく 指摘のあった個所の反復練習と発表会での演奏曲全曲の復習をしておく	50 分 50 分
第 10 回	櫻樹祭演奏会の反省と第 2 回発表会のグループ分けとパート調整	事前 事後	櫻樹祭演奏会の反省点をまとめておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 11 回	上記とは時代の異なる楽曲を学ぶ（概要）	事前 事後	時代背景や表情記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら譜読みを完成させる 次回楽曲の譜読みをしておく	20 分 80 分
第 12 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（部分練習）	事前 事後	他のパートとの調和を考えながら練習しておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 13 回	上記の楽曲の基礎を学ぶ（全体練習）	事前 事後	旋律部分と伴奏部分での音色や音楽の違いに注意しながら練習しておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 14 回	上記楽曲の仕上げ	事前 事後	テンポの変化にも対応できるように練習し、細かい音符の正確性を高めておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分
第 15 回	第 2 回演奏会、及び反省	事前 事後	発表会に向けて、ウィークポイントはすべて克服しておく 指摘のあった個所の反復練習をしておく	50 分 50 分

フィードバック 発表等を録音し、それを聴くことにより演奏成果をフィードバックする。

成績評価	授業態度 50％ 発表会等の演奏内容 50％
------	---------------------------

テキスト 特になし。

オフィスアワー 授業後教室にて

備考 特になし。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

器楽合奏Ⅰ-1・Ⅱ-1（ハーブ）

非常勤講師 井田美幸

科目コード：IEN101／IEN201

専門／学年：ハーブ専門 1 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	ハーブ数台によるアンサンブル、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを学習し、アンサンブルの能力を養うことを目標とする。前期はハーブパートを学習し、アンサンブルではハーブ数台によるアンサンブルを実習する。

到達目標	ハーブパートの学習において、正確な読譜力、楽曲の解釈を学び、ハーブ数台によるアンサンブルの学習では息のあった演奏をするために必要な呼吸の合わせ方、フレージング、バランス等を習得する。
------	---

授業計画	ハーブ数台によるアンサンブル、ハーブ以外の楽器とのアンサンブルを 5 曲程度学習し、11 月の桜樹祭のハーブコンサートで成果を発表する。
------	--

第 1 回	ハーブ・メンテナンスⅠ 調弦、弦の管理、日々の手入れ	事前 モルナール教則本 事後 自宅の楽器で実践	50 分 50 分
第 2 回	ハーブ・メンテナンスⅡ アイリッシュ・ハーブ、グランドハーブの構造、歴史、楽器の移動の仕方	事前 モルナール教則本 事後 自宅の楽器で確認	50 分 50 分
第 3 回	課題曲Ⅰ ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートの譜読み	事前 楽語を調べ、譜読み 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 4 回	課題曲Ⅰ ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	事前 和声、テンポ、フレージングを考え練習 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 5 回	課題曲Ⅰ ハーブ数台によるアンサンブル アンサンブル実習	事前 共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 6 回	課題曲Ⅰ ハーブ数台によるアンサンブル 仕上げ	事前 共演者とひとつの音楽を作り上げていく 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 7 回	課題曲Ⅱ ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートの譜読み	事前 楽語を調べ、譜読み 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 8 回	課題曲Ⅱ ハーブ数台によるアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	事前 和声、テンポ、フレージングを考え練習 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 9 回	課題曲Ⅱ ハーブ数台によるアンサンブル アンサンブル実習	事前 共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 10 回	課題曲Ⅱ ハーブ数台によるアンサンブル 仕上げ	事前 共演者とひとつの音楽を作り上げていく 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 11 回	課題曲Ⅲ ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートの譜読み	事前 楽語を調べ、譜読み 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 12 回	課題曲Ⅲ ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートに曲想をつけ演奏	事前 和声、テンポ、フレージングを考え練習 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 13 回	課題曲Ⅲ ハーブ以外の楽器とのアンサンブル アンサンブル実習	事前 共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 14 回	課題曲Ⅲ ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 仕上げ	事前 共演者とひとつの音楽を作り上げていく 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 15 回	課題曲Ⅳ ハーブ以外の楽器とのアンサンブル 個人パートの譜読み	事前 楽語を調べ、譜読み 事後 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分

フィードバック	授業内でのコメント
---------	-----------

成績評価	授業への取り組み
------	----------

テキスト	適宜授業内に指示する
------	------------

オフィスアワー	授業後教室にて
---------	---------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	メディア・テクノロジー活用	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒

専門／学年：ハープ専門／1 年次

形態：実習	単位数：1 単位
概要	後期では、ハープ数台によるアンサンブルに加え、ハープ以外の楽器とのアンサンブルを実習する。11 月の櫻樹祭のハープコンサートで成果を発表する。

到達目標	ハープ以外の楽器とのアンサンブルではお互いの楽器の特徴を理解し、お互いの音色を生かしながら音楽を作り上げていくことを目標とする。
------	--

授業計画	ハープ数台によるアンサンブル、ハープ以外の楽器とのアンサンブルを 5 曲程度学習し、11 月の櫻樹祭のハープコンサートで成果を発表する。
------	--

第 1 回	課題曲Ⅳ	ハープ以外の楽器とのアンサンブル	個人パートに曲想をつけ演奏	事前 事後	和声、テンポ、フレージングを考え練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 2 回	課題曲Ⅳ	ハープ以外の楽器とのアンサンブル	アンサンブル実習	事前 事後	共演者と役割分担を考え、アンサンブル練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 3 回	課題曲Ⅳ	ハープ以外の楽器とのアンサンブル	仕上げ	事前 事後	共演者とひとつの音楽を作り上げていく レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 4 回	課題曲ⅠⅡ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲想や音のバランスの確認	事前 事後	共演者とのアンサンブル練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 5 回	課題曲ⅠⅡ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲の通し練習	事前 事後	共演者とのアンサンブル練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 6 回	課題曲ⅢⅣ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲想や音のバランスの確認	事前 事後	共演者とのアンサンブル練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 7 回	課題曲ⅢⅣ	コンサートに向けてのアンサンブル実習	曲の通し練習	事前 事後	共演者とのアンサンブル練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 8 回	課題曲ⅠⅡⅢⅣ	合同レッスン	お互いのアンサンブルを聞き合い感想を述べ合う	事前 事後	共演者とのアンサンブル練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 9 回	櫻樹祭ハープコンサートに向けてのリハーサル			事前 事後	コンサートでの出入りなどのステージマナーの練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 10 回	コンサートの復習、反省点の確認			事前 事後	コンサートでの良かった点、悪かった点をまとめる 来年度のコンサートに向けて改善点を確認	50 分 50 分
第 11 回	課題曲Ⅴ	ハープ数台によるアンサンブル	個人パートの譜読み	事前 事後	コンサートでの改善点を生かした練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 12 回	課題曲Ⅴ	ハープ数台によるアンサンブル	個人パートに曲想をつけ演奏	事前 事後	コンサートでの改善点を生かした練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 13 回	課題曲Ⅴ	ハープ数台によるアンサンブル	アンサンブル実習	事前 事後	コンサートでの改善点を生かした練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 14 回	課題曲Ⅴ	ハープ数台によるアンサンブル	仕上げ	事前 事後	コンサートでの改善点を生かした練習 レッスンでの注意点を練習	50 分 50 分
第 15 回	まとめと復習	来年度の計画と目標の確認		事前 事後	来年度の抱負 来年度に向けての準備	50 分 50 分

フィードバック 授業内でのコメント、及びコンサート終了後に口頭で講評する

成績評価 授業への取り組み、コンサート時の演奏内容で評価

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力		課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐		☐	☒	☒	☐	☐	☐

副科ピアノ-1

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子	科目コード：IND103
-----------------	--------------

専門／学年：器楽・声楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	ピアノ奏法の基本である姿勢・打鍵・正しい運指を習得する。

到達目標	基礎テクニックを身につけ、調性感を養うことを目標とする。
------	------------------------------

授業計画	前期 15 回 各人 20 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。 1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。		
第 1 回	基礎的な事の確認(1)－姿勢－	事前 ピアノの構造を調べる 事後 良い姿勢で演奏しているか確認をし、椅子の高さを考え、練習をする	105 分 105 分
第 2 回	基礎的な事の確認(2)－打鍵－	事前 1 本ずつ指が独立しているか確認をして、練習をする 事後 鍵盤の下までしっかり打鍵しているか確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 3 回	基礎的な事の確認(3)－運指－	事前 運指の基本を考える 事後 様々な調性のスケールの運指の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 4 回	基礎的な事の確認(4)－読譜－	事前 ヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする 事後 ト音記号とヘ音記号で記載されている楽譜の読譜をする	105 分 105 分
第 5 回	C dur の音階の運指の確認	事前 C dur の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 C dur の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 6 回	C dur でカデンツの定型を確認	事前 C dur のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105 分 105 分
第 7 回	a moll の音階の運指の確認	事前 a moll の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 a moll の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 8 回	a moll でカデンツの定型を確認	事前 a moll のカデンツの定型を指が覚えるまで練習をする 事後 カデンツの和音進行を確認する	105 分 105 分
第 9 回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 10 回	課題に出ている音階のカデンツ練習	事前 課題の音階とカデンツの練習をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする	105 分 105 分
第 11 回	前期演奏試験曲(1)－読譜－	事前 試験曲を決める 事後 試験曲の正確な読譜をする	105 分 105 分
第 12 回	前期演奏試験曲(2)－リズム・ハーモニー－	事前 正確なリズムで演奏できるように練習をする 事後 ハーモニーを確認して、演奏をする	105 分 105 分
第 13 回	前期演奏試験曲(3)－強弱・表現－	事前 楽譜に書かれている指示されている事の確認をする 事後 表現しようと思っている音楽になっているかを確認する	105 分 105 分
第 14 回	前期演奏試験曲(4)－テンポ－	事前 ゆっくりとしたテンポで練習をする 事後 テンポをあげて練習をする	105 分 105 分
第 15 回	仕上げ	事前 暗譜の確認をする 事後 テンポが安定しているか確認をしながら、練習をする	105 分 105 分

フィードバック 前期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。

成績評価 実技試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％
実技試験にレッスンへの取り組み等を加味して総合的に評価。
なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。

テキスト ハノン他、適宜授業内に指示する。

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科ピアノ-2

※音楽療法士養成に関する科目

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子	科目コード：IND104
-----------------	--------------

専門／学年： 器楽・声楽専門／1～2 年次

形態：実技	単位数：1 単位
概要	正確な読譜力を身につけ、表現力を養う。

到達目標	対位法や和声感を養い、曲にふさわしい様式感をもって演奏できることを目標とする。
------	---

授業計画	後期 15 回 各人 20 分の個人指導 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。音階練習で、正しい運指・調性感を、カデンツで和声感を学ぶ。 副科ピアノ-1 と合わせて、1 年間で基礎テクニック・和声感・対位法を学ぶ。		
第 1 回	基礎テクニックを身につける(1)―legato 奏法―	事前 音階を legato で演奏できる練習をする 事後 アルペジオを legato で演奏できる練習をする	105 分 105 分
第 2 回	基礎テクニックを身につける(2)―staccato 奏法―	事前 手首の動きを意識する練習をする 事後 連打の練習をする	105 分 105 分
第 3 回	基礎テクニックを身につける(3)―和音の弾き方―	事前 オクターブが力を入れずに演奏できる練習をする 事後 和音がずれないように練習をする	105 分 105 分
第 4 回	和声感を養う(1)―基本的なコード―	事前 様々なコードを演奏し、和音の表情を感じとる練習をする 事後 曲の中で終止形を見つける練習をする	105 分 105 分
第 5 回	和声感を養う(3)―和音の響きを聴く―	事前 ベタルの構造を調べる 事後 ベタルの踏み方を考えながら練習をする	105 分 105 分
第 6 回	課題に出ている音階練習	事前 課題の音階の運指を確認し、片手ずつ練習をする 事後 課題の音階の運指を確認し、両手で練習をする	105 分 105 分
第 7 回	課題に出ている音階のカデンツの練習	事前 課題のカデンツを確認をする 事後 課題の音階とカデンツの練習をする	105 分 105 分
第 8 回	後期演奏試験曲―読譜の確認―	事前 作品を決め読譜をし、楽譜を調べる 事後 正しい読譜ができているか確認をする	105 分 105 分
第 9 回	後期演奏試験曲―形式―	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉える	105 分 105 分
第 10 回	後期演奏試験曲―表現―	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現する上で最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 11 回	後期演奏試験曲―和声感―	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 12 回	後期演奏試験曲―強弱―	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習をする	105 分 105 分
第 13 回	後期演奏試験曲―音色―	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら練習をする 事後 曲のキャラクターを考えて練習をする	105 分 105 分
第 14 回	後期演奏試験曲―フレーズ感―	事前 アーティキュレーションスラーの確認をする 事後 フレーズ感をもって演奏をしているか確認をする	105 分 105 分
第 15 回	試験曲の仕上げ―まとめ―	事前 強弱・コントラストの確認をする 事後 曲のキャラクターの確認をする	105 分 105 分
フィードバック	後期演奏試験の演奏についてコメントを付けフィードバックする。		

成績評価	学年末試験の評価が、50 点以上であること。定期試験 60％ 課題 20％ 授業態度 20％ 学年末試験にレッスンへの積極的な取り組み等を加味して総合的に評価。 なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による。
------	---

テキスト	ハノン他、適宜授業内に指示する。
------	------------------

オフィスアワー	各担当教員のレッスン室で対応する。
---------	-------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	□	□	□	☒	□	□	☒	□	☒	□	□	□

副科声楽

※音楽療法士養成に関する科目

声楽主任 教授 細谷美直	科目コード：IND203
--------------	--------------

専門／学年：ピアノ・器楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
-------	----------

概要	歌唱に必要な基礎技術を習得する。 前期ではエチュードを中心に、後期ではイタリア古典歌曲を中心題材として、言語を伴った声楽の表現法を学ぶ。
----	---

到達目標	歌唱の基本、すなわち、正しい姿勢と腹式呼吸による、自然な発声法を習得することをテーマとする。 それぞれが持つオリジナル楽曲である「声」を研究することは、自分の個性と音楽を知ることに通じる。「声」＝「音色」の特性と十分に生かせるような発声法および歌唱表現を習得し、音楽性を充実させることを目標とする。
------	--

授業計画	隔週 20 分の個人指導 コンコーネ他練習曲およびイタリア古典歌曲等を課題とする。
------	--

第 1 回	ガイダンス、年間の学習計画を立てる	事前 事後	コンコーネ 50 番、イタリア古典歌曲集を準備する 練習曲① 課題曲① 読譜	60 分 80 分
第 2 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 1 ストレッチ、呼吸法を中心に	事前 事後	練習曲① 課題曲① 読譜 練習曲①、② 課題曲① の練習	60 分 80 分
第 3 回	歌唱法の基礎 - 姿勢、呼吸、発声の確認 2 呼吸法、発声法を中心に	事前 事後	練習曲②、③ 課題曲① の練習 練習曲③、④ 課題曲① の練習	60 分 80 分
第 4 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 1 特に母音、子音の発音を中心に	事前 事後	練習曲③、④ 課題曲① の練習 練習曲③、④ 課題曲② の練習	60 分 80 分
第 5 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 2 母音、子音の明確化	事前 事後	練習曲④、⑤ 課題曲② の練習 練習曲⑤、⑥ 課題曲③ の練習	60 分 80 分
第 6 回	正しい姿勢と腹式呼吸による自然な発声法を習得する 3 詩の内容を理解する	事前 事後	練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習 練習曲⑥、⑦ 課題曲③ の練習	60 分 80 分
第 7 回	演奏試験に向け課題曲の選曲 課題曲 A 課題曲 B	事前 事後	課題曲 A 及び B の読譜 課題曲 A 及び B の練習	60 分 80 分
第 8 回	課題曲を学ぶ 1 楽譜の読み方を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B の譜読み 課題曲 A 及び B 発音を中心に練習	60 分 80 分
第 9 回	課題曲を学ぶ 2 発音を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B 単語の意味を調べる 課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる	60 分 80 分
第 10 回	試験曲を学ぶ 1 歌唱表現法を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B 音楽用語を調べる 課題曲 A 及び B 強弱他、気をつけて練習	60 分 80 分
第 11 回	試験曲を決める 2 課題（試験）曲を中心に	事前 事後	課題曲 A 及び B 詩の内容を考える 試験曲を中心に譜読み練習	60 分 80 分
第 12 回	伴奏を伴い課題曲を学ぶ 1 呼吸やテンポの合わせ方を中心に	事前 事後	試験曲を発声及び発音に注意して練習 試験曲を発声及び発音に注意して練習	60 分 80 分
第 13 回	伴奏を伴い課題曲を学ぶ 2 暗譜をして歌う	事前 事後	試験曲を伴奏者と合わせて練習 試験曲を暗譜しながら曲の内容を意識する	60 分 80 分
第 14 回	総合演習	事前 事後	試験曲を伴奏者と合わせて練習 試験曲の暗譜を確実にし内容を深める	60 分 80 分
第 15 回	まとめ	事前 事後	試験曲を伴奏者と合わせて練習 試験曲を暗譜の上、曲の完成度を高める	80 分 80 分

フィードバック	試演会や、後期実技試験により、コメントでフィードバックする。
---------	--------------------------------

成績評価	実技演奏試験、複数の教員による採点。
------	--------------------

テキスト	コンコーネ 50 番 イタリア古典歌曲集等、 担当教員より、授業内にて適宜指示する。
------	--

オフィスアワー	各教員の在校時間内（ただしレッスンの時間を除く） 各教員のレッスン室
---------	---------------------------------------

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

フルートオーケストラⅠ-1・Ⅱ-1

教授 飯島和久

科目コード：IEN103／IEN203

専門／学年：フルート専門／1～2 年次、専攻科

形態：実技	単位数：1 単位
概要	日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。
到達目標	この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画	・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と 責任の心得を持って授業に取り組む事。		
第 1 回	特殊楽器を紹介・試奏 （ソプラノフルート・アルトフルート）	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分 105 分
第 2 回	特殊楽器を紹介・試奏 （バスフルート・コントラバスフルート）	事前 特殊楽器について調べる 事後 ソプラノフルート・アルトフルートの音域等の違いを確認する	105 分 105 分
第 3 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （フルートの弱点を知る）	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 4 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （音合わせの仕方）	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 5 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （音程の合わせ方）	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 6 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （ユニゾンの音程の合わせ方）	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 7 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （平均律、純正律を学ぶ）	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 8 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （2 声の音程の合わせ方）	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 9 回	テキストを用い、アンサンブルの基本を学ぶ （4 声の音程の合わせ方）	事前 テキストの予習（コンサートフルートで確認をする） 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 10 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （担当楽器を決め、譜読みを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 11 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （時代背景、演奏法を学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 12 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （テクニクを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 13 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （バランスを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 14 回	バロック・古典時代の楽曲の演奏 （表現を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 15 回	発表会に向けて練習、後日発表会	事前 仕上げ 事後 発表会后、教員コメント読み後期授業に役立てる。	105 分 105 分

フィードバック 発表会での教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐

フルートオーケストラⅠ-2・Ⅱ-2

教授 飯島和久

科目コード：IEN104／IEN204

専門／学年：フルート専門／1～2 年次、専攻科

形態：実技	単位数：1 単位
概要	日本のフルート界では「オリジナル作品の作曲」「特殊楽器の開発と製作」「演奏団体の設立」「演奏会（イベント）の開催」等、大変充実した活動が行われており、今や完全に世界をリードしている。この授業ではフルート専門の学生が、フルート属のみによる合奏、アンサンブルを体験する。
到達目標	この授業の持つ意味はこうした「日本の音楽的環境に対応できる人材の育成」も含まれる。一般的なフルートのみならずアルト、バス、コントラバス等の特殊楽器を加えフルートオーケストラを編成する。そして様々な楽器を体験すると共に、大合奏の中での奏法、技術を学ぶ。

授業計画	・フルートの歴史について、楽器、作品（作曲家）、演奏（演奏家）等の面から学ぶと共に、特殊楽器についても、その特徴、役割を学ぶ。 ・北村薫著『アンサンブルエチュード』をテキストとして、音程感覚、リズム感覚、拍子感覚等のアンサンブルの基本を学ぶ。なおこの教材は年間を通し必要に応じて使用する。 ・授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかける事を承知の上で自覚と責任の心得を持って授業に取り組む事。		
第 1 回	コンサートに向け楽曲の練習（譜読みを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 2 回	コンサートに向け楽曲の練習（時代背景、演奏法を学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 3 回	コンサートに向け楽曲の練習（和音を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 4 回	コンサートに向け楽曲の練習（テクニックを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 5 回	コンサートに向け楽曲の練習（音程を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 6 回	コンサートに向け楽曲の練習（音色を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 7 回	コンサートに向け楽曲の練習（バランスを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 8 回	コンサートに向け楽曲の練習（表現を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、是正に向けて練習する	105 分 105 分
第 9 回	コンサートに向け楽曲の練習（仕上げ練習）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 10 回	ゲネプロ（曲順で練習）、櫻樹祭コンサート	事前 櫻樹祭コンサートに向けて問題箇所を練習する 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 11 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（譜読みを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 12 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（時代背景、演奏法を学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 13 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（テクニックを中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 14 回	フルートオーケストラの名曲を学ぶ（表現を中心に学ぶ）	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 問題箇所を確認し、櫻樹祭コンサートに向けて練習する	105 分 105 分
第 15 回	ゲネプロ（曲順で練習）、授業後発表会	事前 特殊楽器での基礎練習、予定曲の読譜、音楽用語等を調べる 事後 授業後の発表会でのアンケート、教員コメントを読み今後に役立てる。	105 分 105 分

フィードバック 櫻樹祭コンサート、学外でのコンサート等の演奏会等でのアンケート、また、教員コメントを各自に配布する。

成績評価 発表・コンサート 20％ 課題 40％ 授業態度 40％

テキスト 北村薫著『アンサンブルエチュード』（必要部分を配布する）

オフィスアワー 授業後直ぐに対応する。予約も可能。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	3次元デザイン・3dA	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☐	

声楽アンサンブルⅠ・Ⅱ

非常勤講師 栗田恵美子

科目コード：VEN103／VEN203

専門／学年：声楽専門／1～2 年次、専攻科

形態：実技	単位数：2 単位
概要	オペラを歌うために必要な演技法・発声法・呼吸法などを総合的に学ぶ。

到達目標 履修者の演技つき重唱曲を通じ、個々の作曲家、作品の特質に触れながら、その流れを体験できるよう試みる。

授業計画				
第 1 回	オペラの歴史について	事前	オペラの歴史を調べる	120 分
		事後	オペラの歴史をより深く学習する	150 分
第 2 回	オペラに必要な姿勢と発声法	事前	オペラの映像資料や文献を各自で調べ、理解を深める	120 分
		事後	姿勢、発声法などより深く探求する	150 分
第 3 回	演技の基礎①	事前	ヘンデルのオペラについて研究する	120 分
		事後	授業で学んだ演技をより深く学習する	150 分
第 4 回	演技の基礎②	事前	オペラ・ブッフアの作品を各自調べ研究する	120 分
		事後	授業で学んだ動き方を復習し、研究する	150 分
第 5 回	男性又は女性の場合の異なる動作、動き方	事前	オペラ・セリアの作品を各自で調べ研究する	120 分
		事後	授業で学んだ動き方を復習し各自研究する	150 分
第 6 回	視覚による演技の見え方と演技法	事前	授業で取り上げたモーツァルトのオペラ作品を映像資料などにより深く研究する	120 分
		事後	授業で学んだ動き方をより深く研究する	150 分
第 7 回	オペラ重唱曲音楽練習	事前	授業以外のモーツァルトのオペラ作品を各自調べ研究する	120 分
		事後	授業で学んだ曲を復習し、くり返し練習する	150 分
第 8 回	オペラ原語付き音楽練習	事前	古典オペラ特にモンテヴェルディ、バーセル、ラモーなどの作品を各自研究する	120 分
		事後	授業で学んだ重唱曲の原語の言葉の意味を調べる	150 分
第 9 回	オペラ重唱曲、音楽練習総括	事前	ロッシーニ、ドニゼッティ、ベッリーニのオペラを研究する	120 分
		事後	重唱曲の復習	150 分
第 10 回	オペラ重唱曲の演技つけ	事前	ドイツ・オペラを研究する	120 分
		事後	授業での重唱曲のオペラ映像資料から演技について研究する	150 分
第 11 回	演技をともなう重唱曲 実践練習①	事前	フランス・オペラコミックとグランド・オペラを研究する	120 分
		事後	授業の重唱曲のオペラの演技を研究する	150 分
第 12 回	演技付きオペラ重唱曲実践練習②	事前	ヴェルディのオペラを研究する	120 分
		事後	課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながら演技練習する	150 分
第 13 回	演技付きオペラ重唱曲総合練習	事前	ワーグナーのオペラを研究する	120 分
		事後	課題のオペラ重唱曲を他者と協力しながらより深く研究する	150 分
第 14 回	演技付きオペラ重唱曲総合練習まとめ	事前	イタリア・ヴェリズモ・オペラを研究する	120 分
		事後	試験に向けてオペラ重唱曲の演技付き練習を行う	150 分
第 15 回	演技付きオペラ重唱曲の試験	事前	オペレッタ、ミュージカルについて研究する	120 分
		事後	試験で歌ったオペラ重唱曲の演奏についてディスカッションする	150 分

フィードバック 授業中または授業終了後、希望者に個別に対応する。

成績評価 演技付き演奏試験、授業態度などから総合的に評価する。

テキスト 必要に応じて配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング

- ・パントマイム：自身の手をたたく、ぬいぐるみを撫でる、子犬を撫でる、鏡をたたく、触るなどをグループで行う
- ・椅子取りゲーム：座っている学生を何か理由によって立たせる（例えば、病院で呼ばれる、電車で終点まで行き駅員に起こされるなど）グループで行う
- ・演技付きオペラ重唱を演じ、ディスカッションする。

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐

声楽特殊演習

大学教授 吉田伸昭

科目コード：VEN204

専門／学年：声楽専門／2 年次、専攻科

形態：演習	単位数：2 単位
概要	スタンダードなドイツ歌曲、フランス歌曲をグループレッソンの形態で演習する。

到達目標	初めてドイツ歌曲、フランス歌曲に取り組む学生を考慮し、歌唱のためのドイツ語、フランス語の発音を中心に学ぶ。 比較的歌いやすい作品を選び、歌唱を実践する。 それぞれの作品、作曲家、詩人への理解を深める。
------	--

授業計画	モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、フォーレ等の歌曲を 2 回で 1 曲、計 6 曲演習する。
------	---

第 1 回	シューベルトの歌曲 ① An die Musik 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 2 回	シューベルトの歌曲 ② An die Musik 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 3 回	ベートーヴェンの歌曲 ① Ich liebe dich 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 4 回	ベートーヴェンの歌曲 ② Ich liebe dich 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 5 回	モーツァルトの歌曲 ① Das Veilchen 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 6 回	モーツァルトの歌曲 ② Das Veilchen 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 7 回	フォーレの歌曲 ① Lydia リディア 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 8 回	フォーレの歌曲 ② Lydia リディア 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 9 回	フォーレの歌曲 ① 夢のあとに 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 10 回	フォーレの歌曲 ② 夢のあとに 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 11 回	フォーレの歌曲 ① Mai 五月 作品研究と歌唱実践	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 12 回	フォーレの歌曲 ② Mai 五月 発音に留意し、なめらかな歌唱を目指す	事前 課題曲について調べ、音取りをする 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	100 分 170 分
第 13 回	学習したドイツ歌曲の復習	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	140 分 130 分
第 14 回	学習したフランス歌曲の復習	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 授業で指摘を受けた点を改善する	140 分 130 分
第 15 回	発表会	事前 ピアニストと伴奏合わせを重ねる 事後 録音、録画等を使い演奏を振り返る	200 分 70 分

フィードバック	発表会後に合評し、課題を見つけ今後に繋げる。
---------	------------------------

成績評価	演奏 60%、授業への取り組み 40%
------	---------------------

テキスト	授業内で紹介、指示する。
------	--------------

オフィスアワー	E メール mozart-trazom@nifty.com および授業前後
---------	---------------------------------------

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	メディア・テクノロジー活用	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒

民族音楽学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学非常勤講師 丸山洋司	科目コード：LEC201
--------------	--------------

専門／学年：全専門／2 年次、専攻科

形態：講義	単位数：2 単位
概要	この授業では、世界の様々な音楽文化をとりあげて学び、個々の地域の特徴と相互の影響関係について理解を深める。特に「アメリカ」「南アジア」「ヨーロッパ」「東南アジア」という四つの地域を中心にとりあげ、それぞれの地域の音楽文化について、視聴覚資料を用いたり、楽器の実演を交えて解説する。
到達目標	異なる音楽文化間の共通性や相違性、影響関係について、個々の学生が具体的にイメージし、理解を深めることを目指す。またグループ発表を通して、各学生が主体的に考察テーマを発見し、それについて他の学生と議論しながら調査できるようになることを目標とする。

授業計画				
第 1 回	オリエンテーション アフリカ（1）儀礼と音楽	事前	教科書の p.20～24 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 2 回	アフリカ（2） 太鼓の諸相	事前	教科書の p.24～28 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 3 回	アフリカ（3） 音楽構造の特徴と原理	事前	教科書の p.28～31 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 4 回	アフリカ（4） アフリカの楽器 アフリカ音楽の変貌	事前	教科書の p.31～36 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 5 回	南アジア（1） 言語・文化の多様性	事前	教科書の p.82～84 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 6 回	南アジア（2） 古典音楽と地方の伝統音楽	事前	教科書の p.84～86 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 7 回	南アジア（3） 古典音楽の理論と楽器	事前	教科書の p.86～90 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 8 回	南アジア（4） 古典舞踊とポピュラー音楽	事前	教科書の p.95～100 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 9 回	ヨーロッパ（1） ヨーロッパの伝統音楽	事前	教科書の p.42～46 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 10 回	ヨーロッパ（2） スコットランド・アイルランドの音楽文化	事前	教科書の p.47～50 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 11 回	ヨーロッパ（3） スコットランドの音楽様式	事前	教科書の p.51～55 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 12 回	東南アジア（1） 東南アジアの人形芝居と音楽	事前	教科書の p.102～104 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 13 回	東南アジア（2） 青銅器の音楽文化	事前	教科書の p.105～109 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 14 回	東南アジア（3） 竹の音楽文化	事前	教科書の p.110～112 を読んで内容を理解する。	120 分
		事後	授業でとりあげた用語や映像資料について、各自で調べ、理解を深める。	160 分
第 15 回	総括 理解度確認テスト	事前	第 1 回～14 回までの授業内容の復習	220 分
		事後	理解が不十分だった箇所を復習する。	60 分

フィードバック

- ・小テストの答案の返却および解説により、学修成果をフィードバックする。
- ・授業でのグループ発表について、その授業内にコメントし、学修成果をフィードバックする。

成績評価

期末試験 60％ プレゼンテーション 20％ 小テスト 20％

テキスト

- ・柘植元一、塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社、1999 年）
- ・その他、参考文献については授業中に適宜紹介する。

オフィスアワー

- ・授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する。hiromaru886@hotmail.com

アクティブ・ラーニング

少人数のグループに分かれ、プレゼンテーションを行う（発表後、講師がコメント）

備考

- ・視聴覚資料を多く使用するので出席が重要となる。
- ・楽器または音楽ジャンルに関するチーム・プレゼンテーションを課す予定。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐

管弦楽法

准教授 三宅康弘

科目コード：SLF208

専門／学年：全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	まず、楽器法として、様々な楽器の構造及び用法について、専門生による音出しを伴いつつ解説をする。 次に、管弦楽法として、複数の楽器を組み合わせる方法について、様々な時代・編成の管弦楽の作品の分析を行う。 また、ピアノ曲から室内楽の編成へのオーケストレーションにも取り組み、音出しをする。
到達目標	基本的な楽器の構造や、時代ごとに異なる管弦楽法について理解を深めるようになることを目標とする。

授業計画	各回の授業内容は、進度により変更することがある。
------	--------------------------

	【楽器法】	【管弦楽法】				
第 1 回	ガイダンス 管弦楽法とは 楽器の分類法	古典派の管弦楽法（作品 A） モーツァルト：「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」第 1 楽章	事前	ガイダンスの予習	「管弦楽法」の項目を音楽事典で読む	135 分
			事後	作品 A の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	135 分
第 2 回			事前	楽器の分類法の予習	資料を読む	135 分
			事後	楽器の分類法の復習	プリントを読み直す	135 分
第 3 回	金管楽器		事前	金管楽器の予習	資料を読む	135 分
			事後	金管楽器の復習	プリントを読み直す	135 分
第 4 回	木管楽器 エアリード		事前	木管楽器の予習	資料を読む	135 分
			事後	木管楽器の復習	プリントを読み直す	135 分
第 5 回	木管楽器 シングルリード、ダブルリード		事前	木管楽器の予習	資料を読む	135 分
			事後	木管楽器の復習	プリントを読み直す	135 分
第 6 回	弦楽器		事前	弦楽器の予習	資料を読む	135 分
			事後	弦楽器の復習	プリントを読み直す	135 分
第 7 回	鍵盤楽器 上野学園大学楽器研究室にて実習		事前	鍵盤楽器の予習	資料を読む	135 分
			事後	鍵盤楽器の復習	プリントを読み直す	135 分
第 8 回	打楽器		事前	打楽器の予習	資料を読む	135 分
			事後	打楽器の復習	プリントを読み直す	135 分
第 9 回		バロックの管弦楽法(作品 B) ヴィヴァルディ：協奏曲集「四季」より「春」	事前	作品 B の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	135 分
			事後	作品 B の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	135 分
第 10 回		古典派の管弦楽法(作品 C) モーツァルト：交響曲 第 25 番 第 1 楽章	事前	作品 C の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	135 分
			事後	作品 C の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	135 分
第 11 回		古典派の管弦楽法(作品 D) ベートーヴェン：交響曲 第 5 番「運命」第 1 楽章	事前	作品 D の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	135 分
			事後	作品 D の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	135 分
第 12 回		ロマン派の管弦楽法(作品 E) チャイコフスキー：交響曲 第 6 番「悲愴」第 4 楽章	事前	作品 E の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	135 分
			事後	作品 E の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	135 分
第 13 回		近代の管弦楽法(作品 F) ラヴェル：ボレロ	事前	作品 F の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	135 分
			事後	作品 F の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	135 分
第 14 回		現代の管弦楽法(作品 G) ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲	事前	作品 G の予習	楽譜を見ながら音源を聴く	135 分
			事後	作品 G の復習	分析譜を見ながら音源を聴く	135 分
第 15 回		作品発表 オーケストレーションの実施	事前	作品発表の予習		135 分
			事後	作品発表の復習		135 分

フィードバック レポートの返却により、学修成果をフィードバックする。

成績評価 作品提出・発表（オーケストレーションの実施）50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト 授業内指示

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	□	☒	□	□	□	□	□	☒	☒	□	□	□	□	□	□	□

鍵盤和声Ⅱ-1

非常勤講師 三沢庸子

科目コード：SLF203

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	楽曲の中に和声を感じとり、音の響きを【聴く】ということ学ぶ授業である。 様々なジャンルの曲を用いて徐々に和音の種類を増やししながら、《伴奏づけ》・《移調奏》・《弾き歌い》・《初見奏》・《主題やモチーフを基に即興的に変奏曲や小曲を作る》等の演奏実習を反復して行う。
到達目標	楽曲の根底を支える要素の一つである和声感覚を養うことを目標とする。 さらに演奏発表を通して主体性を高め、“ 人類の共通言語である音楽 ” を媒体として自己を表現する力並びに他者とのコミュニケーション能力を培うことも目指す。
授業計画	授業計画は概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの課題を取り入れる。また、進捗状況によって内容を変更する場合もある。

第 1 回	ガイダンス 鍵盤和声基礎知識の確認	事前 各調の音階と主和音を確認する。 事後 音の響きについて考察する。	40 分 50 分
第 2 回	音階とカデンツ 即興演習	事前 各調のカデンツを確認する。 事後 即興演習の復習をする。	30 分 60 分
第 3 回	旋律・和音・リズム 移調奏	事前 リズムについて考察する。 事後 移調奏の復習をする。	30 分 60 分
第 4 回	伴奏形について 初見奏	事前 伴奏形について予習する。 事後 伴奏形を復習する。	30 分 60 分
第 5 回	数字付低音の説明と和音付け 弾き歌い	事前 和音記号を確認する。 事後 数字付低音・弾き歌いの復習演習を行う。	30 分 60 分
第 6 回	伴奏譜にメロディーをつける 主和音と属和音による伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏形を考察する。 事後 伴奏づけの反復演習をする。	30 分 60 分
第 7 回	コードネームの説明 主要三和音を用いて伴奏づけ	事前 課題曲の伴奏づけを行う。 事後 コードネームの復習演習を行う。	30 分 60 分
第 8 回	コードネームを用いて与えられた旋律に伴奏をつける	事前 各調の主要三和音を確認する。 事後 コードネーム伴奏づけの反復練習をする。	30 分 60 分
第 9 回	モチーフを基に小曲を作る	事前 コードネームを確認し、課題譜を考察する。 事後 メロディーづけの復習演習を行う	30 分 60 分
第 10 回	伴奏形を変えて変奏曲を作る 副三和音を用いての伴奏づけ	事前 課題譜を考察する。 事後 変奏曲の反復演習を行う。	40 分 50 分
第 11 回	非和声音について 非和声音を用いての伴奏づけ	事前 副三和音を確認し、課題譜を考察する。 事後 非和声音の確認を行う。	40 分 50 分
第 12 回	借用和音について	事前 伴奏形を確認し、課題譜を考察する。 事後 借用和音の確認を行う。	40 分 50 分
第 13 回	前期の復習・補足	事前 非和声音について復習し、課題譜を考察する。 事後 伴奏づけの復習演習をする。	40 分 50 分
第 14 回	前期総合演習	事前 前期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。 事後 前期の総合演習を行い、理解度を深める。	40 分 50 分
第 15 回	まとめ	事前 前期の演習課題を総合的に復習する。 事後 前期に学習したことを再確認する。	70 分 20 分

フィードバック 各演習後にコメントを付け学習成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度や試験から総合的に評価する。試験 30％、課題 35％、授業への積極的な取組 35％

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 演奏実習（他者の演奏を聴くことも含めて）を通して、各々のもつ和声感覚を能動的に培う

備考

学位授与の方針との関連														
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
□	☑	☑	□	☑	□	□	☑	□	□	□	☑	☑	□	□

鍵盤和声Ⅱ-2

非常勤講師 三沢庸子

科目コード：SLF204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：演習	単位数：1 単位
概要	楽曲の中に和声を感じとり【音の響きを聴く力】を学ぶ授業である。 様々なジャンルの曲を用い、徐々に和音の種類を増やしながら、《伴奏づけ》・《移調奏》・《弾き歌い》・《初見奏》・《主題やモチーフを基に即興的に変奏曲や小曲を作る》等の演奏実習を反復して行う。
到達目標	楽曲の根底を支える要素の一つである和声感覚を養うことを目標とする。 更には演奏発表を通して自らが持つ音楽性を主体的に表現する力を身につけ、修学後も“ 人類の共通言語である音楽 ” が、様々なシチュエーションにおけるグローバルな視野でのコミュニケーションスキルとなることも目指す。
授業計画	授業計画は概ね下記の通りだが、毎回できるだけ多くの課題を取り入れる。また、進捗状況によって内容を変更する場合もある。

第 1 回	非和声音を用いて小曲を作る	事前 非和声音について確認する。 事後 非和声音について復習する。	40 分 50 分
第 2 回	借用和音を用いての伴奏づけ	事前 借用和音を確認する。 事後 伴奏づけの復習をする。	30 分 60 分
第 3 回	移調奏 弾き歌い	事前 弾き歌いの予習をする。 事後 移調奏、弾き歌いの復習演習を行う。	30 分 60 分
第 4 回	借用和音を用いて主題を基に変奏曲を作る	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 変奏曲の復習演習を行う。	30 分 60 分
第 5 回	七の和音を用いての数字付低音	事前 数字付低音について確認する。 事後 七の和音を使った数字付低音の復習演習	30 分 60 分
第 6 回	減七の和音を用いての伴奏づけ	事前 伴奏形を確認し、課題譜の考察をする。 事後 減七の和音の復習演習を行う。	30 分 60 分
第 7 回	主題を基に変奏曲を作る	事前 課題譜の考察をする。 事後 変奏曲の復習演習を行う。	30 分 60 分
第 8 回	モチーフを基に小曲を作る	事前 減七の和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 モチーフ奏の復習演習を行う。	30 分 60 分
第 9 回	ナボリの 6 の和音について モチーフを基に小曲を作る	事前 課題譜の考察をする。 事後 ナボリの 6 の和音の復習演習を行う。	30 分 60 分
第 10 回	増六の和音について 主題を基に変奏曲を作る。	事前 借用和音を確認し、課題譜の考察をする。 事後 増六の和音を確認し、変奏曲を作る反復演習を行う。	40 分 50 分
第 11 回	モチーフを基にメロディーを作る	事前 課題譜を考察する。 事後 モチーフ奏の反復演習を行う。	40 分 50 分
第 12 回	初見奏・弾き歌い・移調奏 主題を基に小曲を作る	事前 課題譜を考察する。 事後 課題を基に小曲を作る反復演習を行う。	40 分 50 分
第 13 回	後期の復習・補足	事前 伴奏づけの復習演習を行い、後期に学んだこと考察する。 事後 課題曲の反復演習を行う。	40 分 50 分
第 14 回	後期総合演習	事前 後期で学んだことを総合的に復習し、理解不足箇所を確認する。 事後 後期の総合演習を行い、理解度を深める。	40 分 50 分
第 15 回	まとめ	事前 これまでの演習課題を総合的に復習する。 事後 学習したことを再確認する。	70 分 20 分

フィードバック 各演習後にコメントを付け学習成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度や試験から総合的に評価する。試験 30％、課題 35％、授業への積極的な取組 35％

テキスト 授業時にプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて。

アクティブ・ラーニング 演奏実習（他者の演奏を聴くことも含めて）を通して、各々のもつ和声感覚を能動的に培う

備考

学位授与の方針との関連														
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性					
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐

音楽療法概論

※音楽療法士養成に関する科目
※実務経験を持つ教員による授業

平成9年認定音楽療法士取得以来、発達障害の児童を中心に臨床を行なっている教員が、音楽療法に関する講義と臨床のDVDを観て指導を行う。

講師 中山晶世		科目コード：THE101	
専門／学年：全専門／1年次、専攻科			
形態：講義		単位数：2単位	
概要	音楽療法は、病気や障害をもった子ども、成人、高齢者などに対して、近年、社会的な関心が高まっている。また、医学・福祉・教育などと連携して新しい学問、実践の領域として発展が期待されている。音楽療法士養成にあたって音楽療法の知識を学ぶとともに音楽療法とは何かについて考える時間としたい。		
到達目標	この時間では、音楽療法とは何か、音楽療法の定義、音楽療法の歴史、音楽療法に必要な様々な理論、セッションの流れ等について学ぶ。講義を聴く・テキストを読むだけでなく、質疑応答を通して学生で意見を出し合い、より音楽療法を理解し、最終的には「音楽療法とは何か」について各自言語化したり、文章化できることを到達目標とする。		

第1回	第1章 音楽療法の現場風景 自閉症の子どもへの音楽療法	事前	p.2～4「第1章音楽療法の現場の風景」を読む。	140分
		事後	第1章の内容の中で分からない用語を書きだし、調べる。	140分
第2回	第2章 音楽療法とは カジュアルな音楽療法、フォーマルな音楽療法	事前	p.5～8「カジュアルな音楽療法」を読む。	140分
		事後	「カジュアルな音楽療法」の例を書きだす。	140分
第3回	第2章 音楽療法とは フォーマルな音楽療法の条件	事前	p.8～27「フォーマルな音楽療法の条件」を読む。	140分
		事後	フォーマルな音楽療法の5つの条件の重要な部分を書きだす。	140分
第4回	第3章 聴く音楽療法、する音楽療法 聴く音楽療法(受動的音楽療法)のいろいろ	事前	p.28～30「聴く音楽療法」を読む。	140分
		事後	授業中に見た「未熟児の音楽療法」のDVDの感想を提出する。	140分
第5回	第3章 聴く音楽療法、する音楽療法 する音楽療法(能動的音楽療法)のいろいろ	事前	p.30～42「する音楽療法」を読む。	140分
		事後	歌う事、楽器の演奏、即興演奏、身体運動、作曲の中の1つを選びその重要性を提出。	140分
第6回	第4章 音楽療法には効果があるのか 何をもちて効果と呼ぶか、どうやって効果を確かめるか	事前	p.43～46「音楽療法には効果があるのか」を読む。	140分
		事後	音楽療法の効果の中の「生理学的方法」と「心理学的方法」について調べる。	140分
第7回	第4章 音楽療法には効果があるのか 数量化できるもの、数量化できないもの	事前	p.46～50「数量化できるもの」「数量化できないもの」を読む。	140分
		事後	「量的研究」と「質的研究」について調べる。	140分
第8回	第5章 音楽療法の歴史 古代における音楽と癒し。神話・歴史のエピソードに見る音楽と癒し	事前	p.51～55「音楽療法の歴史」を読む。	140分
		事後	古代・神話・歴史のエピソードに関する文献を探す。	140分
第9回	第5章 音楽療法の歴史 近代的音楽療法のはじまりー米国での音楽療法の発展及び日本における近代音楽療法の歴史	事前	p.55～59「近代的音楽療法の始まり」をよむ。	140分
		事後	参考文献の「日本の音楽療法の動向」からさらに現在の日本の動向を調べる。	140分
第10回	第6章 音と音楽とところとからだ 音とは何か・音を聴く・音と音楽・音楽と感情	事前	p.60～69「音と音楽とところとからだ」を読む。	140分
		事後	音とは何か・音と感情・音と音楽について自分の体験を書きだし、提出する。	140分
第11回	第7章 音楽療法のさまざまなアプローチ からだへのアプローチ・こころへのアプローチ	事前	p.70～86「からだへのアプローチ・こころへのアプローチ」を読む。	140分
		事後	授業中に見た「応用行動分析学のアプローチ」のDVDを観て、感想を書き、提出。	140分
第12回	第7章 音楽療法のさまざまなアプローチ こころへのアプローチ・社会へのアプローチ	事前	p.86～105「人間主義心理学(ノードフ・ロビンズ音楽療法)」を読む。	140分
		事後	授業中に見た「ノードフ・ロビンズ音楽療法」のDVDを観て感想を書き、提出。	140分
第13回	第8章 音楽療法が問いかけること 音楽療法発展の2つの方向・音楽療法の現場から、音楽について考える。	事前	p.106～115「音楽療法が問いかけること」を読む。	140分
		事後	「音楽療法発展の2つの方向」音楽療法と音楽教育について自分の考えを書き、提出。	140分
第14回	第8章 音楽療法が問いかけること 音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を考える。	事前	p.116～120「音楽療法から「個人の健康」と「社会の健康」を読む。	140分
		事後	「個人の健康」と「社会の健康」について自分の考えを書き、提出。	140分
第15回	第8章 音楽療法が問いかけること まとめ テキスト全域のまとめ 試験	事前	テキスト「音楽療法をまなぶ」全般から質問・疑問点を出す。	140分
		事後	テキスト全域および試験の振り返り。	140分

フィードバック レポート等の返却の際、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 筆記試験 60％、授業態度 20％、レポート等の提出 10％ 発言・質問等の積極性 10％

テキスト 二俣泉著『音楽療法をまなぶ 第2版』（音楽療法研究会）
その他、必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室、もしくはEメールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	☑	□

児童の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目
※実務経験を持つ教員による授業

病院、特別支援学級、特別支援学校などで音楽療法の実務経験を持つ教員が、児童の音楽療法の理論や技術、実践方法などについて授業をおこなう

非常勤講師 鈴木涼子	科目コード：THE102
専門／学年：全専門／1年次	

形態：講義	単位数：2 単位
概要	児童に対する音楽療法の実践は、日本においても諸外国においても、音楽療法における重要な領域の一つである。 児童に対する音楽療法の理論や実践を知り、児童の意欲を引き出ししながら発達を促進する活動の進め方、活動の創作方法について学ぶ。

到達目標	児童への音楽療法の理論、実践の手順を理解する。 児童の意欲を引き出ししながら発達を促進させるための諸技術を学ぶ。
------	---

授業計画	講義を中心に、音楽活動の体験、活動の創作などの演習も組み合わせておこなう。
------	---------------------------------------

第 1 回	児童の音楽療法の概要 児童の音楽療法の歴史	事前 児童の音楽療法について知っていること、これから知りたいことを考えて整理する。	140 分
		事後 授業のノートを振り返り、要点をまとめる。	140 分
第 2 回	感覚と運動の高次化理論にもとづく音楽療法、ノードフ・ロビンズ音楽療法、ミュージック・ケア	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.55-59、p.72-78を読む。	140 分
		事後 授業で紹介したノードフ・ロビンズ音楽療法の楽曲を弾き語りする。	140 分
第 3 回	応用行動分析に基づく音楽療法 (理論と介入方法)	事前 テキスト「音楽療法を知る その理論と技法」p.48-53を読む。	140 分
		事後 生活の中での、「正の強化」、「負の強化」について考える。	140 分
第 4 回	応用行動分析に基づく音楽療法 (音楽療法への応用)	事前 第 3 回の授業のノートを振り返り、応用行動分析の理論と介入方法の理解を定着させる。	140 分
		事後 授業で扱った音楽療法の活動の手順を振り返り、自分でもできるようにする。	140 分
第 5 回	児童の「気づき」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.16-45を読む。	140 分
		事後 「気づき」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分
第 6 回	児童の「眼差しの共有」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.46-51を読む。	140 分
		事後 「眼差しの共有」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分
第 7 回	児童の「要求行動」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.52-61を読む。	140 分
		事後 「要求行動」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分
第 8 回	児童の「見分ける力、聞き分ける力」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.62-65、p.76-87を読む。	140 分
		事後 「見分ける力、聞き分ける力」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分
第 9 回	児童の「行動のコントロール」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.66-75、p.88-91を読む。	140 分
		事後 「行動のコントロール」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分
第 10 回	児童の「動作模倣、音声模倣」を促す音楽活動	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.92-115を読む。	140 分
		事後 「動作模倣、音声模倣」を促す音楽活動の手順とポイントを振り返り、練習する。	140 分
第 11 回	児童の発達を促す曲づくり、活動づくりのポイント	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.126-131を読む。	140 分
		事後 第 11 回の授業で学んだことを、音楽教育においてどのように生かせるか考える。	140 分
第 12 回	児童の反応を引き出せない時の工夫、児童の介助・支援の方法	事前 テキスト「音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル」p.132-141を読む。	140 分
		事後 第 12 回の授業で学んだことを、音楽教育においてどのように生かせるか考える。	140 分
第 13 回	児童の発達を促す音楽活動の創作	事前 第 1-12 回の授業の内容を振り返り、理解を定着させる。	140 分
		事後 授業中に自分で考えた音楽活動を振り返り、工夫できるところがないか再考する。	140 分
第 14 回	創作した音楽活動の発表、共有	事前 自分で考えた音楽活動を練習する。	140 分
		事後 他の学生が発表した音楽活動の中から一つを選び、練習する。	140 分
第 15 回	授業まとめ、試験	事前 第 1-14 回の授業内容を振り返りノートを整理する。	140 分
		事後 第 1-15 回の授業内容を振り返り、感想を書く。	140 分

フィードバック 授業での課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績 50%、授業中に実施する課題 30%、授業への積極的な取り組み 20%。

テキスト 二俣泉・鈴木涼子著『音楽で育てよう 子どものコミュニケーション・スキル』（春秋社）

参照資料：宮本啓子・二俣泉編著『音楽療法を知る その理論と技法』（杏林書院）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールで対応する。メールアドレスは授業時に伝える。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発用力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☐	☐	☐	☑	☑	☑	☑	☐	☑	☐	☑	☑	☐	☐		☐

高齢者の音楽療法

非常勤講師 田原ゆみ

科目コード：THE103

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	高齢化の進展により、高齢者を対象とした音楽療法に対する期待は年々高まっている。本授業では主に高齢者のための音楽療法に関する基本的な知識を習得するとともに、その実施方法について具体的に学ぶ。また、近年関心が高まっているホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についても事例を交えながら学ぶ。
到達目標	高齢者のための音楽療法に関する基本的な知識を身に付け、四季に合った音楽療法プログラムの作り方とその実施方法について学ぶ。ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法について理解する。

授業計画					
第 1 回	講師と学生の自己紹介 音楽療法の定義、歴史、日本の現状	事前	テキストの p.12～30 を読み、ノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、要点をまとめる	140 分	
第 2 回	高齢者をとりまく環境および高齢者に多く見られる疾病と障がいについて	事前	高齢者の特徴としてどのような点が挙げられるか、自分の意見をノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、高齢者の環境や疾病についてまとめる	140 分	
第 3 回	高齢者を対象とした音楽療法の治療理論	事前	テキストの p.31～48 を読み、ノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法の治療理論についてまとめる	140 分	
第 4 回	高齢者を対象とした音楽療法の目標	事前	テキストの p.71～87 を読み、ノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法の目標についてまとめる	140 分	
第 5 回	高齢者を対象とした音楽療法のプログラム構成	事前	テキストの p.88～97 を読み、ノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、高齢者を対象とした音楽療法プログラム構成を考える	140 分	
第 6 回	認知症高齢者を対象とした音楽療法	事前	テキストの p.98～108 を読み、ノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、認知症高齢者の音楽療法の特徴や有効性についてまとめる	140 分	
第 7 回	高齢者のための音楽療法の記録と評価	事前	テキストの p.109～140 を読み、用いられている評価法についてノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、高齢者の音楽療法の記録と評価についてまとめる	140 分	
第 8 回	神経学的リハビリテーションのための音楽療法	事前	テキストの p.49～70 を読み、ノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、神経学的音楽療法の種類と有効性についてまとめる	140 分	
第 9 回	認知症予防のための音楽療法および健康な高齢者を対象とした音楽療法	事前	テキストの p.181～192 を読み、ノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、健康な高齢者を対象とした音楽療法についてまとめる	140 分	
第 10 回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの作成	事前	事前に指定された四季を想定し、高齢者の音楽療法で使用する楽曲を考える	130 分	
		事後	指定された四季に適合した高齢者の音楽療法プログラムを完成する	140 分	
第 11 回	四季に適合した高齢者のための音楽療法プログラムの発表	事前	四季に適合した高齢者の音楽療法プログラムの発表準備をする	130 分	
		事後	自身の発表内容を振り返り、良かった点と改善点をまとめる	140 分	
第 12 回	ホスピス・緩和ケアの概要	事前	ホスピス・緩和ケアについて調べ、ノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアについてまとめる	140 分	
第 13 回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の概要	事前	配布された資料を読み、ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についてまとめる	130 分	
		事後	授業内容を振り返り、ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法についてまとめる	140 分	
第 14 回	ホスピス・緩和ケアにおける音楽療法の実際	事前	配布された事例を読み、感想や疑問点をノートにまとめる	130 分	
		事後	授業を振り返り、ホスピス・緩和ケアの音楽療法の効果や留意点についてまとめる	140 分	
第 15 回	講義内容の総括と試験	事前	これまでの授業を振り返り、要点や疑問点をノートにまとめる	130 分	
		事後	授業内容と試験を振り返り、理解を深める	140 分	

フィードバック 授業内課題やレポートに対するコメントや添削などで適宜フィードバックをおこなう

成績評価 試験 50%、授業内で指示する課題 20%、授業への積極的取組 30%

テキスト 貫行子著『新訂 高齢者の音楽療法』（音楽之友社 2009）
その他、必要に応じて資料を配布する

オフィスアワー 授業後に教室にて対応する

備考

学位授与の方針との関連															
授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	□	☑	□	□	□	□	□	□

思春期・成人の音楽療法

※音楽療法士養成に関する科目

講師	中山晶世	科目コード：THE104
----	------	--------------

専門／学年：全専門／2 年次

形態：講義	単位数：2 単位
-------	----------

概要	近年、音楽療法の研究は目覚ましく、様々な障害や疾患に音楽が適応され、医療分野でも認められてきている。また、様々な音楽療法において音楽の使い方や目的も異なる。それらの音楽療法を幅広く学び、音楽療法の有効性を考える。
----	--

到達目標	音楽療法は、年齢・障害・領域によって音楽の使い方、セッションの進め方、形態、評価の仕方等が変わってくる。 この授業では、おもに思春期と成人の音楽療法に関して理解を深める。様々な障害や疾患に関しての知識を持ち、それらの障害や疾患に有効な音楽療法の方法を学ぶ。
------	---

授業計画	授業は、テキスト内の難解な疾患名や用語等を調べ、理解した上で音楽療法の方法を学びながら進めていく。
------	---

第 1 回	精神科での音楽療法 精神科患者の特質	事前 p.129～130 統合失調症の特質を読む。 事後 精神科病院の音楽療法を見学した感想や疑問を提出。	140 分 140 分
第 2 回	精神科での音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.117～128 精神科での音楽療法を読む。 事後 実際の展開・伴奏・プログラムの立て方・配慮点・問題行動の対応についてノートに書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	慢性疾患の音楽療法 慢性疾患患者の特質	事前 p.168～172 慢性疾患患者の特質を読む。 事後 慢性疾患・急性疾患の差異。慢性疾患患者の心境。生活指導・医療との協同作業についてまとめる。	140 分 140 分
第 4 回	慢性疾患の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.172～179 「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 音楽療法の適用領域・適用方法・目的・効果をまとめる。	140 分 140 分
第 5 回	心身症の音楽療法 心身症患者の特質	事前 p.195・200～201 「心身症患者の特質」を読む。 事後 ストレスによる胃潰瘍や人間関係に悩み円形脱毛症などについて調べる。	140 分 140 分
第 6 回	心身症の音楽療法 音楽療法の症例を中心に	事前 p.195～200 「5 つの症例」を読む。 事後 摂食障害・高血圧症・肩関節周囲炎・過敏性腸症候群患者に対する音楽療法を学ぶ。	140 分 140 分
第 7 回	神経症・うつ状態の音楽療法 神経症・うつ状態患者の特質	事前 p.204～208 「神経症・うつ状態」を読む。 事後 神経症の症状・うつ状態の症状の特質をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 8 回	神経症・うつ状態の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.208～214 「神経症・うつ状態の音楽療法」を読む。 事後 音楽療法の長所と短所・音楽療法の適応・患者と接する時の注意点をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 9 回	緩和ケアの音楽療法 緩和ケア患者の特質	事前 p.181～187 「緩和ケア患者の特質」を読む。 事後 ターミナルケア・ターミナルステージについて調べる。	140 分 140 分
第 10 回	緩和ケアの音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 p.187～194 「音楽療法の目的と方法」を読む。配布された参考資料も読む。 事後 音楽療法の進め方・目的・具体的方法をノートにまとめる。	140 分 140 分
第 11 回	発達障害の音楽療法 発達障害者の特質	事前 p.131～132 「発達障害者の特質」を読む。 事後 「個人の行動に関する要因」「環境・制度に関する要因」について具体的な例を書きだす。	140 分 140 分
第 12 回	発達障害の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 P133～154 「音楽療法の目的と方法」を読む。 事後 地域の人たちとの交流の機会の提供・余暇活動の機会の提供と指導・不適切な行動の軽減を調べる。	140 分 140 分
第 13 回	認知症予防の音楽療法 音楽療法の目的と方法	事前 「認知予防の音楽療法」について調べる宿題を出してある。 事後 認知予防の活動例を作成し、提出。	140 分 140 分
第 14 回	様々な疾患における音楽療法の効果	事前 「音楽療法の効果」について考える宿題をだしてある。 事後 1 つの領域を選び、音楽療法の効果についてレポートを提出。	140 分 140 分
第 15 回	授業のまとめ 理解度確認テスト	事前 1～14 回の復習をする。 事後 理解度確認テストの振り返り。	140 分 140 分

フィードバック	提出したノートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------

成績評価	理解度確認テスト 60％ 授業態度 20％ ノート提出 20％
------	---------------------------------

テキスト	日野原重明監修『標準 音楽療法入門 下 実践編』（春秋社） その他、必要に応じてプリントなどを配布する。
------	---

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp
---------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	□	□	□	☑	☑	□	☑	□

音楽療法技法-1

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE107

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	音楽療法では、対象者に合わせることが基本となる。例えば児童の場合、対象児の行動の速度に合わせて音楽の速度を変える。それによって対象児の理解度やセラピストとの関係性も深くなる。高齢者の場合、行動の速度が遅くなる他に声の高さも低くなる。また、音域も狭くなる。従って歌唱では、既成の曲を対象者の音域に合わせたり、速度を遅くすることが必要となる。セラピストは臨機応変に対象者に合わせるよう、努力する。
到達目標	授業の中で模擬セッションを行い、ピアノ担当者はクライアントの歌唱の音域に合わせて演奏したり、楽器演奏の速度に合わせて演奏する。「合わせる」経験を通して音楽療法に必要な、対象者とのコミュニケーションを経験する。
授業計画	楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。

第 1 回	音楽療法で使われる楽器の名称・演奏方法を学ぶ。	事前 自分の知っている楽器の名称を楽器表に書き入れる。 事後 音楽療法で使われる楽器を加え、演奏方法を書き入れる。	140 分 140 分
第 2 回	音楽療法での音楽のあり方を学ぶ。	事前 配布した参考資料「音楽療法での音楽のあり方」を読んでおく。 事後 一般の演奏と音楽療法の音楽の違いをノートにまとめる。	140 分 140 分
第 3 回	模擬セッション① 既成曲(童謡や唱歌など)でピアノ(セラピスト)楽器(対象者)の 1 対 1 の演奏	事前 各自、童謡や唱歌などの既成曲を決め、ピアノの練習をする。 事後 対象者役(楽器)との演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 4 回	模擬セッション② 同形式で、対象者のテンポを合わせる。	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 事後 対象者(楽器)とテンポを合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 5 回	模擬セッション③ 同形式で、対象者のテンポ・強弱を合わせる。	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をする。 事後 対象者(楽器)とテンポと強弱を合わせた演奏についての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 6 回	模擬セッション④ 同形式で、ピアノ伴奏の工夫	事前 前回の注意点を参考にして、ピアノの練習をし、伴奏形を工夫する。 事後 セラピスト役が伴奏を替えることによって対象者役の何が替るのかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	様々なリズムを組みわせて 1 曲(8 小節)を完成させる(協同作業)	事前 リズムまたはリズムパターンを考えておく。 事後 できた 8 小節を楽器で演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第 8 回	前回作成したリズムに強弱をつけ、楽器で演奏する(協同作業)	事前 前回作成した 8 小節の曲に強弱をつける。 事後 できた 8 小節を楽器で強弱をつけて演奏し、伴奏をつける。	140 分 140 分
第 9 回	前回作成したリズムにメロディをつけ、歌う(協同作業)	事前 前回作成した 8 小節の曲に、メロディをつける。 事後 メロディをつけた 8 小節に歌詞をつける。	140 分 140 分
第 10 回	セッションで使う「こんにちは」の曲を作曲する(個人)	事前 子どものセッションにふさわしい「こんにちは」の曲を作る。 事後 「こんにちは」の曲を作るにあたっての注意点をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	作曲した「こんにちは」を 1 人ずつ発表する	事前 作曲した「こんにちは」の楽譜を完成させる。 事後 1 人ずつの作品について、感想を提出。	140 分 140 分
第 12 回	即興課題 ドーリア旋法①教会旋法の説明	事前 教会旋法について調べる。 事後 ドーリア旋法について復習する。	140 分 140 分
第 13 回	即興課題 ドーリア旋法②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でドーリア旋法に慣れる。	事前 ドーリア旋法の復習 事後 ピアノ役 2 人で連弾し、ドーリア旋法の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 14 回	即興課題 ドーリア旋法③1 人でピアノ演奏する。	事前 ドーリア旋法の復習。 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 15 回	即興課題 ドーリア旋法④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 ドーリア旋法の復習。 事後 対象者の楽器のリズムに合わせることを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分

フィードバック 模擬セッションについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内の参加度 25%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 音楽療法の疑似セッションの中で小グループになり、リーダー役、ピアノ役になってセッションを行った後、意見を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法技法-2

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世

科目コード：THE108

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	音楽療法で使われる音楽には既成音楽と即興音楽があり、対象者によって使い分けが必要となる。また、即興音楽には旋法や音階などの技術が必要である。それらの即興音楽を修得する方法として音楽性・即興性・表現力などを学ぶ。また、後半は、音楽療法で使われる合奏曲を、チームを組んで演奏したり、創作しながら、チームでのコミュニケーションを通して、対象者とのコミュニケーションを学ぶ。
到達目標	即興音楽は、ドーリア旋法・アラビア音階・沖縄音階を、音階楽器・連弾・ソロ演奏・対象者役の人の楽器と一緒に演奏と難易度を上げながら修得する方法で行なう。合奏はチームで合奏を行うだけが目標ではなく、チームで話し合い、楽器を決め、役割を決め、練習するまでのプロセスを通して、チームでのコミュニケーションを作ることを目標とする。
授業計画	楽器・声・動きを使って模擬セッション形式で進めていく。

第 1 回	即興課題 アラビア音階①アラビア音階の説明	事前 アラビア音階について調べる。 事後 アラビア音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第 2 回	即興課題 アラビア音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)でアラビア音階に慣れる。	事前 アラビア音階の復習。 事後 ピアノ役 2 人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	即興課題 アラビア音階③1 人でピアノ演奏	事前 アラビア音階の復習 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 4 回	即興課題 アラビア音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 アラビア音階の復習 事後 対象者のリズムに合わせることを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第 5 回	即興課題 沖縄音階①沖縄音階の説明	事前 沖縄音階について調べる。 事後 沖縄音階を五線紙に書き、復習する。	140 分 140 分
第 6 回	即興課題 沖縄音階②ピアノ連弾(メロディと伴奏)で沖縄音階に慣れる。	事前 沖縄音階の復習 事後 ピアノ役 2 人で連弾し、アラビア音階の特徴をノートに書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	即興課題 沖縄音階③1 人でピアノ演奏	事前 沖縄音階の復習 事後 ピアノ伴奏形を工夫し、練習する。	140 分 140 分
第 8 回	即興課題 沖縄音階④ピアノと対象者の楽器のリズムで模擬セッション	事前 沖縄音階の復習 事後 対象者の楽器のリズムを想定し、工夫してピアノの練習をする。	140 分 140 分
第 9 回	合奏曲を作る(協同作業)① 音楽療法楽器を用いて既成曲(ハンガリア舞曲など)の合奏曲を作る。	事前 合奏曲を作るための既成曲を決めておく。 事後 音楽療法の使用楽器がふさわしかったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 10 回	合奏曲を作る(協同作業)② 音楽療法のメロディ楽器を用いて既成曲(ふるさとなど)の合奏曲を作る。	事前 合奏曲を作る為の既成曲を決めておく。 事後 既成曲にふさわしいメロディ楽器だったかノートに書きだす。	140 分 140 分
第 11 回	合奏曲を作る(協同作業)③ 絵楽譜・色音符楽譜等の視覚的教材を用いて合奏を体験する。	事前 既成曲を決め、どのような視覚教材にするか考えておく。 事後 視覚教材を完成させる。	140 分 140 分
第 12 回	合奏曲を作る(協同作業)④ 既成曲で絵楽譜を用いた合奏曲を作成する。	事前 前回作成した視覚教材を準備する。 事後 演奏し、工夫した面などについてノートに書きだす。	140 分 140 分
第 13 回	作成した絵楽譜を各グループで発表する。 発表後、意見交換をする。	事前 さらに完成させた視覚教材を準備する。 事後 発表後、意見交換した内容を書きだし、感想を提出。	140 分 140 分
第 14 回	「静かな森の大きな木」(オリジナル曲集を参考資料として配布) グループで話し合い、模擬セッションを考える(協同作業)	事前 あらかじめ参考資料より曲を決めておく。 事後 模擬セッションをするにあたって、工夫した面、難しかった面を書きだす。	140 分 140 分
第 15 回	同模擬セッションをグループごとに発表。	事前 前回決めた曲を使って模擬セッションを準備する。 事後 模擬セッション後、成功した面、反省した面を書きだし、提出する。	140 分 140 分

フィードバック 即興演奏及び合奏でのプロセスについて、コメントを言い、学修成果をフィードバックする。

成績評価 授業態度 50%、課題への取り組み 25%、協同作業内の参加度 25%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室及び E メールで対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 音楽療法の疑似セッションの中で小グループになり、リーダー役、ピアノ役になってセッションを行った後、意見を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

臨床心理学

※音楽療法士養成に関する科目

大学教授 石橋明佳

科目コード：NAT103

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	臨床心理学とは、心理的な問題の解決や適応のため、助言・相談や診断・治療、および、その研究を行う心理学の一分野である。人間関係などから生じる葛藤や不安、怒り、孤独感について考えると共にいわゆる「心の病」とその治療について学ぶ。さらに心理テスト等を通して、思考・感情・行動を検証し、自分自身を含めた人間理解力を高める。
到達目標	臨床心理学の基礎理論および臨床の実際について学ぶと共に人間理解を深め、心身の健康管理について学ぶ。具体的には①臨床心理学の定義・歴史、実践領域について学ぶ、②精神障害・発達障害に関する基礎的知識の習得、③臨床心理学における主要なアプローチの理論と実際、④自分の心身の状態について知る、⑤心身の健康管理法を身につける。
授業計画	

第 1 回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 臨床心理学の定義、領域、対象	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 心理学が人々にできることを考察してみる	70 分 200 分
第 2 回	人間理解の方法	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 自分の自己理解の程度について分析する	160 分 110 分
第 3 回	ストレスと心の病の関係 主な精神障害の特徴と治療方法（1）自律神経失調症、過敏性腸症候群	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140 分 130 分
第 4 回	主な精神障害の特徴と治療方法（2）依存症、摂食障害、パニック障害、社会不安障害、強迫性障害	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140 分 130 分
第 5 回	主な精神障害の特徴と治療方法（3）PTSD、適応障害、うつ病、躁うつ病、統合失調症	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140 分 130 分
第 6 回	主な発達障害の特徴：自閉症スペクトラム、注意欠陥・多動性障害、学習障害 自殺と心の病	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140 分 130 分
第 7 回	パーソナリティとパーソナリティ障害	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で行ったケーススタディを復習し、各障害の理解を深める	140 分 130 分
第 8 回	第 1 回～7 回のまとめ	事前 テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する 事後 理解不足だった部分の復習をする	110 分 160 分
第 9 回	カウンセリングと心理療法 カウンセラーに必要な基本的知識	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 現代社会におけるカウンセリングの在り方・必要性を検証する	140 分 130 分
第 10 回	カウンセリング・テクニックの実践	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 授業で学んだテクニックを日常会話の中で試してみる	70 分 200 分
第 11 回	認知行動療法とその他の代表的な心理療法	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 自分の認知・行動パターンを分析する	110 分 160 分
第 12 回	心理的アセスメント	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 インターネット等を使って最新情報を収集する	210 分 60 分
第 13 回	メンタルヘルスを巡る諸問題	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 問題の原因を考えると共に、自分の中に誤解や偏見がないか考えてみる	110 分 160 分
第 14 回	心の健康のための運動・食生活・休養	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 事後 自分の生活を見直し、心の健康のためにできる改良点を検討する	80 分 190 分
第 15 回	第 9 回～14 回のまとめ	事前 テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する 事後 理解不足だった部分の復習をする	110 分 160 分

フィードバック 課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート 60%、課題（グループワークを含む）40%の評価配分を基準とし、受講態度（授業に取り組む姿勢・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。

テキスト プリント教材「臨床心理学」（約 700 円）

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐

副科器楽（ピアノ）

ピアノ主任 特任教授 藤井孝子

科目コード：IND204

専門／学年：器楽・声楽専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	ピアノ奏法の基本を確認し、教育実習・音楽療法実習での実践力を身につける。

到達目標 様々なピアノ曲を学び、より豊かな表現力溢れる演奏にむすびつける。

授業計画	通年 15 回、20 分の個人指導。 実技演習においては、各人の進度に合わせて授業を進める。
------	---

第 1 回	練習曲（1）―打鍵―	事前 練習曲を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 鍵盤の下まで打鍵しているか、確認をする	105 分 105 分
第 2 回	練習曲（2）―運指―	事前 楽譜に記されている指使いで、練習をする 事後 運指の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 3 回	バッハの作品（1）―読譜―	事前 バッハの作品を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 読譜の確認をする	105 分 105 分
第 4 回	バッハの作品（2）―和声感―	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 5 回	ソナタ（1）―形式―	事前 モーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンのソナタから 1 曲を選び、1 楽章の読譜をする 事後 形式を考えて、練習をする	105 分 105 分
第 6 回	ソナタ（2）―表現―	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 7 回	ショパンの作品（1）―強弱―	事前 ショパンの作品を 1 曲選曲して、読譜をする 事後 強弱の確認をして、練習をする	105 分 105 分
第 8 回	ショパンの作品（2）―音色―	事前 ショパンの要求しているニュアンスを探りながら、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105 分 105 分
第 9 回	試験曲―読譜の確認―	事前 作品を選曲して、読譜をする 事後 楽語を調べ、読譜の確認をする	105 分 105 分
第 10 回	試験曲―形式―	事前 形式を考えて、練習をする 事後 曲の大きな流れを捉える練習をする	105 分 105 分
第 11 回	試験曲―表現―	事前 表現方法を考えて、練習をする 事後 表現をする上で、最適なテンポを探す	105 分 105 分
第 12 回	試験曲―和声感―	事前 和声機能の確認をして、練習をする 事後 和声の響きを意識して、練習をする	105 分 105 分
第 13 回	試験曲―強弱―	事前 強弱の確認をして、練習をする 事後 コントラストのつけ方を研究して、練習する	105 分 105 分
第 14 回	試験曲―音色―	事前 作曲家の要求しているニュアンスを探りながら、練習をする 事後 曲のキャラクターを考えながら、練習をする	105 分 105 分
第 15 回	試験曲の仕上げ―まとめ―	事前 フレーズ感をもって演奏をしているか、確認をする 事後 暗譜の確認をする	105 分 105 分

フィードバック 学年末試験の演奏について、コメントをつけ、フィードバックする

成績評価 学年末試験の評価が 50 点以上であること。試験 60% 課題 20% 授業態度 20%
学年末試験にレッスンへの取り組みを加味して総合的に評価。なお、学年末試験評価は複数教員（ピアノ教員）による

テキスト 適宜授業内に指示する

オフィスアワー 各担当教員のレッスン室で対応する（各実技担当教員レッスン日）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐

副科器楽（ピアノ以外）

※音楽療法士養成に関する科目

器楽主任 教授 飯島和久

科目コード：IND204

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	ピアノ専門の学生がフルート、フルートの学生がヴァイオリン、ヴァイオリンの学生がハープ等、他の分野の楽器を個人レッスンで学ぶことができる。

到達目標	今日の学校教育の現場に於いては多様な音楽教育が行われている。専門以外の楽器奏法を習得し、さらに豊かな表現を目標とし、広く器楽教育の視野を持てるようにすることが望ましい。専門外の楽器を研究することは教職取得のみならず、大きな意味で、自分の音楽世界が広がっていくことであろう。15 回目の授業終了後に発表会を行う。
------	---

授業計画	2 年次で履修。年間 15 回、隔週 20 分の個人指導。以下の内容はフルートを例にした授業計画であり、専門により内容、進度が異なる場合がある。
------	--

第 1 回	楽器の仕組みについて	事前 選択楽器の歴史を調べ、楽器の演奏を聴く。購入する場合は事前に担当教員に必ず相談すること	105 分
第 2 回	楽器の扱い方について	事後 仕組みについて確認し、教則本等今後必要な準備をする	105 分
第 3 回	音を出してみよう（正しい持ち方）	事前 教則本を読み楽器の扱い方について調べる	105 分
第 4 回	音を出してみよう（ロングトーン）	事後 楽器の取り扱い方や掃除の仕方の確認をする	105 分
第 5 回	音を出してみよう（正しい姿勢）	事前 CD 等で演奏を聴きイメージを持つ	105 分
第 6 回	3 つの音の指を覚える	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 7 回	3 つの音で楽曲のレッスン	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 8 回	3 つの音で楽曲の仕上げ	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 9 回	5 つの音の指を覚える	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 10 回	5 つの音で楽曲のレッスン	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 11 回	5 つの音で楽曲の仕上げ	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 12 回	1 オクターブの楽曲のレッスン	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 13 回	2 オクターブの楽曲のレッスン	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
第 14 回	発表会用の楽曲のレッスン	事後 問題箇所を確認し是正に向けて練習する	105 分
第 15 回	発表会用の楽曲の仕上げ	事前 ロングトーン等の音出しを充分にし、教則本に従って練習をする	105 分
		事後 問題箇所を確認し発表会に向けて練習する	105 分

フィードバック	発表会終了後、教員よりコメントを受ける。
---------	----------------------

成績評価	発表会 30％ 課題 30％ 授業態度 40％
------	-------------------------

テキスト	各教員から教則本の指示あり。
------	----------------

オフィスアワー	レッスン後すぐに対応
---------	------------

備考	楽器購入の際は必ず担当教員に相談のこと
----	---------------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐

ピアノ伴奏法演習 1

※音楽療法士養成に関する科目

特任教授 藤井孝子		科目コード：PEN203
専門／学年：全専門／2 年次、専攻科		
形態：演習	単位数：1 単位	
概要	学内演奏会に向けて、伴奏法の研究を行う。	

到達目標	伴奏の重要性をあらためて感じとり、ピアノ伴奏の魅力を迫及する。実践を通して、詩・言葉によってあらわされた情景や、詩・言葉から引きだされた情感を的確にピアノ伴奏で表現できることを目標とする。
------	--

授業計画	学内演奏会・定期演奏会オーディションに向けて、伴奏法の研究を行う。
------	-----------------------------------

第 1 回	伴奏とは	事前	日本歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	50 分
		事後	ドイツ歌曲の作曲家の流れを調べ、特色を探る	50 分
第 2 回	日本歌曲の伴奏<瀧廉太郎の作品> 詩の情景をピアノでどのように表現するか	事前	作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする	50 分
		事後	詩の内容の確認をする	50 分
第 3 回	日本歌曲の伴奏<山田耕筰の作品> 詩の情感をピアノでどのように表現するか	事前	作曲家と作詩家の生涯と時代背景を調べ、読譜をする	50 分
		事後	詩の内容の確認をする	50 分
第 4 回	モーツァルトの歌曲の伴奏<すみれ> 細かい表現力を養う	事前	独語 1 つ 1 つの単語を調べ内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	作曲家に与えた影響について考える	50 分
第 5 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 プレスを考える	事前	それぞれのパートの練習をする	50 分
		事後	プレスの場所の確認をする	50 分
第 6 回	教育実習で取り上げる曲の伴奏 対象者にあわせたテンポ感について	事前	弾き歌いが出来る様に練習をする	50 分
		事後	合唱部分のハーモニーを演奏できる様に練習をする	50 分
第 7 回	シューベルトの歌曲の伴奏<野ばら> 有節歌曲の伴奏について	事前	独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	ゲーテについて調べる	50 分
第 8 回	シューベルトの歌曲の伴奏<ます> 情景の細かい表現について	事前	独語の単語を調べ、内容の確認をし、読譜をする	50 分
		事後	作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分
第 9 回	シューベルトの歌曲の伴奏<糸を紡ぐグレートヒェン>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	ゲーテの<ファウスト>について調べる	50 分
第 10 回	シューベルトの歌曲の伴奏<菩提樹>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	シューベルトの三大歌曲集と冬の旅について調べる	50 分
第 11 回	シューマンの歌曲の伴奏<献呈>	事前	独語の単語を調べ、内容を確認し、読譜をする	50 分
		事後	作曲家について調べ、詩の奥深い内容を探る	50 分
第 12 回	学内演奏会の曲の伴奏 バランスについて	事前	読譜をする	50 分
		事後	ソロと伴奏の楽譜からバランスを考える	50 分
第 13 回	学内演奏会の曲の伴奏 表現について	事前	ソロの音楽表現を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音楽表現に合わせられる様に練習をする	50 分
第 14 回	学内演奏会の曲の伴奏 音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	50 分
第 15 回	学内演奏会の曲の伴奏 仕上げ	事前	ソロの人と曲の内容を確認する	50 分
		事後	ピアノのふたの開閉状態を考える	50 分

フィードバック	学内演奏会での伴奏についてコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。
---------	--------------------------------------

成績評価	授業への取り組み方、および授業態度による。
------	-----------------------

テキスト	各自で、上記の楽譜を用意する。
------	-----------------

オフィスアワー	授業終了後、教室にて。
---------	-------------

アクティブ・ラーニング	授業内で伴奏を担当する学生が、楽曲についてプレゼンテーションを行う。 その後、楽曲、演奏に関してディスカッションをし、一つの曲を作り上げる
-------------	--

備考	学内演奏会で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。
----	---

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

ピアノ伴奏法演習 2

※音楽療法士養成に関する科目

特任教授 藤井孝子

科目コード：PEN204

専門／学年：全専門／2 年次、専攻科

形態：演習

単位数：1 単位

概要

定期演奏会・卒業演奏試験に向けて、より高度な伴奏法を学ぶ。

到達目標

ソロの演奏を支えつつ、伴奏で更なる豊かな音楽を拡げていく能力を身につける。卒業後の演奏活動に役立つよう、更に実践的な伴奏法を学ぶ。

授業計画				
第 1 回	オーディションの曲の伴奏ー器楽曲ーバランス・表現・音色ー	事前	伴奏部の読譜の確認をする	50 分
		事後	ソロ楽器の特性を考える	50 分
第 2 回	オーディションの伴奏ー声楽曲ーバランス・表現・音色ー	事前	伴奏部の読譜の確認をする	50 分
		事後	歌詞の内容の確認をする	50 分
第 3 回	オーディションの曲の伴奏ー仕上げー	事前	ソロの楽譜を見ながら伴奏ができる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの人と表現方法の再確認をする	50 分
第 4 回	イタリア古典歌曲の伴奏ープレスを感ずるー	事前	イタリア古典歌曲の様式を調べる	50 分
		事後	プレスの場所の確認をする	50 分
第 5 回	イタリア古典歌曲の伴奏ー表現についてー	事前	イタリア古典歌曲の時代背景を調べる	50 分
		事後	作曲家について調べる	50 分
第 6 回	イタリア古典歌曲の伴奏ーまとめー	事前	当時の演奏形態を考える	50 分
		事後	宗教曲のアリアについて調べる	50 分
第 7 回	合唱曲の伴奏<高田三郎の作品>ー合唱曲でのピアノの役割を考える	事前	作曲家の時代背景を調べる	50 分
		事後	ピアノが表現しなくてはならない音楽を考える	50 分
第 8 回	合唱曲の伴奏<新実徳英の作品>ー伴奏の響きを聴く	事前	邦人作曲家の合唱曲の流れを調べる	50 分
		事後	三善見の作品の響きと新実徳英の作品の響きを比べてみる	50 分
第 9 回	合唱曲の伴奏ーまとめ	事前	木下牧子の作品について調べる	50 分
		事後	混声合唱曲、女声合唱曲、男声合唱曲の伴奏の役割について考える	50 分
第 10 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー器楽曲ーバランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする	50 分
		事後	作曲家の時代背景を調べる	50 分
第 11 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー器楽曲ー表現について	事前	ピアノが表現しなくてはならない部分の練習をする	50 分
		事後	ソロと表現方法が同じであるか確認をする	50 分
第 12 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー器楽曲ー音色について	事前	ソロの音色を感じとれる様に練習をする	50 分
		事後	ソロの音色に合わせられる様に練習をする	50 分
第 13 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー声楽曲ーバランスについて	事前	楽語を含め、読譜の確認をする	50 分
		事後	ソロと伴奏の楽譜から、バランスを考える	50 分
第 14 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー声楽曲ー表現について	事前	歌詞の内容を調べる	50 分
		事後	ピアノが表現する情景や情感を考える	50 分
第 15 回	卒業演奏試験曲の伴奏ー声楽曲ー音色について	事前	作曲家が要求している音色を考える	50 分
		事後	情景や情感に合った音色で演奏しているか確認をする	50 分

フィードバック

卒業演奏試験の伴奏についてコメントを付け、学修成果をフィードバックする。

成績評価

授業への取り組み方、および授業態度による。

テキスト

各自で、定期演奏会オーディション・卒業演奏試験で伴奏する楽譜を用意する。
必要な楽譜は、授業中に適宜配布する。

オフィスアワー

授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング

授業内で伴奏を担当する学生が、楽曲についてプレゼンテーションを行う。
その後、楽曲、演奏に関してディスカッションをし、一つの曲を作り上げる

備考

卒業演奏試験で伴奏する予定の学生は、履修すること。受講する学生の様子を見て、曲を変更することがある。

学位授与の方針との関連															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-1・Ⅱ-1

【大学との単位互換科目】

非常勤講師 齋藤勇二 ほか	科目コード：IEN107／IEN207
---------------	---------------------

専門／学年：	全専門／1～2 年次
--------	------------

形態：実習	単位数 1 単位
-------	----------

概要	多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。
----	---

到達目標	年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。
------	---

授業計画	履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。
------	--

第 1 回	R. E. ジェイガー「シンフォニックノビリッシマ」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 2 回	保科洋「風紋」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 3 回	P. グレンジャー「組曲 リンカンシャーの花束」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 4 回	オッフエンバッハ「喜歌劇 天国と地獄序曲」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 5 回	ワーグナー「楽劇 神々の黄昏より ジークフリードの葬送行進曲」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 6 回	コダーイ「組曲 ハーリヤーノシュより」	事前 課題曲の楽語を調べそれを意識した譜読みを行うこと。	50 分
		事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分
第 7 回	R. E. ジェイガー「シンフォニックノビリッシマ」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 8 回	保科洋「風紋」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 9 回	P. グレンジャー「組曲 リンカンシャーの花束」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 10 回	オッフエンバッハ「喜歌劇 天国と地獄序曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 11 回	ワーグナー「楽劇 神々の黄昏より ジークフリードの葬送行進曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 12 回	コダーイ「組曲 ハーリヤーノシュより」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。	50 分
		事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分
第 13 回	R. E. ジェイガー「シンフォニックノビリッシマ」／保科洋「風紋」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 14 回	P. グレンジャー「組曲 リンカンシャーの花束」 ／オッフエンバッハ「喜歌劇 天国と地獄序曲」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分
第 15 回	ワーグナー「楽劇 神々の黄昏より ジークフリードの葬送行進曲」 ／コダーイ「組曲 ハーリヤーノシュより」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。	50 分
		事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分

フィードバック	音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がけるすべの取得。
---------	---

成績評価	授業への積極的な取り組みにより評価する。
------	----------------------

テキスト	授業内に指示する。
------	-----------

オフィスアワー	授業後直ぐに対応します。予約も可能。
---------	--------------------

備考	曲目を変更する可能性がある
----	---------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバル視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

ウィンド・アンサンブルⅠ-2・Ⅱ-2

【大学との単位互換科目】

非常勤講師 齋藤勇二 ほか 科目コード：IEN108／IEN208

専門／学年： 全専門／1～2 年次

形態：実習 単位数 1 単位

概要 多人数での、また管楽器・打楽器での同属楽器の協調し易い合奏の中で、1 奏者としての役割を経験し、音の響きや音楽の内容をより広く経験し、個人の技量をも高めることに寄与する。

到達目標 年 2 回の公開演奏会に向け、授業時間をその練習に当て、担当教員の指導と履修生達の研鑽により演奏の向上をはかり、聴衆にその成果を問うことを目標とする。

授業計画 履修希望の学生は授業の性格上、遅刻や欠席が授業の進め方や全体の音楽作りに多大な迷惑をかける事を知った上で、自覚と心得を持って授業に取り組む事。無断欠席は絶対に認めない。履修学生は授業内容に沿った個人練習（予習、復習）の実践を必要不可欠とする。演奏会や発表会がある場合、その編成により出演者数を減らす事もある。その場合出席率などで考慮する。専門以外の学生も授業担当教員が認めた学生は履修できる。

第 1 回	J. H. ビリック「行進曲ブロック M」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 2 回	兼田敏「バンドのための哀歌」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 3 回	P. ホエヤー「ストーンヘンジ交響曲」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 4 回	エルガー「エニグマ変奏曲より ニムロッド」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 5 回	管打楽器履修学生による「協奏曲」曲目未定	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 6 回	ドビュッシー「交響詩 海」	事前 課題曲の楽譜を調べそれを意識した譜読みを行うこと。 事後 音源、スコア等を参照にして曲の造詣を深める。	50 分 50 分
第 7 回	J. H. ビリック「行進曲ブロック M」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 8 回	兼田敏「バンドのための哀歌」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 9 回	P. ホエヤー「ストーンヘンジ交響曲」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 10 回	エルガー「エニグマ変奏曲より ニムロッド」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 11 回	管打楽器履修学生による「協奏曲」曲目未定	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 12 回	ドビュッシー「交響詩 海」	事前 課題曲二回目になるのでさらに譜読みを徹底する事。 事後 指摘された箇所の反復練習。	50 分 50 分
第 13 回	J. H. ビリック「行進曲ブロック M」／兼田敏「バンドのための哀歌」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 14 回	P. ホエヤー「ストーンヘンジ交響曲」／エルガー「エニグマ変奏曲より ニムロッド」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分
第 15 回	管打楽器履修学生による「協奏曲」曲目未定／ドビュッシー「交響詩 海」	事前 公開演奏を想定した課題曲の徹底チェックを行う事。 事後 指摘された箇所のさらなる反復練習。	50 分 50 分

フィードバック 音程の取り方、和音の合わせ方の取得。また、独奏曲のように各奏者（履修生達）が模範となる音源を具体的には聴けない為、自ら音楽を考え自発的な演奏を心がける への取得。

成績評価 授業への積極的な取り組みにより評価する。

テキスト 授業内に指示する。

オフィスアワー 授業後直ぐに対応します。予約も可能。

備考 曲目を変更する可能性がある

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☐	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐

指揮法

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

※実務経験を持つ教員による授業

東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団のアソシエイト・コンダクターを務めた教員が、クラスの「合唱」を指揮することで実践的な経験を積む授業を行う。

非常勤講師	大河内雅彦	科目コード：SLF109
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：演習	単位数：2 単位	
概要	・指揮の基本技法を習得する。 ・実際のクラス（15 名程度）の 2 部合唱（ピアノ連弾による伴奏）を題材にして、指揮および指導の実習をする。 ・スコアを読むための予備知識を習得する。（ハ音記号、移調楽器の記譜について） ・クラスのメンバーで適切なアンサンブルが組める場合、そのアンサンブルを指揮してみる。	
到達目標	・理論的なことを押さえつつも、指揮および指導を「実践する」。 ・実際に指揮を体験してみるにより、それに必要な「準備」、「心構え」、「リハーサルの方法論」などを、クラスメートとディスカッション出来るようにする。 ・吹奏楽やオーケストラのスコアを読むための準備として、移調楽器の記譜についての知識を得ることに加え、数種類の「ハ音記号」を読めるようにする。	

授業計画

第 1 回	オリエンテーション 移調楽器についての	指揮の理論についての概要 説明①	事前 移調楽器にどんな楽器があるかを調べてくる 事後 移調楽器について授業で話した内容について概要をつかむこと	120 分 150 分
第 2 回	ハイ・ホー 移調楽器についての	譜読み 説明②	事前 ハイ・ホー 譜読み 事後 移調楽器について授業で話した内容の確認	150 分 150 分
第 3 回	ハイ・ホー 仕上げ ハ音記号についての説明		事前 ハイ・ホー 譜読み 事後 ハ音記号について概要をつかむ	120 分 150 分
第 4 回	チム・チム・チェリー テノール記号の練習 p.1-3	譜読み	事前 チム・チム・チェリー 譜読み 事後 テノール記号の反復練習	120 分 150 分
第 5 回	チム・チム・チェリー 仕上げ テノール記号の練習 p.4-5		事前 チム・チム・チェリー 譜読み 事後 テノール記号の反復練習	120 分 150 分
第 6 回	アンダー・ザ・シー 譜読み テノール記号の練習 p.6-7		事前 アンダー・ザ・シー 譜読み 事後 テノール記号の反復練習	120 分 150 分
第 7 回	アンダー・ザ・シー 譜読み テノール記号の練習 p.8-10		事前 アンダー・ザ・シー 譜読み 事後 テノール記号の反復練習	120 分 150 分
第 8 回	アンダー・ザ・シー 仕上げ メゾソプラノ記号の練習 p.13-14		事前 アンダー・ザ・シー 譜読み 事後 メゾソプラノ記号の反復練習	120 分 150 分
第 9 回	ビビディ・バビディ・ブー 譜読み メゾソプラノ記号の練習 p.15-16		事前 ビビディ・バビディ・ブー 譜読み 事後 メゾソプラノ記号の反復練習	120 分 150 分
第 10 回	ビビディ・バビディ・ブー 仕上げ メゾソプラノ記号の練習 p.17-18		事前 ビビディ・バビディ・ブー 譜読み 事後 メゾソプラノ記号の反復練習	120 分 150 分
第 11 回	ホール・ニュー・ワールド 譜読み メゾソプラノ記号の練習 p.19-20		事前 ホール・ニュー・ワールド 譜読み 事後 メゾソプラノ記号の反復練習	120 分 150 分
第 12 回	ホール・ニュー・ワールド 仕上げ アルト記号の練習 p.21-22		事前 ホール・ニュー・ワールド 譜読み 事後 アルト記号の反復練習	120 分 150 分
第 13 回	小さな世界 譜読み アルト記号の練習 p.23-24		事前 小さな世界 譜読み 事後 アルト記号の反復練習	120 分 150 分
第 14 回	小さな世界 仕上げ アルト記号の練習 p.25-26		事前 小さな世界 譜読み 事後 アルト記号の反復練習	120 分 150 分
第 15 回	まとめ 3 つのハ音記号の練習		事前 全ての曲 譜読み確認 事後 3 つのハ音記号の反復練習	120 分 120 分

フィードバック

実技系の授業なので、各自が指揮をする際に丁寧に質問に答える。

成績評価

事前学習への取り組み（十分な譜読み）50％ 授業への積極的な取り組み 50％

テキスト

テキストは使用しない。その都度プリントを配布する。

オフィスアワー

授業終了後教室にて

アクティブ・ラーニング

クラスの「合唱」を実際に指揮し、歌い手やピアニストに意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のヒントを与え、学生にその問題点を解決させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	□	☒	□	☒	☒	□	□	□

教育合奏

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 大河内雅彦	科目コード：IEN209
-------------	--------------

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実技	単位数：2 単位
概要	・教育合奏で使用する楽器の知識を習得する（Sop&Alt リコーダー、打楽器、ピアノを中心に） ・リコーダー合奏の指揮および指導の実習をする。 ・簡単なコードネームを習得する。 ・器楽合奏の編曲（4 曲程度）の実習と、その演奏の発表をする。
到達目標	・Sop&Alt リコーダーを演奏を出来るようにする。 ・リコーダー合奏の指揮および指導を実際に体験してみることで、それに必要な「準備」、「心構え」、「リハーサルの方法論」などを、クラスメートとのディスカッションも取り入れつつ出来るようにする。 ・器楽合奏の編曲実習をすることにより、「プラン」、「スコア作成」、「演奏の練習」などのプロセスを学習する。
授業計画	

第 1 回	リコーダー合奏「花は咲く」	事前 コードネームについて何か読めるものがある場合は読んでくこと。 事後 コードネームの概要を確認すること。	120 分 150 分
第 2 回	コードネームを使う実習	事前 「花は咲く」の譜読み 事後 「花は咲く」の反復練習	150 分 120 分
第 3 回	リコーダー合奏「ふるさと」	事前 「ふるさと」の譜読み 事後 「ふるさと」の反復練習	150 分 120 分
第 4 回	リコーダー合奏「あまちゃん オープニングテーマ」	事前 「あまちゃん オープニングテーマ」の譜読み 事後 「あまちゃん オープニングテーマ」の反復練習	150 分 120 分
第 5 回	リコーダー合奏「笑点のテーマ」	事前 「笑点のテーマ」の譜読み 事後 「笑点のテーマ」の反復練習	150 分 120 分
第 6 回	リコーダー合奏「宇宙戦艦ヤマト」	事前 「宇宙戦艦ヤマト」の譜読み 事後 「宇宙戦艦ヤマト」の反復練習	150 分 120 分
第 7 回	リコーダー合奏「花」	事前 「花」の譜読み 事後 「花」の反復練習	150 分 120 分
第 8 回	リコーダー合奏「星に願いを」	事前 「星に願いを」の譜読み 事後 「星に願いを」の反復練習	150 分 120 分
第 9 回	クリスマス・メドレーの編曲についての説明 （クラスのメンバーを 2 グループに分けて、4 曲程度のメドレーを作る）	事前 メドレーの曲目について考えてくこと。 事後 曲順を決定する	150 分 120 分
第 10 回	クリスマス・メドレーの 1 曲目の編曲	事前 1 曲目の編曲のための準備 事後 1 曲目の編曲の修正と練習	150 分 120 分
第 11 回	クリスマス・メドレーの 2 曲目の編曲	事前 2 曲目の編曲のための準備 事後 2 曲目の編曲の修正と練習	150 分 120 分
第 12 回	クリスマス・メドレーの 3 曲目の編曲	事前 3 曲目の編曲のための準備 事後 3 曲目の編曲の修正と練習	150 分 120 分
第 13 回	クリスマス・メドレーの 4 曲目の編曲	事前 4 曲目の編曲のための準備 事後 4 曲目の編曲の修正と練習	150 分 120 分
第 14 回	クリスマス・メドレーの繋ぎ部の編曲とリハーサル	事前 繋ぎ部分の編曲のための準備 事後 メドレーの修正と練習	150 分 120 分
第 15 回	クリスマス・メドレーの発表	事前 メドレーの練習 事後 メドレーについての反省	240 分 30 分

フィードバック 実技系の授業なので、各自が指揮および指導をする際に丁寧に質問に答える。

成績評価 事前学習への取り組み（十分な譜読み等）50％ 授業への積極的な取り組み 50％

テキスト テキストは使用しない。その都度資料を配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて。

アクティブ・ラーニング リコーダー合奏に実際に指揮及び指導し、奏者の意見を聞きながら問題点を探し、講師が改善のためのヒントを与え、学生にその問題を解決させる。

備考 全員 Sop&Alt リコーダーを準備すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	☒	☒	□	☒	☒	□	□	□	☒	□	☒	☒	□	☒	□

日本の伝統的な歌唱法

非常勤講師 松浦奈々恵

科目コード：IEN209

専門／学年：全専門／2 年次

形態：実技 単位数：1 単位

概要 日本の伝統音楽である長唄を通し、歴史や発声法の修得および三味線の仕組みや演奏法を知る。

到達目標 ・長唄「勸進帳」より謡いガカリ、大薩摩を唄えるようにする。
・三味線の調弦および「寄せの合方」を弾けるようにする。日本音楽の「間」を知る。

授業計画

第 1 回	長唄の歴史。「勸進帳」の説明。「勸進帳」より、謡いガカリと大薩摩の部分「旅の衣は條懸の〜月の都を立ち出でて」までを唄う。	事前 配布プリントを読む。 事後 授業で学んだ唄を復習して唄う。	120 分 130 分
第 2 回	長唄の伴奏楽器である三味線の歴史、仕組み、演奏法、譜面の説明。三味線の調弦、構えを出来るようにする。「さくら」を弾いてみる。(出来たら替手を入れてみる。)	事前 前回学んだ唄を復習して唄う。 事後 三味線の調弦法、構えや撥の使い方の復習をする。	120 分 130 分
第 3 回	唄の復習。引き続き「これやこの〜海草の浦に着きにけり」までを唄えるようにする。	事前 前回の唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120 分 130 分
第 4 回	唄の復習。引き続き「それ山伏と〜押しもんだり」までを唄えるようにする。 三味線「さくら」の復習、「佃の合方」を口三味線で言えるようにし、その後弾いてみる。	事前 「さくら」の三味線の勘所（ポジション）の復習確認をする。 事後 「佃の合方」の口三味線を暗記する。	120 分 130 分
第 5 回	唄の復習。引き続き「もとより〜読み上げけれ」までを唄えるようにする。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 今回学んだ部分を復習して唄う。	120 分 130 分
第 6 回	唄の復習。「佃の合方」の復習。出来たら替手を入れてみる。次に勸進帳より「寄せの合方」を弾いてみる。	事前 「さくら」の復習をする。「佃の合方」の口三味線、勘所の復習確認をする。 事後 「寄せの合方」の旋律を覚える。	120 分 130 分
第 7 回	唄を始めから通して唄えるようにする。「さくら」「佃の合方」「寄せの合方」の復習。 三味線は 2 チームに別れて練習。	事前 前回までの唄の部分の歌詞を音読し、唄を復習する。 事後 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。	120 分 130 分
第 8 回	唄の復習。三味線は 2 チームにて練習。横並びで指揮者のいない演奏形態の体験。最後に唄を全員で唄い、三味線は各チームで発表。	事前 唄の復習をする。三味線の旋律、勘所を復習する。 事後 唄と三味線の出来なかった箇所の復習をする。三味線の仕組みの復習をする。	120 分 130 分

フィードバック 学生の長唄および三味線の演奏に対する助言 三味線の構えや撥の当て方など、演奏技術に対する助言・評価

成績評価 長唄・三味線の実技の修得状況 60％並びに取り組みの様子 30％ 定期試験の結果 10％

テキスト ※適宜授業内配布。「勸進帳（研精譜）」 三味線合方（文化譜）

オフィスアワー 講義時間の前後

アクティブ・ラーニング 指揮者のいない音楽を経験することで、他人と息を合わせる感覚を身につけ、相手との間合いを感じることができるようになる

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
□	☑	☑	☑	□	☑	□	☑	□	□	□	☑	□	☑	□	☑	

和楽器研究法

客員教授 深海さとみ

科目コード：SCH202

専門／学年： 全専門／2 年次

形態：講義

単位数：1 単位

概要 テキスト『箏エチュード』を用いて、毎回準備運動から始め、呼吸・身体の使い方、構え、調弦などの基礎事項の習熟を目指しながら、特に音楽授業で教材として用いられている《さくらさくら》と《六段の調べ》の演奏を中心に知識と技能を身に付けていく。

到達目標 学習指導要領に示された和楽器を用いた授業実践を行うために必要な和楽器演奏の技能を、息や身体の使い方、唱歌を用いた具体的な指導法など、指導上のポイントを身に付けながら箏を用いた学習指導の技能を中心に身に付ける。

授業計画 4 回×2 日間の集中講義で行う。

第 1 回	上半身の力を抜き、箏を楽に弾くための準備運動。爪の選び方。構え方。	事前 事後	『箏エチュード』の全体に目を通してくる。 『箏エチュード』 pp.1-19 を熟読し、身体の使い方を復習する。	130 分 140 分
第 2 回	準備運動。構え方の演習。調弦を正確に素早くとる。	事前 事後	『箏エチュード』 pp.20-27 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp.20-27 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 3 回	準備運動。箏に馴れる。箏に向かう姿勢を身に付ける。《さくらさくら》の演奏。	事前 事後	『箏エチュード』 pp.28-33 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp.28-33 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 4 回	準備運動。箏に馴れる。呼吸と身体の使い方。親指で下降、人差し指・中指で上行。	事前 事後	『箏エチュード』 pp.34-35 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp.34-35 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 5 回	準備運動。箏に馴れる。口唱歌と共に《さくらさくら》のバリエーションを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 pp.36-43 を読み、予習をしてくる。 『箏エチュード』 pp.36-43 を読み直し、レッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 6 回	準備運動。《六段の調べ》初段の冒頭部分。息と身体を使って弾く。引き色、押し手。	事前 事後	『箏エチュード』 pp.70-73 を読み、予習をしてくる。 《六段の調べ》 初段の冒頭部分を復習する。	130 分 140 分
第 7 回	準備運動。《六段の調べ》初段独奏を通して、授業で生徒に気付かせたいポイントを学ぶ。	事前 事後	『箏エチュード』 p.115 の 50 番 を、イメージトレーニングしてくる。 《六段の調べ》 初段のレッスン内容を復習する。	130 分 140 分
第 8 回	発表会。各自が《さくらさくら》《六段の調べ》を選んで、独奏する。	事前 事後	《さくらさくら》または《六段の調べ》を練習してくる。 『箏エチュード』の練習曲に挑戦する。	130 分 140 分

フィードバック 毎時間のレッスンの中で、適宜フィードバックを行う。

成績評価 毎回の授業に向かう姿勢（40％） 発表会での演奏の内容（60％）

テキスト 深海さとみ著『箏エチュード』 邦楽ジャーナル
必要な楽譜はプリントを配付する。

オフィスアワー 講義の前後の時間で行う。

備考 できれば、箏爪を購入することが望ましい。購入希望者には、始めのレッスン時にサイズに合わせた爪をつくり販売できるようにする。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	☑	☑	☐	☐	☑	☐	☐	☐	☑	☐	☐	☑	☑	☐	☑	

※音楽療法士養成に関する科目

科目コード：THE201

形態：実習 単位数：1 単位

到達目標	音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。
------	--

第1回	ビデオ観察方法と記録の取り方	事前 参考資料を配布。読む。	140 分
		事後 授業中に観たビデオを記録したものをきちんとした形に書き直す。	140 分
第2回	第1回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 前回のビデオの取り方を復習する。	140 分
		事後 第1回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりを見直す。	140 分
第3回	第2回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 先読みの仕方、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分
第4回	第2回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。	140 分
		事後 第2回実習のビデオを記録したものを基に活動やピアノ伴奏について見直す。	140 分
第5回	第3回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノの弾き方などについて復習。	140 分
第6回	第3回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備。	140 分
		事後 第3回実習のビデオを記録したものを基に活動や関わりについて見直す。	140 分
第7回	第4回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分
第8回	第4回高齢者施設での実習のビデオを観る	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 第4回実習のビデオを記録したものを基に関わり方やピアノ伴奏について見直す。	140 分
第9回	第5回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分
第10回	第5回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 第5回実習のビデオを記録したものを基にリーダーの役割、関わり方について見直す。	140 分
第11回	第6回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、活動について復習。	140 分
第12回	第6回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 第6回実習のビデオを記録したものを基にピアノ伴奏、関わり方について見直す。	140 分
第13回	第7回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、リーダーの役割について復習。	140 分
第14回	第7回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 第7回実習のビデオを記録したものを基に歌唱、ピアノ伴奏について見直す。	140 分
第15回	第8回高齢者施設での実習準備	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
		事後 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、関わり方について復習。	140 分

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

アクティブ・ラーニング 実習で撮ったビデオを観たあと、反省点や良かった点を出し合う。

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽療法総合演習-2
※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世		科目コード：THE202
専門／学年：全専門／2 年次		
形態：演習	単位数：1 単位	
概要	音楽療法実践において重要な事は、対象者とセラピストとそして音楽がどのように係わって良い時間を作っていくかである。また、音楽療法において対象者の行動が良い方向に変化していつているかも正しい視点で判断しなければならない。このような正しい視点を総合的に高めることが本科目の目的である。	
到達目標	音楽療法総合演習では、実践の前段階として実習時やテキストに出て来る事例のビデオ等を使用しながら、セラピストの音楽の提供の仕方、対象者への対応の仕方、さらに対象者の動き、表情、音楽に対する反応、楽器の使い方などを客観的に観察する力を養うことを目標とする。	
授業計画	児童の音楽療法実践のビデオを見ながら客観的にセラピストと対象者について観察する。	

第 1 回	第 8 回高齢者施設での実習のビデオを観る。	事前 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カードの読み方の練習。	140 分
第 2 回	実習のまとめ	事後 第 8 回実習のビデオを記録したものを基に関わり方について見直す。	140 分
第 3 回	「応用行動分析学的アプローチ」の参考資料を配布	事前 参考資料を読む。	140 分
第 4 回	「応用行動分析学アプローチ」とは	事後 ビデオ記録の不備の部分を訂正し、提出。	140 分
第 5 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例①「こだわりの強い子の場合」	事前 「応用行動分析学的アプローチ」のポイントを書きだす。	140 分
第 6 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例②「聴覚過敏の子の場合」	事後 参考資料から「応用行動分析学的アプローチの特徴」を書きだす。	140 分
第 7 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」	事後 社会的行動と音楽行動をノートにまとめる。	140 分
第 8 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例④「初めての場面で苦手な子の場合」	事前 事例①「こだわりの強い子の場合」を読む。	140 分
第 9 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑤「集中が短く、多動の子の場合」	事後 この事例から分かったことや疑問などをノートに書きだす。	140 分
第 10 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑥「周囲にある刺激に注意が向かない子の場合」	事前 事例②「聴覚過敏の子の場合」を読む。	140 分
第 11 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑦「拒否や逃避のための不適切なコミュニケーションが多い子の場合」	事後 この事例から分かったことや疑問点などをノートに書きだす。	140 分
第 12 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑧「コミュニケーションを取るのが難しい子の場合」	事前 事例③「注意欠陥多動症候群の子の場合」を読む。	140 分
第 13 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑨「興味の範囲が狭く、人との関わりが取りにくい子の場合」	事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
第 14 回	「応用行動分析学アプローチ」より事例⑩⑪「模倣が苦手な子の場合」「自発性が低く、自傷行動のある子の場合」	事前 事例④「初めての場面で苦手な子の場合」を読む。	140 分
第 15 回	授業のまとめ 試験	事後 この事例から分かったこと、疑問点などをノートに書きだす。	140 分
		事前 高年齢者・児童の事例を復習。	140 分
		事後 試験の振り返り。	140 分

フィードバック 提出した実習記録及び事例に関するノートについて、コメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価 試験 60％、積極的な発言 20％、記録の提出 20％

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室または E メールにて対応 akynkym@aioros.ocn.ne.jp

アクティブ・ラーニング 実習で撮ったビデオを観たあと、反省点や良かった点を出し合う。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☒	☐

音楽療法実習（事前指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師 中山晶世		科目コード：THE105
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：実習	単位数：実習・事前指導・事後指導で 3 単位	
概要	音楽療法実習及び介護実習を行うに当たって心がけなければならない事について学ぶ。また、音楽療法実習及び介護実習の目的や内容について理解する。	
到達目標	実習の準備として、実習の心得・実習施設についての領域及び内容、障害や病気についての知識を学ぶ。音楽面では、模擬セッションを通して、使用する曲の楽器奏法また対象者に合わせる楽器奏法を学ぶ。	
授業計画	各音楽療法実習場面・介護実習場면을把握し、実習に備える。	

第 1 回	音楽療法実習・介護実習を行なうに当たっての心得	事前	参考資料配布。読む。	130 分
		事後	実習に関する心得について復習する。	140 分
第 2 回	音楽療法実習施設・介護実習施設の説明 今年度の音楽療法実習・介護実習の時間	事前	参考資料を配布。読む。	130 分
		事後	実習に行く施設、時間数、時期、回数を把握しノートに記入。	140 分
第 3 回	音楽療法実習マニュアルノート配布 各実習施設の注意事項	事前	マニュアルノートを読む。	130 分
		事後	施設名一覧、注意事項、音楽療法実習日誌、介護実習日誌について把握する。	140 分
第 4 回	介護実習日誌の書き方指導 日誌提出についての指導	事前	介護実習日誌を読む。	130 分
		事後	授業で車椅子体験し、それを介護実習日誌に記入し、提出。	140 分
第 5 回	音楽療法実習日誌の書き方を指導	事前	音楽療法実習日誌を読む。	130 分
		事後	授業中、音楽療法のビデオを観て、それを音楽療法実習日誌に記入し、提出。	140 分
第 6 回	ビデオの撮り方指導	事前	参考資料配布。読む。	130 分
		事後	授業中、実際の音楽療法場面を観て、ビデオの撮り方を把握したことを書きだす。	140 分
第 7 回	「高齢者の音楽療法」	事前	参考資料配布。読む。	130 分
		事後	高齢者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 8 回	「発達障害者の音楽療法」	事前	参考資料配布。読む。	130 分
		事後	発達障害者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 9 回	「精神科の音楽療法」	事前	参考資料配布。読む。	130 分
		事後	精神科患者の特性、音楽療法の活動、プログラムの立て方、注意事項等についてノートに書きだす。	140 分
第 10 回	実習施設(高齢者)クリスマスコンサート計画・準備	事前	クリスマスコンサートのプログラムを各自考える。	130 分
		事後	演奏者は練習。司会者は準備。	140 分
第 11 回	実習施設(幼児)クリスマスコンサート計画・準備	事前	クリスマスコンサートのプログラムを各自考える。	130 分
		事後	演奏者は練習。司会者は準備。	140 分
第 12 回	高齢者施設での実習準備・歌唱練習・ピアノ伴奏・リーダー役練習	事前	自分で決めた曲のピアノ練習。	130 分
		事後	各自、ピアノ練習、歌唱練習。	140 分
第 13 回	高齢者施設での実習準備・前回と役割を替えて行なう	事前	ピアノ練習、歌唱練習。	130 分
		事後	ピアノ練習、歌唱練習。	140 分
第 14 回	高齢者施設での実習準備・ピアノ伴奏を中心に。	事前	ピアノ伴奏練習。	130 分
		事後	ピアノ伴奏練習(移調、伴奏形の工夫)。	140 分
第 15 回	授業まとめ 理解度確認テスト	事前	事前指導授業で学んだことを復習する。	130 分
		事後	理解度確認テストの振り返り。	140 分

フィードバック 日誌等の提出及び実習準備のピアノ等の課題について、コメントを付け学修成果をフィードバックする。

成績評価 理解度確認テスト 50%、授業態度 15%、クラス内での協調性 15%、実習準備の課題遂行 20%

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
□	□	☒	☒	☒	☒	□	☒	□	□	☒	☒	☒	□	□	□

音楽療法実習（事後指導）

※音楽療法士養成に関する科目

講師	中山晶世	科目コード：THE106
専門／学年：全専門／2 年次		
形態：実習	単位数：実習・事前指導・事後指導で 3 単位	

概要	1 年次後半より行なってきた音楽療法実習及び介護実習は、引き続き、事後指導の時間を使って高齢者介護施設を訪問し、8 回に亘り、音楽療法実習を行う。学生によって計画し、実施する実習として重要な実習であることを自覚する。誠心誠意利用者様のためにより良い音楽の時間となるよう努力する。
到達目標	終了している音楽療法実習・介護実習・コンサートを振り返るとともに、継続している実習や今後予定している実習がより学びの多い実習となるよう、音楽療法についての理解を深める。さらに疑問点などについて話し合う。

授業計画	実習に備えて、高齢者の音楽療法セッション技術を高める。また、利用者様との触れ合いを体験する。
------	--

第 1 回	第 1 回実習準備	事前 事後	プログラム作成、歌詞カード作成、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌唱練習、ピアノ伴奏	130 分 140 分
第 2 回	第 1 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌詞カード準備、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 3 回	第 2 回実習準備 前回の実習の反省を踏まえて準備する。	事前 事後	プログラム計画。歌唱練習、ピアノ伴奏練習 歌唱練習、ピアノ伴奏練習、次回の実習準備	130 分 140 分
第 4 回	第 2 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 5 回	第 3 回実習準備 利用者様の様子を中心に検討。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 利用者様の椅子の位置、学生の座る位置について考える。	130 分 140 分
第 6 回	第 3 回実習実施。 リーダー・ピアノ C グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 7 回	第 4 回実習準備 リーダーの声、ピアノの音量について検討。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 リーダーの話しの内容、声の大きさ、ピアノの音量について考える。	130 分 140 分
第 8 回	第 4 回実習実施。 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 9 回	第 5 回実習準備 利用者様の対応について検討	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 利用者様の様子を観て、どのように関わればいいのか考える。	130 分 140 分
第 10 回	第 5 回実習実施。 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 11 回	第 6 回実習準備 リーダーの役割、ピアノの役割について考える。	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 音楽療法セッションの中でリーダーはどのようなことが必要か、ピアノは何かが必要か考える。	130 分 140 分
第 12 回	第 6 回実習実施。 リーダー・ピアノ C グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 13 回	第 7 回実習準備 リーダー・ピアノ以外の学生の役割（利用者様の隣に座り、一緒に歌うだけでいいのか）	事前 事後	プログラム計画、歌唱練習、ピアノ伴奏練習 アシスタントとしての学生の役割について考える。	130 分 140 分
第 14 回	第 7 回実習実施 リーダー・ピアノ A グループ	事前 事後	歌唱指導、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入。	130 分 140 分
第 15 回	第 8 回実習実施 リーダー・ピアノ B グループ	事前 事後	歌唱練習、ピアノ伴奏練習、歌詞カード準備 実習日誌記入	130 分 140 分

フィードバック 実習実施後の日誌提出について、コメントをつけて学修成果をフィードバックする。

成績評価 実習での他メンバーとの協調性 40％、歌唱・ピアノ練習への意欲 25％、プログラム計画などの創造性 25％、日誌提出 10％

テキスト 必要に応じてプリントなどを配布する。

オフィスアワー 授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aiores.ocn.ne.jp

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐

音楽科教科教育法

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一	科目コード：SCH101
---------	--------------

専門／学年： 全専門／1 年次

形態：講義 単位数 2 単位

概要 学習指導要領における表現と鑑賞の目的を理解し、教材研究の方法、指導案作成の方法、指導案を具現化するための教育技術について学ぶ。

到達目標 この科目では、授業における実践力を獲得するために表現と鑑賞に関する教材研究の方法、指導案作成の方法、実践的指導方法を習得する。

授業計画		
第 1 回	音楽科教育の理念と目的 学習指導要領の変遷と学力観 歌唱教材の指導法	事前 新中学校学習指導要領音楽編を読んでくる。 160 分
		事後 新中学校学習指導要領解説音楽編をもう一度読み、理解を深める。 110 分
第 2 回	中学校共通教材による歌唱指導と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」における共通歌唱教材を歌っておく。 160 分
		事後 講義で配付した資料を基に共通歌唱教材における深い学びについて自己の考えをまとめる。 110 分
第 3 回	混声合唱の指導と評価の具体	事前 混声合唱「夢の世界を」の教材性について考えておく。 160 分
		事後 混声合唱の指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 4 回	日本の伝統音楽による歌唱指導方法と評価の具体	事前 「勸進帳」より指示された長唄の一節を歌えるようにしておく。 160 分
		事後 伝統音楽の歌唱指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 5 回	楽器指導方法（リコーダー）と評価の具体 情報機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前 事前に指示されたリコーダー曲を吹けるようにしておく。 160 分
		事後 リコーダーの指導と評価について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 6 回	楽器指導方法（電子楽器）と評価の具体 情報機器活用（MIDI、インターネット活用）	事前 事前に配付する電子楽器に関する資料を読んでおく。 160 分
		事後 電子楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 7 回	楽器指導方法（和楽器：箏）と評価の具体	事前 事前に配付する和楽器に関する資料を読んでおく。 160 分
		事後 和楽器の指導と評について、講義で把握した内容の考察を深める。 110 分
第 8 回	創作学習方法（指導要領ア、イ）と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」にある創作教材について理解しておく。 160 分
		事後 講義で配付した資料を基に創作指導と評価について自己の考えをまとめる。 110 分
第 9 回	鑑賞指導方法（知覚・感受と批評）と評価の具体	事前 教科書「中学校の音楽 1」「中学校の音楽 2・3 上、下」から一曲鑑賞教材を選び、聴いておく。 160 分
		事後 講義で配付した資料を基に鑑賞指導における知覚・感受について自己の考えをまとめる。 110 分
第 10 回	鑑賞指導方法（生活や社会における意味）と評価の具体	事前 自己の生活にとって意味のある楽曲を選んでおく。 160 分
		事後 自己が選んだ楽曲の生活や社会における意味を考える。 110 分
第 11 回	教材研究と指導案の作成	事前 学生自身の教材分析から、指導の中心事項を整理しておく。 160 分
		事後 講義内容を踏まえて指導案のアイデアを練り上げる。 110 分
第 12 回	指導案の検討及び優れた授業の条件	事前 指導案のアイデアから、具体的な柱立てをしておく。 160 分
		事後 講義における指導案検討を踏まえ、指導案を練り上げる。 110 分
第 13 回	表現の模擬授業と批評	事前 表現の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 160 分
		事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。 110 分
第 14 回	鑑賞の模擬授業と批評 プレゼンテーション型鑑賞	事前 鑑賞の指導案に基づき発問、指示を具体的に考え練習する。 160 分
		事後 授業批評に基づき、自己の指導を振り返る。 110 分
第 15 回	振り返りとまとめ	事前 優れた授業を支える教育技術について、講義資料を基に考えておく。 160 分
		事後 指導案構成力及び教育技術の習得について今後の見通しをもつ。 110 分

フィードバック 小レポート、模擬授業批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 指導案評価（70％）、模擬授業の評価（10％）、授業への取組（20％）

テキスト 『中学校学習指導要領解説音楽編』『中学生の音楽 1』『中学生の音楽 2・3 上』『中学生の器楽』（教育芸術社）
参考書・参考資料 必要に応じて配付する。

オフィスアワー 別紙周知してあるオフィスアワーにて対応。事前にメールにて相談のこと。

アクティブ・ラーニング 模擬授業とピアレビューにより、教科における実践的指導能力の育成を図る。

備考

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐

教育原理

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

講師 林直美

科目コード：SCH102

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれらの相互の関係を理解する。そして現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。また、学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。さらに学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。最後に、学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取組を理解する。授業は映像教材なども適宜取り入れ、学生には現在進行している教育改革や政策課題についてネット・テレビ・新聞などのメディアから常に情報を収集することを心がけてもらい、それを反映させる形ですすめていく。
到達目標	教育の基本的概念は何か、また、教育理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それがどのように現れてきたのかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのようにして捉えられ、変遷してきたのかを理解する。また、これまでの教育の流れをうけて現代の学校教育に関する制度的・経営的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。そして学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。

授業計画				
第 1 回	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標	事前	テキストの全体に目を通しておく。	100 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	180 分
第 2 回	教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係ー子供・教員・家庭・学校ー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 3 回	家族と社会による教育の歴史	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 4 回	近代教育制度の成立と展開	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 5 回	現代社会における教育課題ー歴史的視点からの考察ー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 6 回	家庭や子供に関わる教育の思想	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 7 回	学校や学習に関わる教育の思想	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 8 回	代表的な教育家の思想	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 9 回	公教育の原理及び理念	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 10 回	公教育制度を構成している教育関係法規	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 11 回	教育制度を支える教育行政の理念と仕組みや諸問題ー例示と討議ー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 12 回	地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 13 回	開かれた学校づくりが進められてきた経緯ー地域との連携を基としてー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 14 回	危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性 ー学校管理下で発生する事件、事故及び災害の実情ー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分
第 15 回	生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題 ー安全管理及び安全教育の両面からの具体的な取り組みー	事前	配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。	140 分
		事後	授業で配布された資料や各自のノートを整理し、ポイントをまとめる。	140 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて添削やコメントで学修効果をフィードバックする。

成績評価 定期試験（70％）、提出物の状況（20％）、授業への姿勢（10％）を目安に総合的に評価する。

テキスト 田中智志・橋本美保監修『教育課程シリーズ 教育の理念・歴史』（2013）一藝社
（テキストの購入については第 1 回の講義において連絡する）
参考書・参考資料等
井藤元『ワークで学ぶ教育学』（2015）ナカニシヤ出版
田嶋一・中野新之佑・福田須美子・狩野浩二著『やさしい教育原理』（2016）有斐閣

オフィスアワー 授業終了後、教室で対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☐	☐	☒

教育史 ※教育職員免許状取得に関わる科目	
講師	林直美
専門／学年：全専門／1 年次	
形態：講義	単位数：2 単位
概要	教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代にいたるまでの教育及び学校の変遷を理解する。そして教育に関する様々な思想、それらと多様な教育理念や実際の教育及び学校との関わりを理解する。さらに社会の状況を理解し、その変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、並びにそれに対応するための教育政策の動向を理解する。
到達目標	教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。その歴史をうけて現代の学校教育に関する社会的事項についての基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。なお、教育に関する制度的・形成的事項や、学校と地域との連携及び学校安全への対応については教育原理で学ぶ。
授業計画	前半では教育の変遷について学び、後半はその歴史を受けて現代の学校教育の成り立ちについて考察する。

第 1 回	オリエンテーションー教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標ー	事前 テキスト『教育の理念・歴史』の全体に目を通しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	100 分 180 分
第 2 回	家族と社会による教育の歴史	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 3 回	家庭や子供に関わる教育の思想と学校や教員の成り立ちとの相互関係	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 4 回	西洋における近代教育制度の成立と課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 5 回	西洋における学校や学習に関わる教育の思想	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 6 回	代表的な教育家の思想（1）ルソー	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 7 回	代表的な教育家の思想（2）ベスタロッチ、フレーベル	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 8 回	日本における近代教育制度の成立と展開	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 9 回	日本における学校や学習に関わる教育の思想	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 10 回	代表的な教育家の思想ー明治・大正期	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 11 回	学校を巡る近年の様々な状況の変化	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 12 回	子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 13 回	近年の教育政策の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 14 回	現代社会における教育課題を歴史的視点から捉える	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 15 回	諸外国の教育事情や教育改革の動向	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントを押さえる。	140 分 100 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 定期試験（70％）、提出物の状況（20％）、授業への姿勢（10％）を目安に総合的に評価する。

テキスト 田中智志・橋本美保監修『教育課程シリーズ 教育の理念・歴史』（2013）一藝社
（テキストの購入については、第 1 回の講義において説明する）
参考書・参考文献等
本田和子『子ども 100 年のエポック』（2000）フレーベル社
森川輝紀・小玉重夫『教育史入門』（2012）放送大学教育振興会

オフィスアワー 授業終了後教室にて対応する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☐	☐	☐	☒	☐	☒	

教職概論

※教育職員免許状取得に関わる科目
※実務経験を持つ教員による授業

小、中学校における管理職等の経験を生かして、教育事象を実践的、理論的に読み解く授業を行う。

教授	内田有一	科目コード：SCH104
専門／学年：	全専門 1 年次	
形態：講義	単位数 2 単位	
概要	到達目標の内容について、講義、討論、小論文等を通して知識を得ると共に、深く考え教職という仕事について理解する。	

到達目標	現代社会における教職の重要性や我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。また公教育の目的と共に進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解する。更に教員に求められる役割や資質能力、服務上・身分上の義務、並びに学校が内外の専門家と連携することや、チーム学校として組織的に対応する重要性を理解する。
------	---

授業計画		
第 1 回	ガイダンス 授業の目的、内容、進め方について 教職の職業的特徴の理解	事前 新聞やネット情報から読みとれる現代の教師像について語ることができるようにする。 160 分 事後 現代の教員を取り巻く環境や課題点について、ディスカッションを基に自分の捉え方をまとめる。 110 分
第 2 回	現代社会における教育の重要性 教員の存在意義と公教育の目的	事前 教員の存在意義について、自己の経験を求めて自分の考えをまとめる。 160 分 事後 教員の使命と役割について、ディスカッションをもとに、公教育の目的について考え、まとめる。 110 分
第 3 回	学習指導要領の変遷と新学習指導要領 今日の我が国の学校教育の意義	事前 学習指導要領総則を読んでおく。 160 分 事後 学習指導要領と学力観の関係について、考察する。 110 分
第 4 回	チーム学校の概念と具体	事前 事前に配付する中教審資料におけるチーム学校に関する箇所を読み、概要を把握する。 160 分 事後 チーム学校の具体について講義を通して理解した内容をまとめる。 110 分
第 5 回	いじめ等生徒指導における組織的取組 講義と討論	事前 事前に配付された生徒指導についての資料を読み、課題問題に取り組む。 160 分 事後 討論を通して理解を深めたことを、いじめ防止の視点からまとめる。 110 分
第 6 回	発達障害を有する児童・生徒への組織的対応 講義と討論	事前 事前に配付された生徒指導についての資料を読み、課題問題に取り組む。 160 分 事後 討論を通して理解を深めたことを、インクルーシブ教育の視点からまとめる。 110 分
第 7 回	主体的・対話的・深い学びを具現化するための教師としての資質・能力	事前 中教審の資料から主体的・対話的・深い学びの箇所を読み、概要を把握する。 160 分 事後 講義で理解したことを、カリキュラムマネジメントと関連させてまとめる。 110 分
第 8 回	専門家との連携 教師のマネジメント力	事前 事前に配付する資料から、専門家との連携に関して概要を理解する。 160 分 事後 講義で理解したことを、チーム学校と関連させてまとめる。 110 分
第 9 回	地域との連携 地域の中の学校として果たす役割	事前 事前に配付する資料から、地域との連携に関して概要を理解する。 160 分 事後 講義で理解したことを、コミュニティスクールの視点からまとめる。 110 分
第 10 回	教員の服務上・身分上の義務 教育法規に照らして事例を検証	事前 前時に配布された、服務事故の事例を読み、どこに問題があるのかを考えてくる。 160 分 事後 教員採用試験の過去問題の中から、教員の服務と身分についての問題をマスターする。 110 分
第 11 回	教員の職務の全体像と、教員として必要な基礎的な資質能力の理解	事前 事前に配付する資料から、コンプライアンスに関して概要を理解する。 160 分 事後 講義で理解したことを、コンプライアンスの視点からまとめる。 110 分
第 12 回	保健安全教育 一生活安全・交通安全・災害安全・保健一	事前 事前に配付された安全教育についての資料を読み、課題問題に取り組む。 160 分 事後 安全プログラムに関して、講義で指示された課題に取り組む。 110 分
第 13 回	教員研修の意義と制度上の位置付け、並びに専門職としての責任	事前 東京都教育委員会のホームページを開き、どのような教員研修があるのかを調べる。 160 分 事後 なぜ、教員の研修が重要であるのかを、ディスカッションを基に自分の考えをまとめる。 110 分
第 14 回	学校事故と安全管理、危機管理 学修の振り返りと小論文	事前 事前に配布された危機管理の資料を読み、課題問題に取り組む。 160 分 事後 学校事故と危機管理についてまとめる 110 分
第 15 回	生徒から、保護者から、地域から信頼される教師像。小論文の振り返りとまとめ	事前 自己の小論文を基に口頭発表の準備を行う。 160 分 事後 振り返りを通して、教員としての資質向上の見通しをもつ。 110 分

フィードバック	レポート、小論文の批評を通して学修者にフィードバックする。
---------	-------------------------------

成績評価	授業中の発言（10％） レポート（30％） 小論文（60％）
------	--------------------------------

テキスト	学習指導要領解説 毎回テキスト資料を作成し配布 参考書・参考資料 中央教育審議会答申 教育委員会が作成した冊子、パンフレット等
------	--

オフィスアワー	別紙にて周知してあるオフィスアワーにて対応。事前に E メールで相談のこと。
---------	--

アクティブ・ラーニング	具体的な事例を基に、議論による課題解決の過程を通して、教職科目の概念的知識の獲得を行う。
-------------	--

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

教育心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目

大学特任教授 星野悦子

科目コード：SCH105

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	教育心理学とは、教育の諸問題について心理学的に研究し、その研究成果から得られた有益な知見や技術を、教育活動に提供する科学である。本授業では、現在の教育心理学が取り組んでいる主要な問題について、それを裏付けている心理学的知識の解説を施しながら学習と理解を深め、教育実践への手がかりを提供する。教育に関係する専門的内容の理解をはかると共に、幼児・児童・生徒の発達の様相、および人の生涯発達、生涯学習についても学ぶことで教育者をめざす学生の視野を広げる機会としたい。
到達目標	幼児・児童・生徒の心身発達の代表的な理論、ならびに学習理論を二つの大きな柱とし、他にも学びのスタイルや効果的学習法、学習意欲や人格・個性の発達に関する基礎知識も身につける。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション～教育心理学とはなにか～	事前 教科書まえがきを読む 事後 授業ノートを見直しておく	20 分 60 分
第 2 回	教育の新しい動向、および発達における素質と環境	事前 教科書第 1 章の前半を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 3 回	発達の理論 (1) ピアジェの認知発達モデル	事前 プリント 1 と教科書第 1 章後半を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 4 回	発達の理論 (2) エリクソンの心理社会的発達モデル	事前 教科書第 2 章の前半 P.20 までを読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 5 回	人間の発達の概要：乳児期、幼児期	事前 教科書第 2 章の p.24 以降を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 6 回	人間の発達の概要：児童期、青年期	事前 教科書第 2 章の全体を見直す 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 7 回	人間の発達の概要：成人期（前期・中期・後期）	事前 プリント 2 前半を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 8 回	中学生、高校生の心理と指導	事前 プリント 2 後半を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 9 回	学ぶということ (1) 学習の原理・理論	事前 教科書第 3 章の第 1 節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 10 回	学ぶということ (2) 連合学習理論～条件づけ～	事前 教科書第 3 章第 2 節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 11 回	学ぶということ (3) 認知論的学習理論～知識を学ぶ～	事前 教科書第 3 章第 3 節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 12 回	学ぶ意欲～動機づけ理論とその教育への応用～	事前 教科書第 3 章前半を見直す。 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 13 回	学びのスタイル～学習の個人差～	事前 教科書第 3 章第 4 節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 14 回	効果的に学ぶために～様々な学習方法～	事前 教科書第 3 章第 5 節を読む 事後 授業ノートの復習	40 分 60 分
第 15 回	まとめ～授業全体の総括～	事前 教科書第 4 章前半を読む 事後 試験の振り返りと自分の解答の正否確認	60 分 40 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 受講態度と試験の成績を総合しておこなう。定期試験 70％、授業態度 30％。

テキスト 滝沢武久編著『はじめての教育心理学』（八千代出版）
その他、必要に応じてプリントを配布する。

オフィスアワー 授業終了後、教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 人間の子どもの時期は他の動物に比べて長い。「学ぶため」に長い子ども期を与えられているのだ。人間の発達過程と学習する心の仕組みを知り、生涯を通じた「学びを支える教育」について考える機会にしたい。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☐	☐	☐	☐	☒

発達心理学

※教育職員免許状取得に関わる科目 ※音楽療法士養成に関する科目

大学特任教授 星野悦子 科目コード：SCH106

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：2 単位
概要	発達とは、固体が受胎から成熟して死に至るまで、その内的心理的傾向（能力、性格等）がどのように変化するかを指す。発達心理学は、まずこうした事象を客観的に記述していきながら、同時に、自ら人間をどのように教育すればよいかという実践的問題とも関連をもつ。授業の目標は、発達の基礎原理を理解しながら人の生涯発達についての全体像を把握する。
到達目標	1）幼児児童、及び生徒の心身の発達の過程、およびその特徴を理解する。 2）乳幼児から青年期の各時期における身体・運動機能の発達、言語発達、認知（思考）の発達、感情の発達、社会性の発達について、具体的な内容を理解する。

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション：発達とはなにか	事前 教科書はじめにを読む 事後 授業ノートを見直しておく 20 分 60 分
第 2 回	発達の定義と原理	事前 プリント 1 を読んで復習 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 3 回	発達心理学の歴史と先駆者たち	事前 教科書第 1 部「発達の基礎理論」24～33 ページまでを読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 4 回	生涯発達の概要：乳児期・幼児期	事前 教科書第 1 部「生涯発達」34～35 ページまでを読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 5 回	生涯発達の概要：児童期・青年期	事前 プリント 2 を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 6 回	遺伝と環境	事前 教科書 3 6～4 1 ページを読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 7 回	感覚・知覚の発達	事前 教科書第 2 部 6 0～6 9 ページを読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 8 回	認知・記憶の発達	事前 プリント 3 を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 9 回	言語の発達（1）言語獲得の前提	事前 教科書 1 1 4～1 1 5 ページを読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 140 分
第 10 回	言語の発達（2）言語獲得のプロセス	事前 プリント 4 を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 11 回	思考の発達（1）：ピアジェ理論	事前 プリント 5 を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 12 回	思考の発達（2）：その他の理論	事前 教科書 106～1 0 7 ページを読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 13 回	感情の発達（1）感情の知覚と理解	事前 教科書 7 4～8 4 ページを読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 14 回	感情の発達（2）感情の表出	事前 プリント 6 を読む 事後 授業ノートを見直しておく 40 分 60 分
第 15 回	社会性の発達およびまとめ	事前 授業ノートを見直しておく 事後 試験の解答を自分で確認・振り返る 80 分 20 分

フィードバック 授業での課題・ミニレポートなどについて添削・コメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 期末試験の成績と受講態度を総合しておこなう。試験成績 7 0 %、受講態度 3 0 %。

テキスト 小野寺敦子著『手にとるように発達心理学がわかる本』（かんき出版）

オフィスアワー 授業後、教室にて、および指定曜日に研究室にて対応する。

備考 人間や発達に関心を持ち、人の一生を考え、先人の考えを踏まえつつ勉強していきたい学生さんの参加を歓迎します。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☐	☒

特別支援教育

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師	中山晶世	科目コード：SCH107
----	------	--------------

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義	単位数：1 単位
-------	----------

概要	特別支援を必要としている生徒が、特別支援教育の制度の中でどのように達成感を持ちながら学習活動に参加していくことが望ましいか、模擬授業を進めながら考える。
----	--

到達目標	発達障害の特性、また、障害でないが生活環境における困難(多様な言語・経済的基盤等)について基礎的な知識を身につけ、支援方法を理解する。
------	---

授業計画	発達障害等の知識を高めるとともに、特別支援教育への理解を深め、模擬授業を通して生徒たちが達成感のある学習ができるよう、積極的なディスカッションを展開し、理解を深める。
------	---

第 1 回	発達障害や軽度知的障害のある生徒の心身の発達及び心理的特性の理解。10 分間試験。	事前 テキスト第 3 章 p.59～76 を読む。 事後 幼・小・中・高校における特別支援教育での生徒の心身の発達を書きだす。	140 分 140 分
第 2 回	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む障害の特性の理解。10 分間試験。	事前 テキスト第 4 章 p.91～125 を読む。 事後 各障害の特性を書きだす。	140 分 140 分
第 3 回	特別の支援を必要としている障害のある生徒の学習上・生活上の困難についての知識を知る。10 分間試験。	事前 テキスト第 5 章 p.127～148 を読む。 事後 家庭との連携及び実施可能な支援について書きだす。	140 分 140 分
第 4 回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解する。10 分間試験。	事前 テキスト第 1 章 p.1～25 を読む。 事後 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築について書きだす。	140 分 140 分
第 5 回	他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。10 分間試験。	事前 テキスト第 1 章 p.25～39 を読む。 事後 実践活用事例を通してどのような関係機関との連携が必要か書きだす。	140 分 140 分
第 6 回	特別の支援を必要としている障害のある生徒が達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができる学習とはどのような授業かディスカッションする。10 分間レポート。	事前 テキスト第 6 章 p.151～170 を読む。 事後 達成感のある授業をするために必要な教員のスキルを書きだす。	140 分 140 分
第 7 回	障害ではないが、生活環境に困難のある生徒が達成感を持てる学習活動を模擬授業の中で行ない、その体験を話しあう。10 分間レポート。	事前 テキスト第 7 章 p.171～190 を読む。 事後 生活環境に困難のある生徒に対する支援にはどのようなものがあるか書きだす。	140 分 140 分
第 8 回	前回行った模擬授業をさらに深く理解するために、架空の個別の教育的ニーズを設定し、模擬授業を行う。その体験を話しあう。10 分間レポート。	事前 テキスト巻末の「文献」から一編を選び、読む。 事後 選んだ文献についてレポートを書き、提出。	140 分 140 分

フィードバック 毎回行う 10 分間試験及びレポートにコメントをつけ、学修成果をフィードバックする。

成績評価	10 分間試験及びレポート 50％	授業態度 25％	ディスカッションや模擬授業への発言・積極性 25％
------	-------------------	----------	---------------------------

テキスト	「特別支援教育総論」(川合紀宗、若松昭彦、牟田口辰己編著、北大路書房)
------	-------------------------------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて対応する。akynkym@aioros.ocn.ne.jp
---------	---

アクティブ・ラーニング	・各授業で特別支援教育に関するその日のテーマを読んだあと、グループに分かれ、そのテーマについてディスカッションし、最後にそのグループの代表がプレゼンする。 ・各授業で特別支援教育に関するその日のテーマを読んだあと、架空の個別指導計画作成、または保護者と関係機関の連携について話し合い、その後、保護者側がわが子の願いの表に記入し、そのあと、関係機関側がそれを元に計画を記入する。
-------------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会、 自然の理解	音楽実技 スキル	音楽基礎 スキル	教養スキル	コミュニケーション スキル	音楽応用 スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・ 分析力	課題発見・ 解決力	自己理解・自 己管理能力	他者理解・ 協働力	主体性・自発 的発信力	グローバルな 視野	社会的責任・ 倫理観	生涯学習 意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☐

教育課程総論

※教育職員免許状取得に関する科目

大学准教授 田中里佳 科目コード：SCH108

専門／学年：全専門／1 年次

形態：講義 単位数：2 単位

概要 本授業では、教育課程の意義や内容、編成について幅広く学ぶ。学習指導要領を適宜参照しつつ、音楽科に引きつけて考えることで、理解を深めていく。

到達目標 教育課程の意義や内容、教育課程編成の方法を学び、学習指導要領に基づいた教育課程の編成、実施、評価に関する基礎的な知識の習得を通して、学校での各実践の位置づけや役割り、カリキュラム・マネジメントの重要性を理解する。

授業計画 音楽科カリキュラムとの関連から講義を行う。各回でテーマを設定し、教育課程とは何か、学習指導要領に基づいてどのように教育過程を編成し、授業の計画、実践を行っていくかなどについて学ぶ。各回の最後には、具体的な課題を設定し、リフレクション・カードや小レポートの執筆を通して個々に考えを深める時間を設ける。

第 1 回	オリエンテーション カリキュラムに関する現代的な課題	事前 カリキュラムや教育課程に関する新聞記事を探し、読んでおく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 2 回	教育課程の意義ならびに教育課程編成の原理と目的	事前 資料を読み、疑問点を把握しておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 3 回	教育課程とカリキュラム	事前 「教育課程」「カリキュラム」という言葉の意味を調べておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 4 回	潜在的カリキュラム	事前 資料を読み、疑問点を把握しておく 事後 討論したり考えたことについて、まとめておく	100 分 180 分
第 5 回	教育課程編成の方針（１）学習指導要領改訂との関わりから	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 6 回	教育課程編成の方針（２）教育課程が社会に果たす機能・役割	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 7 回	教科の原理、内容	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 8 回	教科横断的な教育内容の選択や配列	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 9 回	児童生徒や地域の実態に基づいた教育課程や指導計画の検討	事前 課題について、自分なりの意見をまとめておく 事後 レポートに取り組む	100 分 180 分
第 10 回	評価（１）評価の原理	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 11 回	評価（２）評価の観点	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 12 回	評価（３）評価の方法	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 13 回	カリキュラム・マネジメント（１）意義と重要性	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 14 回	カリキュラム・マネジメント（２）評価との関連から	事前 学習指導要領解説を読んでおく 事後 授業内容をふまえて、学習指導要領解説を再読する	100 分 180 分
第 15 回	授業内容の振り返り、まとめ	事前 課題レポートに取り組む 事後 学習指導要領の変遷と現在の動向から、教育課程の位置付けや意義について考える	180 分 100 分

フィードバック 毎時間後にリフレクション・カードを配布する。そこで挙がった疑問や質問、新たな視点について、次回冒頭で取り上げたり、個別に対応したりして、フィードバックを図る。

成績評価 授業への取り組みと（疑問、質問、考えたことなどについて、積極的に発言したり、リフレクション・カードに記したりしているか）10%、中間課題レポート 45%、最終試験 45%

テキスト：中学校学習指導要領（平成２９年３月告示 文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成３０年３月 文部科学省）
中学校学習指導要領解説 総則編（平成２９年７月 文部科学省）
参考図書：柴田義松・山崎準二 編著（2019）『教育の方法と技術』学文社
その他、適宜授業で紹介する。

オフィスアワー 授業後、教室で随時質問、相談に応じる。必要に応じて、メールで日程を相談した上で個別に対応する。sky_60000886@mail.uenogakuen.ac.jp

備考 1 回目の講義にて、用いるテキストや参考図書、授業の進め方、提出課題について説明するので、必ず出席すること。

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	□	□	☑	□	☑	☑	□	☑	☑	□	☑	□

道徳教育指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

非常勤講師 東風安生

科目コード：SCH109

専門／学年：全専門／1 年次

形態：演習	単位数：2 単位
概要	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及び、その要となる道徳科における指導計画や指導方法として、以下の内容をねらいとする。 1) 道徳教育の指導計画と教育活動全体を通じた指導の必要性を理解する。 2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法（授業展開）を理解する。 3) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用する。 4) 授業のねらいや指導課程を明確に把握して、指導案を作成する。 5) 道徳科の特性を踏まえた、学修評価の在り方を理解する。

到達目標	道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。 1) 道徳の本質や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）を理解し、実践的な指導についての認識を深める。 2) 子どもの心の成長と道徳性の発達についての理解のため、学習指導要領に示された目標及び内容を理解する。
------	---

授業計画		
第 1 回	オリエンテーション 現代社会における道徳教育の求められる課題	事前 小・中学校時代に自分が受けてきた道徳の授業をふりかえりワークシートに記述する 90 分 事後 現代社会において道徳が必要な場面はどこか、または自分は学んできた道徳を活かしたかをワークシートに記述する。 180 分
	現代社会に見る中・高校生の倫理的課題を探る	事前 大学生として、年下の若者の倫理的課題をふりかえりワークシートに記述する。 90 分 事後 教職課程を履修し教師を目指す者として、道徳教育によって彼らの課題をどう解決するかをワークシートに記述する。 180 分
第 2 回	道徳教育の理念と課題：道徳教育の歴史的経緯を基に求められる理念	事前 昭和 33 年の特設道徳に関する歴史的事項についてネットで事前に調べておく。 90 分 事後 「特別の教科 道徳」に至るまでの 60 年間の道徳の歴史について、ワークシートを用いてまとめる。 180 分
	道徳性の形成要因と発達段階における課題と教育的目標	事前 アヴェロンの野生児についてネット等を利用してどのような事件なのか調べておく。 90 分 事後 道徳性とは何かを、具体的に 22 項目の道徳教育の内容項目と関連付けてワークシートにまとめる。 180 分
第 3 回	学校における道徳教育の目標とその内容：道徳性の育成に向けた課題	事前 『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳教育の目標を探して予習しておく。 90 分 事後 『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳教育の目標を家族や友達に説明できるように練習する。180 分
	「特別の教科 道徳」の指導とその内容・教材の分析とその活用：葛藤教材	事前 『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』から道徳科の目標を探して予習しておく。 90 分 事後 『学習指導要領解説 特別の教科道徳編』の道徳科の目標を家族や友達に説明できるように練習する。180 分
第 4 回	「特別の教科 道徳」の教材の分析とその活用：知見教材	事前 事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いて何を教えるか考える。 60 分 事後 道徳科の読み物教材と、国語科の教科書の教材の違いについて自分の言葉で家族や友達に説明できるように練習する。 210 分
第 5 回	感動教材の分析に基づく指導案の構成とねらい（教材：パスと赤ちゃん）	事前 事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。 60 分 事後 教材を用いた道徳の授業において、なぜ学習指導案が必要なのか、どんな項目を記述するか家族や友達に説明できるように練習する。 210 分
	葛藤教材（起承転結）の構成と分析（教材：足袋の季節）	事前 事前に配布する道徳科の教材に目を通し、これを用いてどのように教えるか考える。 30 分 事後 教材分析をして学んだことを用いて、途中でまで仕上げた自分の学習指導案を完成させる。 240 分
第 6 回	葛藤教材の分析に基づく指導案の作成（教材：卒業文集最後の二行）	事前 完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。 60 分 事後 教材分析をして学んだことを用いて、途中でまで仕上げた自分の学習指導案を完成させる。 210 分
	葛藤教材の分析（話し合い）に基づく指導案の作成（教材：二通の手紙）	事前 完成させた道徳科学習指導案について、作成過程での不明な点大変だった点をまとめて発表できるようにしておく。 60 分 事後 教材分析をして学んだことを用いて、途中でまで仕上げた自分の学習指導案を完成させる。 210 分
第 7 回	葛藤教材の分析に基づく模擬授業の実践（教材：一冊のノート）	事前 ネット上に掲載された出身校の道徳教育の全体計画や年間指導計画および道徳に関わる事項を調査して、授業中に仲間に発表できるようにしておく。 240 分 事後 模擬授業をふりかえり、自分たちのグループや仲間のグループの評価を行う。 30 分
	「特別の教科 道徳」における学習指導案の作成・提出（教材：美しい母の顔）	事前 事前に配布した教材について目をとめておくこと。 30 分 事後 教材分析をして学んだことを用いて、途中でまで仕上げた自分の学習指導案を完成させる。 240 分
第 8 回	学校における道徳教育の全体計画と年間指導計画 評価の内容	事前 ネット上に掲載された出身校の道徳教育の全体計画や年間指導計画および道徳に関わる事項を調査して、授業中に仲間に発表できるようにしておく。 60 分 事後 自分自身が学校の校長と想定して、どのような全体計画を作成するか、途中でまで仕上げたものを完成させる。 210 分
	学校・家庭・地域社会の役割と連携：道徳授業地区公開講座の役割	事前 道徳授業公開講座をネット上から調べて、どのような授業中に仲間に説明できるようにしておく。 60 分 事後 道徳地区公開講座のチラシを作成するとした場合、どのようなレイアウトや内容にするか検討し、作成途中のものについて完成させる。できあがったものはプリントアウトして提出する。 210 分

フィードバック	毎回授業の最後に記述するミニットペーパーについて、翌週に到達目標（SBO's）を基準に評価をして返却する。評価「S」十分満足できる 「A」満足できる 「B」ある程度満足できる 「C」不十分である これを点数化して「S」4 点、「A」3 点、「B」2 点、「C」1 点として成績評価に加える。
成績評価	筆記試験（期末）40％ 学習指導案の提出 20％ 模擬授業の実践 10％
テキスト	ミニットペーパー30％（ミニットペーパーをフィードバックした評価について 15 回の中でよい成績のものを 10 回分加点する） 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』（教育出版）平成 30 年 7 月 （3 階の売店にて販売いたします。履修する学生は全員が購入し、必ず授業では持参してください）

オフィスアワー	質問等がある場合は、授業の終了後に教室において対応する。
---------	------------------------------

アクティブ・ラーニング	「特別の教科 道徳」として教科化された道徳は、学生が小・中学校の時代に受けてきた道徳の授業と比べて、どこがどのように異なるのか。この比較を学生自身がするようにして、そのちがいを「自覚」する。そこから道徳が教科化された意義や指導上の留意点、教科書などを 1 5 回の講義で話題にする。
-------------	---

備考	PC を使用する場合がある。
----	----------------

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション能力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一／大学教授 山内雅子		科目コード：SCH110
専門／学年：全専門／1 年次生		
形態：講義	課題解決的な授業展開で講義・演習・討論	単位数：2 単位
概要	到達目標の内容について、様々な中学校の実践事例を検討しながら、講義と討論を通して考察する。	
到達目標	特別活動は、学級活動、生徒会活動、学校行事の三つの内容によって構成されており、特に学級活動は学級担任が指導する。また特別活動と関連した音楽科の指導にあっては学級担任との連携するマネジメントの能力も必要である。特別活動の教育的意義や内容と実践的な指導方法の学びを目標とする。「総合的な学習の時間」の趣旨を理解し、生徒の探究的な学びを実現する教科横断的かつ、地域・専門家等との連携を図った授業計画の構想を練り上げることができるようになる。	
授業計画	毎時間の課題に対して、講義と討論を中心に進める。	

第 1 回	特別活動の教育的意義及び家庭、地域、社会とのつながり	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、目標を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	110 分
第 2 回	特別活動の特質と内容 学級活動・生徒会活動・学校行事	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、内容を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを考察し、まとめる。	110 分
第 3 回	「学校や学級での生活づくり」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、生活づくりの概念を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを自己指導力の視点から考察し、まとめる。	110 分
第 4 回	「学業と進路」のねらいと指導の具体	事前 事前に配付する資料を読み、進路指導の概念を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことをキャリア教育の視点から考察し、まとめる。	110 分
第 5 回	生徒会活動の内容と目標	事前 中学校学習指導要領解説 特別活動編を読み、生徒会活動の概要を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解したことを人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第 6 回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（儀式・文化・健康安全・体育）の具体を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第 7 回	学校行事の特質と種類及びその活動内容（旅行・集遊宿泊行事、勤労生産・奉仕的行事）	事前 事前に配付する資料を読み、学校行事（旅行・宿泊・勤労・奉仕）の具体を理解しておく。	160 分
		事後 講義を通して理解した学校行事の具体を人間形成の視点から考察し、まとめる。	110 分
第 8 回	学級活動の指導案作成	事前 事前に配付する指導案を読み、概要を理解しておく。	160 分
		事後 講義における批評を生かし、指導案を練り上げる。	110 分
第 9 回	『総合的な学習の時間』の趣旨を理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp.1-17 を読んでくる。	160 分
		事後 講義を通して理解した総合的な学習の時間の趣旨をまとめる。	110 分
第 10 回	「探究的な見方・考え方」について、事例を通して理解する	事前 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 pp.103-119 を読んでくる。	160 分
		事後 講義を通して理解した「探究的な見方・考え方」についてまとめる。	110 分
第 11 回	教科横断的な学習の事例を通して、「総合的な学習の時間」を考える	事前 配付資料を基に、横断的な学習の指導事例を検索し、発表する準備をしてくる。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第 12 回	オリンピック・パラリンピック関連の「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 オリンピック・パラリンピック関連の総合的な学習の時間の事例を検索する。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第 13 回	地域や専門家と連携した「総合的な学習の時間」の事例を検討する	事前 地域や専門家と連携した総合的な学習の時間の事例を検索する。	160 分
		事後 関心をもった事例について、その実践の概要と価値を端的にまとめる。	110 分
第 14 回	生徒の「探究的な見方・考え方」を育む「総合的な学習の時間」の指導計画を、グループで検討し、作成する。	事前 取り組んでみたい実践について、概要をまとめてくる。	160 分
		事後 グループで検討した総合的な学習の時間の指導計画を、まとめる。	110 分
第 15 回	グループ毎に、作成した「総合的な学習の時間」の指導計画を発表し、全員で検討する。	事前 授業内でのプレゼンテーションの準備をする。	160 分
		事後 発表と討議を通して学んだ自身のグループの事例を振り返る。学んだことをまとめる。	110 分

フィードバック 討論、模擬授業への批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価	特別活動：理解度確認テスト 70％ 討論、模擬授業への態度 30％
テキスト	総合的な学習の時間：授業での発言、討論への姿勢（30％） 指導計画作成の取り組み（30％） 最終レポート（40％） 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』

参考書・参考資料 講義の際に配付する

オフィスアワー 授業開始前又は授業終了後 教室にて もしくは E メールにて相談の上、対応する。

アクティブ・ラーニング 学級活動におけるロールプレイング、クラス会議の体験学習による経験を通した指導方法の習得

備考

学位授与の方針との関連																
知識・技能・理解			授業を通して修得できる力							意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバル視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☒	☐	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	

教育方法論

※教育職員免許状取得に関わる科目

講師 林直美		科目コード：SCH11
専門／学年：全専門／1 年次		
形態：講義	単位数：2 単位	
概要	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。また、教育の目的に適した指導技術を理解する。そして、情報機器を活用した効果的な授業の展開や、子供達の情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を学び、実際に模擬授業などにおいて体験していく。	
到達目標	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法や教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	

授業計画		
第 1 回	教育方法の基礎的理論と実践	事前 これまでの学校生活において「良い授業」だと感じたものを思い出しておく。 100 分 事後 授業で配布された資料を読んでおく。 180 分
第 2 回	これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方―主体的・対話的で深い学びの実現について―	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 3 回	授業を構成する基礎的な要件について―学級・生徒・教員・教室・教材―（グループワーク）	事前 授業で指示された課題に取り組む。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 4 回	学習評価の基礎的な考え方―学力と教育評価―	事前 授業で指示された課題に取り組む。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 5 回	授業を行う上での基礎的な技術（1）話法・板書について	事前 各自望ましい話し方と板書について考え、必要に応じて調べておく。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 6 回	授業を行う上での基礎的な技術（2）実技	事前 前回の授業をふまえて実際に行う模擬授業の準備をする。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 7 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成（1）目標・内容、学習形態の観点から	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 8 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成（2）教材・教具、授業展開の観点から	事前 学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 9 回	基礎的な学習指導理論を踏まえた学習指導案の作成（3）評価基準の観点から	事前 学習指導案作成に必要な資料を各自で収集しておく。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 10 回	情報機器を活用した効果的な教材等の作成・提示―子供たちの興味・関心を高め、課題を明確につかませ、学習内容を的確にまとめさせるためには―	事前 情報機器の操作方法を調べ、教材作成のための資料を各自で収集しておく。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 11 回	模擬授業（1）情報機器等を使用した学習指導案に基づく授業の実践	事前 これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 12 回	模擬授業（2）実践の評価	事前 これまでの授業を踏まえて実際に行う模擬授業の準備をする。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 13 回	子供たちの情報活用能力を育成するための指導法	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 14 回	特色ある教育方法の事例検討	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 140 分 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。 140 分
第 15 回	学習内容の振り返りとまとめ	事前 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。 200 分 事後 教育実習や学校体験活動などですぐに使えるように、まとめておく。 80 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 レポート（60％）、授業への参画姿勢（40％）グループワーク、模擬授業、学習指導案、提出物の状況、およびレポートにより総合的に評価する。

テキスト 特に指定しない。
参考書・参考資料等
佐藤学『教育の方法』（2010）左右社
秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門改訂版』（2015）有斐閣
田中耕治編『よくわかる授業論』（2017）ミネルヴァ書房
『中学校学習指導要領』（平成 29 年 3 月告示）文部科学省、『高等学校学習指導要領』（平成 30 年 3 月告示）文部科学省
『中学校学習指導要領解説 総則編』（平成 29 年 7 月）文部科学省

オフィスアワー 授業終了後、教室で対応する。

アクティブ・ラーニング 学生主体で対話的で深い学びになるような模擬授業を行う

備考

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発働力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☒	☐	☐	☒	☒	☐	☐	☒	☒	☒	☐	☐	☒	☐	☐	☐

生徒・進路指導論

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授	内田有一／講師	林直美	科目コード：SCH112
専門／学年：全専門／1 年次			
形態：	講義		
	単位数 2 単位		
概要	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動であることを理解する。また、進路指導は、児童及び生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が知識的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動である。それを包含するキャリア教育は、学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。		
到達目標	学校において他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくための実践的指導能力を身に付ける。また、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。		
授業計画	前半は生徒指導について、後半は進路指導・キャリア教育についてワークシートを用いた作業学習を取り入れながら、2 名の教員によるオムニバス形式で授業をすすめる。		

第 1 回	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の機能（担当：内田）	事前 各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導に何があるか思い出す。 事後 生徒指導の 3 機能について自己の考えをまとめる。	100 分 180 分
第 2 回	集団指導・個別指導の方法原理（担当：内田）	事前 生徒指導提要における集団指導・個別指導の内容を読んでおく。 事後 集団指導・個別指導の原理と実践例についてまとめる。	140 分 140 分
第 3 回	生徒指導体制と教育相談体制それぞれの基礎的な考え方（担当：内田）	事前 事前に示された教育相談事例について、教育相談の手だけを考える 事後 模擬授業を通して、「見取る」ことの意味を考察する。	140 分 140 分
第 4 回	学級担任、教科担任その他の校務分掌上の立場や役割並びに学校の指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取り組み（担当：内田）	事前 生徒指導提要における生徒指導の組織的対応について内容を理解しておく。 事後 組織的対応の模擬授業を通して、実践上の課題を考察する。	140 分 140 分
第 5 回	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方ならびに児童及び生徒の自己の存在感が育まれるような場や機会の設定の在り方（担当：内田）	事前 事前に示された事例について、教師としての視点から手だてを考える。 事後 自己存在感を獲得するための手だてについて考察する。	140 分 140 分
第 6 回	校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する主な法令の内容（担当：内田）	事前 生徒指導提要における校則・懲戒・体罰に関わる法令の内容を理解しておく。 事後 校則の意義、体罰と懲戒の違いについて考察する。	140 分 140 分
第 7 回	暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題の対応の視点及び模擬授業（担当：内田）	事前 事前に示した実践事例について手だてを考えて置く 事後 模擬授業を振り返り、アドラーの勇気付け理論から考察する。	140 分 140 分
第 8 回	インターネットや性に関する寛大、児童虐待への対応等の今日的な生徒指導上の課題や専門家や関係機関との連携の在り方（担当：内田）	事前 生徒指導提要におけるインターネット、性の問題を読み、理解しておく。 事後 チーム学校における専門機関との連携について考察する。	140 分 140 分
第 9 回	教育課程における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置付け（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 10 回	学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方（担当：林）	事前 これまでの学校生活でどのような進路指導・キャリア教育を受けてきたか思い出ししておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 11 回	進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携の在り方（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 12 回	職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 13 回	全体指導を行うガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 14 回	生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義、ポートフォリオの活用の在り方（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業内で指示された課題について資料を用いながら取り組む。	140 分 140 分
第 15 回	キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法（担当：林）	事前 配布あるいは指示された資料に目を通し、内容を理解しておく。 事後 授業で配布された資料やノートを整理し、ポイントをまとめておく。	180 分 100 分

フィードバック 授業での課題やレポートについて、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。

成績評価 リアクションペーパー（40％）、レポート（40％）、授業への参加姿勢（20％）を目安として総合的に評価する。

テキスト 文部科学省『生徒指導提要』（2010）教育図書
本間啓二、伊藤清一郎、林尚示『ワークシートで学ぶ生徒指導・進路指導の理論と方法』（2013）アイオーエム（テキストの購入については授業において連絡する）
参考書・参考資料等
林尚示・伊藤秀樹『生徒指導・進路指導—理論と方法（教師のための教育学シリーズ 10）』（2016）学文社
文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』（2011）教育出版

オフィスアワー 授業終了後教室にて対応する。
別途示されている担当教員オフィスアワーにて対応する。

アクティブ・ラーニング ・教育相談におけるロールプレイングを通した、カウンセリング技法の習熟
・グループ・ワーク（キャリア教育を行う際に実践できるグループ・ワークを紹介し、実際行う）

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	□	□	☑	☑	☑	□	☑	☑	□	□	□

教育相談

※教育職員免許状取得に関わる科目

大学教授 石橋明佳	科目コード：SCH113
専門／学年：全専門／1 年次	

形態：講義	単位数 2 単位
概要	生徒を理解し、一人ひとりの個性に応じた支援ができるように、教育相談の目的と方法について理解を深め、基本的な相談スキルを実践的に学習する。主な問題行動への対応を学ぶと共に、適切に教育相談を実践するために、他者と信頼関係を構築する力と問題解決能力を養う。
到達目標	教育相談を実施するために必要な知識や技法、態度を身につける。具体的には①生徒が呈する心身の症状や問題行動の理解、②カウンセリング理論の理解と相談スキルの習得、③教育相談の実施方法の理解、④教師を目指す者として自分自身の課題に気づき、それを克服し自己成長を図ること、を目標とする。

授業計画		
第 1 回	ガイダンス：授業の流れの詳細と受講に関する注意 教育相談とは何か（定義・領域・種類、歴史的変遷、学校における教育相談の特質）	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 140 分
		事後 教育相談を行う教員に求められる基本的意識を検討する 130 分
第 2 回	生徒の発達段階・発達課題を理解する	事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 3 回	生徒の悩み①学習・進路・人間関係・性格等の悩みの特徴と問題解決方法の事例学習	事後 自分自身はどのような発達課題があったのか、現代との共通点・相違点を考察する。 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 4 回	生徒の悩み②性・家族・身体・経済等の悩みの特徴と問題解決方法の事例学習	事後 自分の経験を振り返り、悩みや問題解決方法を分析する 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 5 回	子供の自殺：危険シグナルの発見の仕方と対応	事後 インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 60 分
第 6 回	問題行動（不登校、非行、暴力行為、いじめ）の理解と対応方法の事例学習	事後 インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する 210 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 7 回	生徒のストレスと心の病（精神障害の理解、対応の在り方の事例学習）	事後 授業で扱った事例の対応方法について復習する。 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 8 回	特別支援教育の歴史的変遷とインクルージョン教育の意義	事後 各障害の特徴と教員が気を付けるべき事を復習する 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 9 回	発達障害の理解と支援方法の事例学習（「音楽」指導例を含む）	事後 インターネットなどを利用し、最新のデータを収集する 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 10 回	教員が応用できるカウンセリング理論とカウンセリング・マインド	事後 各障害の特徴と教員が気を付けるべき事を復習する 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 11 回	教員が応用できるカウンセリング技法の理解と習得	事後 理解不足だった部分の復習をする 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 12 回	教育相談の進め方（基本姿勢、展開方法、チェックポイント、保護者の相談）	事後 授業で学んだカウンセリング技法を日常会話等で試してみる。 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 13 回	学校における教育相談活動体制づくりと外部関係諸機関との連携	事後 授業で行ったケーススタディを復習し、実践にどのように繋げるか検討する 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 14 回	良い教員の特性、教員に必要な人間理解力とソーシャル・スキル	事後 授業で行ったケーススタディを復習し、実践にどのように繋げるか検討する 180 分
		事前 テキストの関連ページを読んで理解する 90 分
第 15 回	まとめと講義内容の整理	事後 良い教員になるために今後何を学ぶべきかを検討する 180 分
		事前 テキスト及び自分のノートに目を通し、理解度を確認する 90 分
事後 理解不足だった部分の復習をする 180 分		
フィードバック 課題やレポートは、添削やコメントで学修成果をフィードバックする。		

成績評価	レポート 40%、筆記試験 60% の評価配分を基準とし、受講態度（授業に取り組む姿勢・質疑応答等）を含めて総合的に評価する。
------	---

テキスト	プリント教材『教育相談』（約 700 円）
------	-----------------------

オフィスアワー	授業終了後教室にて、もしくは E メールにて相談の上、対応する sishibashi@uenogakuen.ac.jp
---------	---

アクティブ・ラーニング	・グループ・ディスカッションとプレゼンテーション ・ワークブック ・発見学習（各種新地テストの実施） ・応用（カウンセリング・テクニックを日常会話で使ってみるなど）
-------------	---

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力																
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性							
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識	
☑	□	□	□	☑	□	□	☑	☑	☑	☑	☑	□	□	☑	□	

※教育職員免許状取得に関わる科目

科目コード：SCH203

形態：講義

单位数 5 单位

概要	事前学習では、服務、学習指導案の書き方、教科の指導法等に関する深化を行い、教育実習に向けての資質・能力の向上を図る。事後は実習を通して把握した課題について学修する見通しをもたせる。
----	--

到達目標 短期大学で学んだ教科や教職に関する専門的な知識・理論・技能等を、音楽科授業を始め教育活動全般における実践力を育成すると共に、生徒理解を含め、学校教育の実際を体験的に理解する。また教育者としての愛情と使命感を深め、今後の学修の課題を把握する。

授業計画

第1回	教育実習に臨む心構えと最低限身に付けるべき知識・技能の確認。	事前 事前に配付する実習に関する手引きを読み、概要を把握する。	160 分
		事後 実習にあたっての見通しをまとめることを通して、実践への準備をする。	110 分
第2回	wordを使用して、最新の学習指導案を作成する。(歌唱)	事前 実習協力校から指示されている歌唱教材について分析する。	160 分
		事後 指導案を基に発問、指示を考えておく。	110 分
第3回	wordを使用して、最新の学習指導案を作成する。(器楽)	事前 実習協力校から指示されている器楽教材について分析する。	160 分
		事後 指導案を基に発問、指示を考えておく。	110 分
第4回	wordを使用して、最新の学習指導案を作成する。(創作)	事前 実習協力校から指示されている創作教材について分析する。	160 分
		事後 指導案を基に発問、指示を考えておく。	110 分
第5回	wordを使用して、最新の学習指導案を作成する。(鑑賞)	事前 実習協力校から指示されている鑑賞教材について分析する。	160 分
		事後 指導案を基に発問、指示を考えておく。	110 分
第6回	歌唱の技能を高める指導法の実践	事前 講義で習得した指導方法について再確認する。	160 分
		事後 講義を通して理解した様々な指導方法の意味をまとめ、実践への準備をする。	110 分
第7回	教育実習1週目(指導教官の授業観察と記録、学校経営方針・学校組織体制の理解)	事前 事前に実習校のグランドデザインを読み、学校の教育目標を理解しておく。	160 分
		事後 指導教官の授業から学んだことを考察し、まとめる。	110 分
第8回	教育実習2週目(生徒の実態並びに課題の把握)	事前 生徒の実態を指導教官の指導により把握する。	160 分
		事後 授業実習の振り返りから、課題を見出す。	110 分
第9回	教育実習3週目(学級担任、教科担任の補助的な役割を担う)	事前 学級担任、教科担任の実務を把握しておく。	160 分
		事後 補助的な実務を振り返り、課題を見出す。	110 分
第10回	教育実習を振り返り、学んだこと、考えたこと、今後の課題等について交流し整理する。	事前 実習日誌から学んだこと、課題を整理しておく。	160 分
		事後 講義、討論を通して今後の課題解決のための見通しをもつ。	110 分
第11回	歌唱・器楽の授業の評価について、実際の授業場面を想定して考える。講義と演習。	事前 実習における具体的な歌唱・器楽の授業場면을整理しておく。	160 分
		事後 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	110 分
第12回	鑑賞の授業の評価について、実際の授業場면을想定して考える。講義と演習。	事前 実習における具体的な鑑賞の授業場면을整理しておく。	160 分
		事後 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	110 分
第13回	創作の授業の評価について、実際の授業場면을想定して考える。講義と演習。	事前 実習における具体的な創作の授業場면을整理しておく。	160 分
		事後 講義を通して学んだ視点を生かし、授業分析と評価の具体を検討する。	110 分
第14回	学級担任としての仕事と使命について整理する。体験をもとにまとめ、交流し整理する。	事前 実習における具体的な担任の実務を整理しておく。	160 分
		事後 意見交流を通して学んだことまとめる。	110 分
第15回	振り返りを通して教育実習で把握した課題と今後の学修計画をまとめる。	事前 教育実習日誌を基に、課題を整理する。	160 分
		事後 講義で学んだ視点を生かして、課題解決に向けた見通しをもつ。	110 分

フィードバック 講義における指導案，発表への批評を通して学修者にフィードバックする。

成績評価 学習指導案の内容（10％） 実習校からの評価（70％） 振り返りカード（10％） 授業に臨む姿勢（10％）を評価する。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 実習日誌 教科書（実習先で使用のもの）
参考書・参考資料 「評価標準の作成・評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校・音楽】」（国立教育政策研究所）

別紙にて周知してあるオフィスアワーにて対応。事前に E メールで相談のこと。

アクティブ・ラーニング 協力校における実習を通じた実践的指導能力の獲得

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーションスキル	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑	☑		☑	☑	☑	☑	☑	☑

学校体験活動

教授 内田有一／講師 林直美／大学教授 山内雅子／大学准教授 田中里佳

科目コード：SCH114

対象コース／専門／学年： 1 年次

形態： 複数

単位数： 2 単位

概要 台東区の小中学校において音楽授業や特別活動における補助的な活動を行う。活動を通して学校現場における教育活動への理解を深めるとともに、教育実習に向けた自己理解を図る。

到達目標 児童・生徒との関わりや観察を通して、その実態や課題を把握すると共に、学級担任や教科担任の補助的な役割を担うことができる。また、学級担任及び教科担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。

授業計画		
第 1 回	ガイダンス 学校体験活動の目的と内容と方法。学校体験活動先の調整。	事前 学校体験活動履修カルテを読み、学校体験活動に関する基礎的知識を理解しておく 100 分 事後 配置校及び学校体験活動の目的と方法と内容について整理する。 180 分
第 2 回	学校の学校体験活動に期待すること、学生が学校体験活動を通して身に付けること。	事前 学校教育の現場における学校体験活動の役割について事前に資料を読む 140 分 事後 配置校に電話をし、体験内容や持ち物等について、指示を受け、準備する。 140 分
第 3 回	配置校への学校体験活動 (例) 校長講話 養護教諭の講話 授業参観	事前 学校体験活動への自己の抱負を述べられるよう準備する。 140 分 事後 体験した内容や感じたこと学んだことを履修カルテにまとめる。 140 分
第 4 回	配置校への学校体験活動 (例) 音楽の授業参観 授業支援 学級指導の参観	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 5 回	配置校への学校体験活動 (例) 給食指導、清掃指導、放課後部活指導の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 6 回	配置校への学校体験活動 (例) 教材準備の手伝い、印刷等	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 7 回	配置校への学校体験活動 (例) 用務主事の仕事の体験 学校周りの清掃、植木の手入れ等	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 8 回	配置校への学校体験活動 (例) 保健室の仕事の体験	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 9 回	配置校への学校体験活動 (例) 特別な支援を必要とする児童・生徒の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 10 回	配置校への学校体験活動 (例) 数学・国語・理科・道徳・体育等の授業参観	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 11 回	配置校への学校体験活動 (例) 総合的な学習の時間、特別活動の時間の参観	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 12 回	配置校への学校体験活動 (例) 合唱祭に向けての放課後練習の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 13 回	配置校への学校体験活動 (例) 音楽授業の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 14 回	配置校への学校体験活動 (例) 部活動の支援	事前 体験内容に必要な準備を行う。 140 分 事後 体験活動の振り返りを行い、次時への課題を把握する。 140 分
第 15 回	学校体験活動履修カルテを書き上げ、提出する。	事前 学校体験活動を振り返り、学校体験活動履修カルテを完成させる。 180 分 事後 学校体験活動履修カルテの教員からのレスポンスを読み、課題意識を深める。 100 分
フィードバック	毎回、学校体験活動終了時において振り返りをもとに助言指導を行う。第 9 回に中間発表を行い、助言指導を行う。	

成績評価 学校体験活動履修カルテに明記された 4 つのチェックの実施状況 (50%) 提出した学校体験活動カルテへの記録の内容 (50%)
特記事項がある学生については、台東区教育委員会を通して大学に連絡が入るが、その内容を加味する場合もある。

テキスト 中学校学習指導要領解説 音楽編 (平成 2 9 年 7 月 文部科学省)
作成テキスト (山内雅子著、プリント教材)

オフィスアワー 別途示されている担当教員のオフィスアワーにて対応する。

アクティブ・ラーニング 学校の実務補助体験を通して、教員の職務理解と自己の適性を理解する。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実践スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☐	☒	☐	☐	☒	☐	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☒	☐	☒	☒

音楽授業観察実習

※教育職員免許状取得に関わる科目

教授 内田有一／大学教授 山内雅子 科目コード：SCH115

対象コース／専門／学年： 短期大学部教職課程履修者／1 年次～2 年次

形態：実習 単位数：2 単位

概要 特に優れた音楽授業実践で定評のある音楽教師の授業を参観し、お話しを伺う。参観と授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽科授業の構成や方法について知る。最寄駅で集合して、制服着用で訪問する。事後のレポートあり。

到達目標 この実習では、特に優れた音楽授業実践をしている音楽教師の授業参観と、授業後の協議会を通して、その先生の音楽教育観や教師観を学び取ると共に、具体的な音楽授業の構成や方法を知り、教師を目指す学生が目標とする音楽教師像を明確にもって、日々の学びを更に主体的に深めていくことができるようにすることを目指す。

授業計画 本授業は、不定期集中講義として開講される。新年度に入ってから協力校との交渉で観察日時を決定するためである。

第 1 回	上野学園中学校、高等学校における教育実習生研究授業を観察する。	事前 学習指導案を読み、観察の視点をまとめる。	30 分
		事後 授業観察を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 2 回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 3 回	優れた歌唱指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 4 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後 授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 5 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 6 回	優れた鑑賞指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 7 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後 授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 8 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 9 回	優れた創作指導で定評のある教師の授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 10 回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後 授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 11 回	優れた吹奏楽指導を行う教師に部活経営の話聞き、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 12 回	優れた吹奏楽指導を行う教師の吹奏楽指導参観やその後に聞いた話をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分
第 13 回	特別支援学校の音楽授業を参観する。	事前 ホームページでその学校の教育内容を把握する	30 分
		事後 授業観察と交流を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 14 回	特別支援学校の音楽授業の研究協議会に参加し、学ぶ。	事前 授業を通しての質問事項や、日常的教育活動等について質問事項をまとめる。	30 分
		事後 授業観察と協議会を通して学んだことをレポートにまとめる。	240 分
第 15 回	特別支援学校の音楽授業参観、研究協議会をもとに、授業分析をする。	事前 参加校の音楽授業外での生徒と教師の関わりを観察して、見取ったことをまとめる。	30 分
		事後 参観授業を、研究協議会参加、授業分析をもとに、自分の考えをレポートにまとめる。	240 分

フィードバック 研究協議会での発言について講評すると共に、観察実習後のレポートにコメントを入れて返却する。

成績評価 参観態度（10％） 協議会での発言内容（10％） 事後レポート（80％）

テキスト 協力校が音楽科経営案、学習指導案等を用意。

オフィスアワー 別紙周知されているオフィスアワーにて対応。事前にメールにて相談のこと。

アクティブ・ラーニング 授業参観と検討を通して、実際の授業を分析する能力を向上させる。

備考

学位授与の方針との関連

授業を通して修得できる力															
知識・技能・理解			知識・技能の活用						意欲・経験・多様性						
文化・社会・自然の理解	音楽実技スキル	音楽基礎スキル	教養スキル	コミュニケーション力	音楽応用スキル	論理的思考力	表現力	情報収集・分析力	課題発見・解決力	自己理解・自己管理能力	他者理解・協働力	主体性・自発的発信力	グローバルな視野	社会的責任・倫理観	生涯学習意識
☑	□	□	☑	☑	☑	□	□	□	□	□	☑	□	□	☑	□

科目コード：SLF110

形態：演習

单位数：1 单位

概要	音楽の基礎であり、楽譜の読み書きに必要な楽典を学ぶ。授業内テストを適宜行い、合格点(70点)に達した者から単位認定する。
----	--

到達目標 「和声法」「鍵盤和声」「ソルフェージュ」「楽曲分析」など、音楽基礎科目関係の授業を受講するのに必要な知識を身につけることを目標とする。

授業計画 各回の授業内容は、進度により変更することがある。

第 1 回	(楽典の基礎 a) 音程 (基礎)	事前	楽典の基礎 a の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 a の復習	誤答を解き直す	45 分
第 2 回	(楽典の基礎 b) 音程 (発展)	事前	楽典の基礎 b の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 b の復習	誤答を解き直す	45 分
第 3 回	(楽典の基礎 c) 音階 (基礎)	事前	楽典の基礎 c の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 c の復習	誤答を解き直す	45 分
第 4 回	(楽典の基礎 d) 音階 (発展)	事前	楽典の基礎 d の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 d の復習	誤答を解き直す	45 分
第 5 回	(楽典の基礎 e) 調 (基礎)	事前	楽典の基礎 e の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 e の復習	誤答を解き直す	45 分
第 6 回	(楽典の基礎 f) 調 (発展)	事前	楽典の基礎 f の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 f の復習	誤答を解き直す	45 分
第 7 回	(楽典の基礎 g) 和音 (基礎)	事前	楽典の基礎 g の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 g の復習	誤答を解き直す	45 分
第 8 回	(楽典の基礎 h) 和音 (発展)	事前	楽典の基礎 h の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 h の復習	誤答を解き直す	45 分
第 9 回	(楽典の基礎 i) 調性判断 (基礎)	事前	楽典の基礎 i の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 i の復習	誤答を解き直す	45 分
第 10 回	(楽典の基礎 j) 調性判断 (発展)	事前	楽典の基礎 j の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 j の復習	誤答を解き直す	45 分
第 11 回	(楽典の基礎 k) 移調 (基礎)	事前	楽典の基礎 k の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 k の復習	誤答を解き直す	45 分
第 12 回	(楽典の基礎 l) 移調 (発展)	事前	楽典の基礎 l の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 l の復習	誤答を解き直す	45 分
第 13 回	(楽典の基礎 m) 楽語 (基礎)	事前	楽典の基礎 m の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 m の復習	誤答を解き直す	45 分
第 14 回	(楽典の基礎 n) 楽語 (発展)	事前	楽典の基礎 n の予習	テキストを読む	45 分
		事後	楽典の基礎 n の復習	誤答を解き直す	45 分
第 15 回	まとめ	事前	まとめの予習		45 分
		事後	まとめの復習		45 分

フィードバック	答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。
---------	---------------------------------

成績評価 試験 50%、授業への積極的な取組 50%

テキスト “ 参照資料 ”
『楽典』※出版社自由

オフィスアワー 授業後教室にて

備考

学位授与の方針との関連

[illegible]

准教授 三宅康弘 科目コード：SLF112

形態：演習

フィードバック 答案の返却およびその解説により、学修成果をフィードバックする。

ニヤフ！ 萬葉内花

[illegible]